道具としての英語 基礎の基礎

副島隆彦 編・著

Traveling to The World of Mary Poppins

副島隆彦
（そえじま・たかひこ）

1953年生まれ。早稲田大学法学部卒業。評論家。現在、常葉学園大学助教授。著書に『斬り捨て御免！』（洋泉社）『欠陥英和辞典の研究』（小社刊）『英語で思想を読む』『現代アメリカ政治思想の大研究』『英文法の謎を解く』『続・英文法の謎を解く』（いずれも、筑摩書房）、『属国・日本論』（五月書房）、『政治を哲学する本』（総合法令）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『日本の危機の本質』（講談社）、『アメリカの秘密』（メディアワークス）、『悪の経済学』（祥伝社）、翻訳書として『リバータリアニズム入門』（デイヴィッド・ボウツ著、洋泉社）などがある。

カバーデザイン：HOLON
イラストレーション：藤川秀之
本文・目次レイアウト：S&P

道具としての英語
基礎の基礎

副島隆彦 編・著

宝島社
文　庫

宝島社

基礎がわかれば
英語はむずかしくない!

この本は、英語嫌いのために作られた、まったく新しい考え方にもとづいたテキストです。

ここでいう〝英語嫌い〟とは、根っから英語が嫌いな人のことではありません。英語を身につけようという意欲はあるのに、勉強をはじめたら英語が嫌いになった人、つまり、学校の英語の授業のせいで英語嫌いにさせられた人、そんな人のことを私たちは英語嫌いと呼んでいるのです。

というわけで、この本は、英語を勉強していて英語が嫌いにならないように気をつかって作られているのです。でも、断わっておかなくてはなりませんが、この本はラクチンをして英語が上達する本なんかではありません。英語であれなんであれ、外国語を学習するのは、苦労がつきものです。努力が必要です。ラクして英語が身につくなんて宣伝してある本があったら、そんな本はウソをついていると思って間違いないのです。

そこで、この本のことをもう少し正確にいうと、努力すればそれだけ実力が向上し、しかも英語を勉強するのが楽しくなる本。あるいは、努力が報(むく)われる本ということにな

ります。

もう少し、このテキストについて〝宣伝〟させてもらうことにしましょう。

1 この本は、英語の基礎の基礎について扱っています。いまの学校の英語のカリキュラムでいえば高校1年までに学習する範囲をカヴァーしています。そして、高校1年までの英語の授業を完全に理解してしまえば、英語学習はぐんとラクになります。つまり、英語の基礎が身についたと言えるのです。間違えないでください。この本は、英語の初歩を扱っているのではないのです。初歩と基礎は違うのですから。

というわけで、この本の内容には、少しむずかしいかなと思えるところもあるかもしれませんが、基礎を身につけるためには、やはり、少し苦労してもらわなくてはなりません。しかし、苦労のしがいはある、と私たちは信じています。

2 この本は、P.L.Traversの『メアリー・ポピンズ』をテキストにしています。しかし、『メアリー・ポピンズ』の原作ではなく、それを900語レベルのやさしい単語によって書き直したオックスフォード大学出版局版にもとづいています。したがって、テキストにはむずかしい単語はまず出てきません。しかし、高校まで6年間英語を

勉強してきたとしても、この物語をきちんと読める人は非常に少ないのが現実なのです。単語はやさしいのに英語が読めないという事実、これが私たち日本人の実情なのです。

ということは、つまり、むずかしい単語とかやさしい単語とかが大きな問題なのではない。英語を学習するうえでは、単語の難易度といったこと以上に、いろいろな壁があるのだということになります。

最大の壁はなんといっても、日本語と英語とでは、そもそもコトバのしくみが根本的に違っているのだということです。使用される文字、発音のしかたもひっくるめて、とにかく英語は、日本語とはまったくしくみの違うコトバなのです。だから、私たちは単語のスペリングや意味を一つ一つ理解し覚えなくてはならないし、耳をならす訓練もしなくてはならない。脳ミソだけでなく、口や耳などの身体器官も動員して勉強しなくてはならないのですが、同じように、英語がどういうしくみのコトバなのかということを理解する。つまり、英語文法についても勉強していかなくてはならないのです。

3 ところが、この英語文法がなんともやっかいなもので、学校や英語検定などの試験のほとんどは、この文法の理解の度合いをためすことになっていることもあって、たいがいの人は、英語文法のせいで英語が嫌いになってしまいます。

そこで、英文法なんてものがあるからいけないのだ、あんなものをやめて勉強しよう——などと言う人も出てくるのですが、それは間違っています。そういうわけにはいかないのです。しくみが違うコトバを学ぶには、そのコトバのしくみを理解することが必要だし、それが要するに英語文法なのですから。

だから、この本でも文法について書いてあります。でも、学校の先生たちの説明とは違うところもあります。少なくとも、学校の先生の説明よりずっとわかりやすいし、納得できるはずです。試験で苦しむことも少なくなるはずです。この本に入っている〝基礎の基礎〟の英語文法はぜひマスターしてください。

この本の英語文法の説明は、日本語文法についても配慮しながら、あくまで日本人が英語を勉強するのだ、という立場からなされています。これまでに、そんな本はなかったのです。

[この本の使い方]

この本は、別冊宝島49号『道具としての英語　基礎の基礎』を改訂したものです。改訂にあたって、3章、4章、5章を削除し1章、2章を読みやすくわかりやすいものに大幅に組み替えました。生まれかわった本書を、気楽にお楽しみください。

❶まず、テキストページ左の英文を読む。右ページの訳文は見ないこと。辞書を引いてもよいから、自分の力で読んでみよう。必要なら各用語解説を参考にしてください。

❷おおよその意味がつかめたら、まず原文に忠実に訳してみよう。最初からなめらかな日本語訳にしようとしないこと。文法的に考えて、なぜそう訳せるのか理解できないのに、なめらかな日本語に訳そうとすると、必ず中途半端な訳、つまり、いい加減な訳（誤訳）になってしまう。

❸自分の力で原文に忠実な訳ができたら、テキストの マークの訳文と見くらべてみよう。

❹自分の訳した文と マークのガチガチ訳を見くらべて、自分の誤った部分を、もう一度英文に帰って確かめてみよう。

❺なぜその英文が マークのようになるのかがわかったら、 マークの訳文を読んでみよう。この訳は原文に忠実に訳した日本文をふまえて日本語らしく訳したものだ。 マークの訳文で太い字になっているところは、かなり意訳してあるところだ。[　]（カッコ）のなかに入っている文は、原文には書かれていない、裏に隠れている意味が補ってある。

❻さて、 マークの、日本語としてなめらかな訳になった文章を読んでみて、もう一度、自分の訳した訳文と読みくらべてみる。原文に忠実に訳した訳文がどのようにしてなめらかな日本語に訳されるかを考えてみよう。

❼とくに英文で注意が必要な部分には解説をつけてみた。英文が原文に忠実な訳からなめらかな訳になるまでのしくみが理解できるだろう。

●この本で原文に忠実な訳と日本語としてなめらかな訳を並べたのは、なめらかな訳が訳した人の気分や創作力でつくられたものではないことを、わかってほしかったからです。英語の原文に忠実にとりくむことが、英語を日本語に訳すときのもっとも重要な点であることを、くれぐれも心にとめておいてほしい。英文を左から右にフィーリングで読んでしまうことが英文を誤って読んでしまう大きな原因にもなるのです。

■道具としての英語　基礎の基礎　目次

INTRODUCTION
基礎がわかれば英語はむずかしくない……3

East Wind ［東の風］
風の強いある日、桜の木通りの小さな家に
不思議な保母さんがやってきた……19

①英文を読み解くために
日本語の「て・に・を・は」を身につける……15

②命令文がきたら、必ずyouを補え……25

③be動詞はソコにソレがあるということなんだよ……28

④here, thereは「ここ」「あそこ」ではない……31

⑤ひっくりかえっている文章は元の語順に直せ！……35

⑥桜の木がダンスする。
えっ!?英語的な言いまわし!?……37

⑦either～orを熟語として覚えるな……45

⑧canには三つの意味がある。知ってた？……46

⑨助動詞になりつつある動詞たちneed他……49

⑩知覚動詞は英文のなかで
どんな使われ方をしているのか……69

⑪文頭にくるItは日本人にはよくわからない……70

⑫out ofとfromは
同じ「から」なのに全然ちがう……77

⑬as～asの前のasは副詞、後のasは接続詞……79

⑭「見る」と「見える」では天地の差……81

⑮動作を表わす動詞と
状態を表わす動詞の違い……84

⑯形容詞は名詞を飾るコトバ
副詞は動詞を飾るコトバ……93

⑰疑問形をつくる
疑問副詞の働きを理解しているか？……96

⑱不定詞のほんとうの性格を知れば、
もっと前進できる……100

⑲ifを「もし～ならば」とだけ覚えてはいないか？……112

⑳ofという不思議な前置詞を
理解するのはむずかしい……115

㉑時間の幅を持つ動詞たち、
hold, keep, put, stay……125

㉒letという使役動詞の使い方を覚えよう……131

㉓haveを「持つ」とだけ知っててもダメ……140

㉔whatとは先行詞を食べている関係代名詞……151

㉕これだけは覚えておきたい
重要接続詞の使い方……166

㉖分詞構文はむずかしくない……172

㉗関係代名詞というのは、
二つの文章をつなぐ品詞……185

㉘再帰代名詞は自動詞を他動詞にしてしまう？……209

Laughing Gas［笑いガス］
メアリー・ポピンズの叔父さん、
ウィッグさんの部屋でおこった、笑いガス事件……
天井からウィッグさんがあいさつする——……223

㉙「使役」って何のこと？……232

㉚現在分詞と動名詞、
形は同じなのにどこが違うんだ……236

㉛英語の気取った言い回しだって
スラスラ読める……244

㉜形容詞のmoreと
副詞のmoreの違いがわかる？……252

㉝一見、名詞に見えてしまう副詞たち
home, upstairs, backなど……268

㉞感嘆文のしくみは、こんなにカンタン！……306

㉟thatをどう訳すかでキミの読解力が試される……318

㊱Thank youよりも
You are kindの方が好感がもてる……320

㊲withというコトバは
「して」「で」という言い方を表わす……338

㊳五文型っていったい何なんだろう？……357

㊴動詞の後についた
upやonやoffは前置詞じゃない！……381

文庫版のためのあとがき……397

本文イラストレーション＝藤川秀之

Point 1

英文を読み解くために
日本語の「て、に、を、は」を身につける

英文を日本文に訳すときいちばん大切なことは日本語の助詞「は」「が」「に」「を」「と」「で」をしっかりと訳し出すことです。私たちが学校英語で必ず習う「五文型」理論（これは、C.T.Onions(オニオンス)という学者の考えです）と私たちの日本語の助詞の用法の間に、かなり強固な関係があるからです。「五文型」の考えが教育英語の中で重要視されるのは、日本語のしくみが英語の「五文型」の考え方を採用することによって初めて英語と共通性を持つことが分かっているからです。このことは、私たちが初めに学校で習った逐語訳（直訳）の仕方の中に表われています。学校訳にも一定のルールがあったのです。そして、その学校訳（この本では原文忠実訳/ガチガチ訳と呼ぶことにしました）がしっかりできるようになることがまず、英文を読めるようになるための第一歩なのです。そしてその訓練が十分にできてから意訳（なめらかな訳）へと向かうことができるのです。この本では二つの訳を並べて見ることによって英文が日本文に置き換わる際の法則性の発見ということを主眼に置いてみました。

〈例題 1〉

I like you.

を、私たちは普通「私はあなたが好きだ」とやりますが、正確には「私はあなたを好きだ」となるでしょう。この「を」がやがて「が」になってしまうことに大変な秘密がかくされているのです。

〈例題２〉（本書2-06-A❶）

There was no time to send you a postcard, and ask you
V O O V O
to come another time.
C

〈原文忠実ガチガチ訳〉

あなたにハガキを送るためのの時間とそしてあなたに別の時間に来ることを頼むための時間がなかった。

〈情景把握なめらか訳〉

君にハガキを出して別の日に来てくれるようにと連絡する時間がなかったのだよ。

二つの訳を対比する前に、私たちは、まずどうしても原文忠実訳の方を正確に訳し出せるようにならなければなりません。この努力を抜きにして英語が「できる」ようになることはありえないと思うのです。外国で少年期を過したという特別な体験を持った人でなければ、「日本語という壁」を通り抜けるということはできないでしょう。しかしそういう子供たちは、今度は逆に日本語の方がおかしくなっているようです。つまり、**bilingual**（バイリンガル、二カ国語を自由に使える人）や **polyglot**（ポリグロット、

多国語を自由にできる人）というのはありえないのではないか、とこのごろ私は疑っています。

現在、日本人の同時通訳者として活躍している人々は、ほとんどが、私たちと同じようなふつうの生活環境から出てきて、人の何倍もの努力と苦労をして英語（外国語）を勉強した人たちなのです。

まずこの国ではとにかく英語の勉強は試験勉強として存在しているのだという悲しい現実を直視し引き受ける正直さから始めるしかないのです。

〈例題３〉

Could they call for me in the office today?
　　　　S　V

I want them to take me out for tea.
S　V　　O

It would be very nice for me.
S　　　V　　　C

この例文は文法的にもかなり複雑な構造をしています。皆さんが細かい点までしっかりと理解しているかどうかを検査するのが日本の英語勉強の大きな目標になっているのです。例えば **want them to take me** という箇所をサラリと意訳すると大変な誤まりを犯すことになるということに気づいてください。

原文忠実訳	なめらかな訳
彼らは今日、事務所に私に立ち寄れますか。	子供たちを今日私の会社に寄こしてくれないかな。
私は彼らに私をお茶のために外に連れ出すことを望む。	子供たちが私をお茶にさそうようにしてほしいんだ。
それは私にとって非常によいことでしょう。	その方が私にはいいのだ。

ここでは、二つの訳文（訳は他にも何通りもありえますが）の中の主要な助詞がどう変換したかということを明確にするために両者を線で結んでみました。この相互関連の強さにナルホドと思っていただければ、この本の目的の8割は達成されたのだと私は考えています。

さらに念のために言うと皆さんが「意訳してもいいのですか？」と先生に質問して「やっぱりだめです。きちんと逐(ちく)語訳しなさい」と言われた経験があるとすれば、それは、逐語訳には逐語訳なりの秀れた面があるからです。それは、その逐語訳文からふたたび英語の原文がほぼ再生されるという点があるからです。そして、この本でも決してなめらかな意訳だけが必ずしも良いのではないということはつねに心に留めて置いてください。いい加減な意訳がどんなに危険かということがわかるようになったとき初めて皆さんは、母国語と外国語の異なった世界に橋を架けることができるのです。

風の強いある日、桜の木通りの小さな家に

不思議な保母さんがやって来た

1-01-A

❶ If you want to find Cherry Tree Road, ask the policeman at the corner.

❷ He will listen,slowly touch his nose,and then point his big finger and say,'First to your right,second to your left,then right again,and you're there.Good morning.'

Good morning.

ここを「おはよう」と訳してしまったら意味が通じない。
道案内の最後に付けたされた，あいさつのようなものだから，
「お気をつけて」といった感じ。

❸ And there you will be, right in the middle of Cherry Tree Road.

1-01-B「ガチガチ訳」

❶もしあなたが桜の木通りを捜したいなら、角のところの警官にたずねろ。

❷彼は聞くだろう、ゆっくりと彼の鼻をさわって、そしてそれから彼の大きな指でさして、そして言うだろう。「最初にあなたの右に、二番目にあなたの左に、それから右にもう一度、そして、あなたはあそこにいる。おはよう」

❸そして、あそこにあなたはいるだろう。まさに桜の木通りのまん中に。

1-01-C「なめらか訳」

❶あなたが、桜の木通りはどこだろうとお捜しでしたら、あの角のところにいるおまわりさんにたずねてごらんなさい。

❷おまわりさんは、［あなたの質問に］耳をかたむけ、軽く鼻にさわって、**それから**大きな指で指さし**ながら**、教えてくれるでしょう。「一つ目の角を右、二つ目の角を左、それからもう一度右に、そこがあなたのお捜しのところです。お気をつけて」

❸そして、やがてそのうちに、あなたはそこにたどりつくでしょう。桜の木通りの中ほどに。

❹ The houses run down one side,and the Park runs down the other side.

The houses run down one side,....

run は広い意味を持つ，むずかしい動詞だが，基本としては「動く，動かす」「続く」「なる」の三つぐらいを覚えておけばいい。いちばん初めに「走る」なんて覚えこんでしまうと（ふつう，そうなんだけど），あとがやっかいだ。たとえば，「動く」と「続く」を重ねれば「走る」という意味は導き出せるわけだからね。そうすれば，ここを「家々が走りおり」てしまうなんていう，さっぱりわからない訳をすることもない。家々が「続く」つまり「並んでいる」，そして，公園が「続く」→「広がっている」となるわけだ。

❺ And the cherry trees dance right down the middle.

1-01-B「ガチガチ訳」

❹家たちがひとつの側に走りおり、そして公園がちがう側に走りおりている。

❺そして、桜の木たちが正しい下のまん中で踊っていた。

1-01-C「なめらか訳」

❹通りの片側には家が**並び**、反対側には公園が**広がって**います。

❺そして［通りの途中には］桜の並木がその名のとおりに揺れています。

1-01-D

物語は読者に対する呼びかけのyouから始まる

If you want to find Cherry Tree Road, (1-01-A ❶)

「あなたは，桜の木通りをお捜しですか？」

さあ，この物語のはじまりだ。まずこの英文はこの物語の「観客」である皆さんを，この物語の舞台となるある家庭に運ぶ。その家を捜している「あなた」は読者である皆さんひとりひとりだ。まるで映画撮影のロケーションでクレーン付きの映写機が高角度から接近して来て「あなた」つまり読者である皆さんにズーム・アップ（zoom up）するように。

時代は19世紀中頃，大英帝国が繁栄を極めたビクトリア女王時代，場所はロンドンの山の手の住宅街だ。

そこで「あなた」Youは，おまわりさん（イギリス人はふつう親しみを込めてbobby（ボビー）と呼ぶ）に道をたずねる。「なるほど桜の木通りのお宅をお捜しですか」おまわりさんはちょっとだけ考えてから「あなた」にその通りの方角をていねいにしかし威厳をこめて教えてくれる。ヨーロッパの都市では住宅の住所表示は「何々通り何番地」あるいは「何々広場何番地」というふうになっている。そしてその「番地」は通りの片側ずつが各々の偶数と奇数で並んでいる。つまり17番地の次の18番地の家はちょうど通りに面して向かいにある。そうやって順々に通りの端（はし）から番地がついている。

And there you will be,.... (1-01-A❸)

さて「あなた」は，その通りの中のある家の前に着くことになる。この家はバンクス家the Banks だ。ここから「あなた」の眼は，こんどはこの家の壁を映写機（カメラ・アイ）といっしょに通り抜けてこの家の人々のあわただしい朝の様子をながめることになる。

バンクス家の主人バンクス氏は，銀行勤めの紳士だ。そしてバンクス家は，この通りでは一番小さな家だが，それでも，イギリスの中産階級middle class（ミドル クラス）の家というのはどっしりとしたそれ相応のお金持ちの家なのだ。私たちの日本語の「中流家庭」とはちょっと意味がズレてしまう。

Point 2

命令文がきたら、必ず You を補え

,ask the policeman.

おまわりさんにたずねなさい。

この場合，askが動詞であるとすぐにピンときたら，すかさず，その前にYouを補うのです。つまり，You ask the policeman.「あなたはおまわりさんにたずねる」というふうにキチンとした元の文章に戻す癖をつけるようにしましょう。そうでないと，いつまでたっても，命令形の文章が見分けられるようになりません。このことは英文を正しく読み取ろうとする訓練の第一歩なのです。

そしてYou を補った後に，心の中で，「おまわりさんに

たずねろ！」というように，きびしい命令口調で，つぶやいてみるのです。これで「命令形の文」と友だちになれましたね。

①		Use your head!（自分の頭で考えろ！）
	You	use your head!（自分で考えろ！）
②		Get up!（起きろ）
	You	get up!（起きろ）
③		Come home!（家に帰って来い）
	You	come home!（家に帰って来い）

このテキストの中にもたくさんの命令形の文（文法的に正しく言うと命令法といいますが）があります。その文章の頭にどんどんYou を書き込んでいきましょう。

このように，英文には必ず主語がある，というのが大原則です。ということは命令形の文というのは，主語のない文という形をした表現法であるわけです。このことを逆に言うと，私たちが英文を読んでいて，主語のない文で唐突に動詞から始まっているような文に出会ったら，それは命令形の文なのだ，と考えればいいわけです。そのように信じて99% まちがいないのです。

ところが，例外というものは必ずあります。コトバの使い方という，たいへん人間くさい世界には例外があるのです。それは，私たちがあまりによく知っている二つの言い方の中にあります。そのひとつは，

Thank you.（ありがとう）

という文です。（これだけで立派に文なのですよ）これは，本来は，

I thank you.（私はあなたに感謝する）

であるわけです。この場合は，命令形の文ではないので，頭にYou を補うことはできません。どうしても I（私は）でなければなりません。

そしてもうひとつは，

See you again.（さようなら）

これも，もともとは，

I see you again.

（また，お会いしましょう）

なのです。これも I（私は）が省略された形なのです。主語が省かれているのに命令法でない用法は，極めてまれですし，ちょっと気づく範囲では上の二つぐらいですので，これ以外は，すべて主語You が省略されているのだ，と考えてまちがいないでしょう。

Point 3

be動詞はソコにソレがあるということなんだよ

...and you are there.

そうしたら，あなたは，そこに着いていますよ。

You are there.の are つまり be動詞について考えてみましょう。

I am.

You are.

He is.

We are.

They are.

これらのうちのどれで考えてもいいのですが，とりあえず，ここでは，He is.でやってみましょう。

①He is.（彼はいる）

②He is ｜ in the room.
（彼は部屋にいる）

③He is ｜ in the chair.
（彼はイスに座っている）

④He is ｜ at the desk.
（彼は机に向かっている）

⑤He is | in the dark.
（彼は暗やみの中にいる）
⑥He is | in (the) bed.
（彼はベッドのなかにいる）
→（彼は寝ている）
⑦He is | at the window.
（彼は窓のそばにいる）
⑧He is | in spectacles.
（彼はメガネをかけている）
⑨He is | in trouble.
（彼はトラブルのなかにいる）
→（彼は悩んでいる）
⑩He is | in love.
（彼は恋をしている）
⑪He is | in good health.
（彼は良い健康状態だ）
⑫He is (dresses) | in black.
（彼は喪服を着ている）
⑬He is | in.（彼はナウい）
(He is inthing.)（彼はナウい）

（このinは，私たちが何気なく使っているナウいというコトバに相当します。他にもHe is **with it**. これもナウいです。このinやwithはもはや前置詞ではなくて，副詞なのです。前置詞と副詞はよく似ているのに，どうちがうのかについては，ポイント39を読んで下さい。p.381）

このように，He is + in（onでもwithでもforでも何で

もいいのですが）という形で考えてみると，逆に，He is の is というコトバの働きが，わかってきますね。つまり，この is というのは，「存在」（在るということ）を表わしているのです。彼が居る，ということ，たったそれだけのことを表わしているのです。このことに気づくと，英語のなりたちということが，少しずつ，わかってきますよ。

そうすると

He is **good**.	（彼はいい）	形容詞
He is **smiling**.	（彼は笑っている）	現在分詞 現在進行形の文
He is **killed**.	（彼は殺された）	過去分詞 受動態の文
He is **a boy**.	（彼は少年です）	名詞
He is **upstairs**.	（彼は2階にいる）	副詞

というような，他の形になった場合でも，実は，はじめの例文と全部おなじようなしくみをしていることがわかってくるのです。「現在分詞」や「過去分詞」というなんだかとってもむずかしそうな品詞についても，ここから理解の糸口をつかんで下さい。

このようなHe is... の型の文章を，「文型」という基本的な考え方の面から見つめてみると，すべて，第2文型（S＋V＋C）というふうに考えることができるのです。

Point 4

here, there は「ここ」「あそこ」ではない

hereとthereというコトバの中には、
場所を指し示すatやinやtoの意味が含まれる。
だからhereとthereは「ここに」、「あそこに」なのだ。

...and you are there.

は,「そうしたら, あなたは, そこに着いていますよ」と訳すのが正確な訳です。

さて,

You are there.
（あなたは, あそこにいる）
I am there.
（私はあそこにいる）
He is there.
（彼はあそこにいる）

のthere という語のしくみはどうなっているのかをここで, 考えてみましょう。

その前に,

I go to school.（私は学校に行く）
I go to the park.（私は公園に行く）

この二つの例文の場所を示している部分をthere という語で置き換えてみましょう。

そうすると，どちらも，

I go **to school.**

I go **there**（私は**そこに**行く）

I go **to the park.**

I go **there**（私は**そこに**行く）

という形になりますね。このthere「そこに」というコトバは，go to の to を食べてしまって内部に含んでしまっている語なのです。だから，ただの「学校」とか「公園」だけを代名しているのではないのです。前置詞の to の分までも代理しているわけです。このことは，英文のしくみを考える上でたいへん，重要な点です。

だから，初めの，You are there.も，You are **in the street.**（あなたは道にいる）とかYou are **at Tokyo.**（あなたは東京にいる）のように具体的に場所を示すことができるわけです。その場合も in や at という前置詞を there が含んでいることを忘れてはいけません。これらの文の are（be動詞）は，

You **arrive** at the street.

（あなたは道につく）

You **live** in the house.

（あなたは家に住む）

You **come** to the house.

（あなたは家に来る）

You **go** to the place.

（あなたはその場所に行く）

のように，他の一般動詞に置き換えて考えることもできる

のですね。

　このように，there（あるいはhere）というコトバは，

　I am **there.**（私はそこにいる）

　I am **in the place.**（私はその場所にいる）

というふうに，まとめて考えることができるのです。したがって，

　here = in **this** place

　there = in **that** place

なのです。つまりこのhereとthere は，たった一語ですが，副詞という品詞なのです。（副詞についてはポイント[16] p.93を参考にして下さい）

　そしてこのhere，there と対等の関係にあるin the placeという三語のひとかたまりで，文章の構造上は，副詞句（adverbial phrase）と言います。かんたんに言うと，ひとつの文章を金魚に例えれば，その金魚のフンのように，くっついている，文章のふろくのようなものですね。もっとも，金魚のフンだからといって大切ではないというわけではありません。文章の内容の点から言うととても大事な部分なのです。したがって，

<table>
<tr><td>I</td><td>go</td><td>to the station</td><td>at 10 o'clock in the morning.</td></tr>
<tr><td>主語</td><td>動詞</td><td>場所を表わす
副詞句</td><td>それぞれが時間を表わす
副詞句</td></tr>
<tr><td colspan="4">（私は朝の10時に駅に行く）</td></tr>
</table>

ふつうの英文ならこういうしくみをしているわけです。

　there （場所を表わす副詞）

to the station（副詞句）
このような構造を見てとることができますね。

ふつう皆さんは，I go to school. やI live in the house. を，go to とか live in というふうな区切り方をして，それらを「熟語」のようなものだと，そのように覚えなさいと学校では教えられることが多いので，to schoolとか in the houseをひとまとまりに考えるという区切りのつけ方をしていません。このことが，あとあとで，英語の勉強の上で，大きな障害になってくるのです。live in/the house「～に住む」という区切り方よりも，live/in the houseという区切り方の方が，英文のしくみという点を考えるうえでは，より根本的であることをそろそろわかってほしいと思います。

さて，この there や here という語が，さらに発達して，where「どこに」というコトバになっていきます。形からしてよく似ているでしょう。この where を「疑問副詞」とか「関係副詞」とか言いますが，その説明については，ポイント17（p.96）をしっかり読んで下さい。なぜ here, there だけでなく where というコトバまでも「副詞」なのか，これでわかってもらえたことと思います。同じように考えると時間を表わす，副詞句 at the time は，then「そのとき」という副詞に置き換わり，これが発達して，when「いつ」「～のとき」という「疑問副詞」「関係副詞」になるのです。コトバの勉強というのは，このように，大切なことをうまくまとめ上げてゆくように考えることが大切なのですね。

Point 5

ひっくりかえっている文章は元の語順に直せ！

And there you will be.

そして，あなたはそこにいるでしょう。

この文章は，And you will be there. というふうに書き直すことができます。there 「あそこに」という副詞が強調されたために文章の頭にはみ出していたわけです。このような，語の順序がひっくり返っている文章を，倒置の文 (inversion) と言います。

倒置の文は，英文では時々出てきます。語順が，わざとひっくり返されているために私たち日本人は，まず，とまどいを感じます。しかも文章の冒頭でそうなっていることが多いのです。

倒置の文がきたら，必ずその文章の語に区切りをつけて，例えば，

So do I.
So/do/I.
I do so.
①②③

「私もそうするよ」は区切り線を入れてその次に小さな数字を下につけて、元の語順に直す作業をやって下さい。

このように倒置の文は，このテキストでも，各所に出てきます。例えば，

All round her flew the birds.

という文章の場合

All/round her/flew/the birds.

① ④ ③ ②

というふうになっていて，元の文章に直すと，

All the birds flew round her.

① ② ③ ④

（鳥たちはみんな，彼女のまわりを飛びまわりました）

となっているのです。

いや，実を言えば倒置の文はもっとひんぱんに出てくるのです。p.64の1行目，'What can I do about it?' asked Mrs. Banks.

（「その件について私は何ができますの」とバンクス夫人はたずねました。）

この'セリフ' asked Mrs. Banks.あるいは，'Yes' said Jane.のような，ごくごくありふれた文章も，倒置の文であることに気づきませんか？　つまりこれは，

Mrs. Banks asked, 'What can I do about it?'

Jane said, 'Yes'

（ジェインは「はい」と言った）

これがもともとの形なのです。こんなに身近なところに倒置の文があるわけですね。

‘Yes’/said/Jane. ③　②　①	= Jane said, ‘Yes’.

では次に，なぜ，倒置の文章というものが，英語の文章にあるのか考えてみましょう。それは，すべて，文章の内容を強めたいからです。いちばん先に言いたい大切なコトバから先に書いてしまいたいという気持ちからなのです。この部分はぜひ強調しておきたいと思ったとき倒置の文という変な書き方が起きたのです。このテキストを読みすすめていて，アッこれは倒置の文だ，と皆さんが気づいたら，しめたものです。そのとき皆さんは，英語の読み方に大きく近づくのです。このテキスト全体に，はっきりした倒置の文が六つあります。あなたは，そのうちのいくつに気づくでしょうか。

Point 6

桜の木がダンスする。えっ!? 英語的な言いまわし!?

the cherry trees dance...

その桜の木たちは踊っている。

桜の木が踊るのです。風に揺られて，枝を激しく揺すって，左右に，並木のラインダンスをしているのです。

このような言いまわし（表現形）を，擬人法(ぎじん)と言いますが，英語の文（文章の種類）としては，物主語(ものしゅご)の文あるい

は，無生物主語の文と言います。物や事柄が主語の位置にきて，まるで，人間たちがダンスしているように桜の木々がダンスしているという表現の仕方なのです。日本文にもたくさんありますね。私たちだって，ふつうの日本語で，よく使いますよね。例えば「夜風が冷たい」とか「静けさが広がった」とか「怒りがこみあげる」とか。これらの文章も，形だけから考えると，物や事柄が主語になっています。ここが，ポイントです。物や事柄が主語になっている，ということは，実は，たいへん謎につつまれた言い方です。文章の主語には，やっぱり人間が来てほしい，と思うのがふつうではないでしょうか。

例えば，

I love you.

（私はあなたを愛してる）

のように，「私は」という人間が主語であるような文章が，この世の中にありうるたくさんの文章の種類の中でいちばんの基本型だと思いますが，皆さん，いかがでしょう。

まるで人間が踊るように桜の木が踊る，このような文章は，要注意なのです。なぜかと言えば，私たちの日本語の方が英語よりもこの物主語の文に近い言いまわしが，たくさんあるために，英文の物主語の文が出てくると，頭の方からそのまま直訳してみると，スラスラと読めてしまうということがよくあるからです。

例えば，

The train comes.（電車が来る）

という言い方の裏側には，まるで人間が猛スピードで走り

込んで来るように電車がやって来る、ということが読み取れますよね。このように，物主語の文は，擬人法という考え方が背後にあって成立する表現法なのです。

1-02-A

❶ If you are looking for Number Seventeen — and that is the house of this story — you will very soon find it.

That is the house of this story ....

that や this とくるとすぐに「あれ」と「これ」になってしまうのでは困る。この that は，文章の頭にきて，すでに言われたこと，あるいは言われたことから推測できることを受けて言われる that。「that」についてはポイント㉟を参照(p.318)。

❷ It is the smallest house in the Road.

❸ And it needs a lot of fresh paint.

1-02-B「ガチガチ訳」

❶もしあなたが17番地を捜しているなら——あれがこの物語の家なのだが——，あなたはそれを非常にすぐに見つけるだろう。

❷それは通りでいちばん小さな家だ。

❸そして，それはたくさんの新しい塗料を必要とする。

1-02-C「なめらか訳」

❶あなたが，17番地をお捜しなら——そしてそれがこの物語の家なのですが——それはすぐに見つかるでしょう。

❷その家はこの通りでいちばん小さな家です。

❸そして，［きれいにしようと思ったら］きっと，新しいペンキがたくさん必要でしょう。

1-02-A

❹ But Mr. Banks once said to Mrs. Banks, 'You can either have a nice clean house, or our four children.

You can either have a nice clean house,

can にはほぼ三通りの意味がある。「～できる」能力による可能，「～してよい」許可による可能，そしてここでの用法にみられる「～しかできない」「～しなければならない」義務ないし命令の三通り。口語では，能力の意味にはほとんど be able to のほうを使い，can は後の二通りの意味で使われることが多い。例えば Can I have your name? 「あなたの名前を教えてもらえるか？」「知らせてもらってよろしいか？」という許可の可能の用法にあたる。ここでは either 「かどちらか」という限定を加えることで「～しかできない」の can の解法が導かれている。きれいな家か，子供たちか「どちらかしか持てない」，つまり「選ばなければならない」。最後の both はこの either に対応する「どちらも」。

❺ But I haven't money for both.'

1-02-B「ガチガチ訳」

❹しかしバンクスさんはバンクス夫人にかつて言った。「あなたは素敵な清潔な家を持つか，あるいは私たちの四人の子供を持つことができる。

❺しかし，私はその両方のためのお金を持っていない。」

1-02-C「なめらか訳」

❹でもバンクスさんは，バンクス夫人に昔から言ってあるのでした。「君はね，立派なきれいな家か，それとも，四人の子供［にめぐまれた生活］か，どちらかを選ばなけりゃいけないよ。

❺だって，その両方をまかなえるお金は私にはないからね」

1-02-D

findには「見つける」と「見つかる」の二つの意味がある

If you are looking for.... (1-02-A❶)

このifはふつう条件法の文なのだが，とりわけ「もし〜ならば」と考えないで，例えば，接続詞のasやwhenと等しいと考えてみよう。

英文では ―― （ハイフン）は文章の途中に，その文章やそこで使われている言葉を説明したり限定したりするような補足文をさしはさむのに使うことがある。日本語訳文にどうしてもはさみ込めない場合は，独立させて，次の文にするなり，文章の中になんとか繰り込んでしまう。ここでは，なるべく，原文と訳文の区切り方を対応させながら，ハイフンを生かす練習をしてみよう。はじめはむずかしいかもしれないが，挿入文の訳文を工夫して前後とつなげて読めるようになろう。

you will very soon find it. (1-02-A❶)

このitは，「桜の木通り17番地」の家をさす。You find it で「あなたはそれは見つける」になる。findは「見つける，気づく，わかる」の意味だ。でも私たちは「見つける」のかわりに「見つかる」と言ったりする。そのせんさくはともかく，findに関して，この「見つける」と「見つかる」の区別に気をつけて，使い分けると，訳文はずっとなめらかになる。

It is the smallest house.... (1-02-A❷)

このIt も，先の that，it と同じく家をさすが，「それは見つかる」に続けてまたも「それは」と置くのを避けて「その家は」としてよいだろう。

Point 7

either ～ orを熟語として覚えるな

He loves either Mary or Jane.

彼はメアリーかジェインのどちらかを愛している。

either ～ orを「～かどちらか」と覚え込むからかえって使えなくなるのです。
例えば，

He loves either Mary or Jane.

（彼はメアリーかジェインのどちらかを愛している）

という文章は，

He loves **either**	(He loves) Mary. or (He loves) Jane.

というふうに，either の後で，バッサリとななめ切りの線を入れてから，前の方から考えていくのです。このような訓練をすることが大切です。なぜならそもそも，このeither は「代名詞」なのです。それが接続詞としての使い

方にも拡張されたのです。

He loves **either**

(He loves) Mary

,or (He loves) Jane.

完全な文章にすると，(　)の中の文章が省略されていたことがわかります。

だから，テキストの例文でも，

You have either/a house or children.

という具合に区切って，前の方から「あなたはどちらかを手に入れることができる」「家か，子供たちかどちらかを」となるのです。

Point 8

can には三つの意味がある知ってた？

You can have a house.

あなたは家を買うことができる。

この can の「～できる」の中身を考えてみましょう。皆さんはこの can を何でもかんでもただの「できる」だと思っていないでしょうか。

canの「～できる」には，三通りの意味があります。つまり，

Canの意味は 3つある	①「能力があるからできる」 ②「可能性があるからできる」 ③「許可されているからできる」

の三つの「できる」です。この三つの区別に自覚的でない人は，たったの can ひとつ自由に使えません。

上のテキストからの例文は，明らかに③の「許可」です。つまり，ご主人が，奥さんに「君は，家を買ってもいいよ」と許可を与えている場面なのです。

他に，この③「許可」の can の例としては，例えば，ロンドンの二階建て赤バス（ダブル・デッカー Double Decker）の中で，子供連れのお母さんが，子供に向かって，

You can't sleep in the bus.
(バスの中で眠ったらダメよ)
と言う場合のように「許可されていない」から「できない」「してはいけない」のような場面で使われます。

①の「能力のできる」は，最も素朴な can です。

Do it. You can do it.
(やってごらんよ。君ならできるよ)

②の「可能性のできる」の場合は，主語にくる You に特別な感じがあります。

You can pass through the road.
(その道は通り抜けることができますよ)

この場合の You は，「誰でもいい，人間なら誰でも可能」である，「一般的な You」なのであって，特定の「あなた」ということを含んでいない You なのです。この You は，実は We，They，Man，One，People などの「一般的な主語」(私の考えでは，これらを非人称主語 Anonymous Subject の文と言います。「一般的な人々」の You なので

す。これは「諸君は」と訳したり「人々は」と訳したりすることが多い場合のYouなのです。

さて，この can の使い方と非常によく似てまぎらわしいものに may があります。はっきりと区別をつけるために，ここであわせて考えておきましょう。

You may have a house.

これをふつうは，「あなたは家を買えるかもしれない」というふうに「かもしれない」と覚えている人が多いのではないでしょうか。この may が「かもしれない」である場合は，実は，かえって少ないのです。それは，たいていは may be の形で使われる場合なのです。may は，実は私たちが考えているのとはちがって，「許可のcan」などよりもずっと「強い命令」を含んだコトバなのです。

You may do it.

（あなたは，それをやってもいいよ）

という意味の後ろには「強い許可・命令」がかくれているのです。ほとんど must や should に近づいているのです。can や may などの身近なコトバの使い方こそ，くれぐれも慎重にやって下さい。

Point 9

助動詞になりつつある動詞たち need 他

一般動詞の中には助動詞に近い働きをする動詞たちがいくつかある。助動詞とは何か考えてみよう。

The house needs paint.

その家は塗料を必要としている。

The house needs paint.
(その家は塗料を必要としている)
「その家は塗料を必要としている」という文を読むと，私たちはすぐにピンと来て，そうだ，壁の塗りかえがそろそろ必要になっているのだ，この家の壁はもう汚なくなってしまっているのだろうな，ということに気づきます。「家が必要とする」という言い方はポイント[6]（p.37）で出てきた「擬人法＝物主語の文」ですが，ここではneedというコトバが，なんだかとても気になるコトバなので，考えてみることにしましょう。

I need you.
(私はあなたを必要としている)
あるいは「私はあなたが欲しい」と言ってもよいかもしれません。この場合，この need は本動詞ですね。つまり助動詞（auxiliary verb）ではありません。

それから，次のような格言（maxim）があります。

A friend in need is a friend indeed.

(まさかの時の友は真の友)
この場合のneedは名詞ですね。
　それから，

助動詞	◎I need not help you.	「私はあなたを助ける必要はない」 (あまり使われない)
ふつうの動詞	◎I don't need your help.	「私はあなたの助けを必要としない」 (こちらが口語的)

という二つの言い方があることに注意して下さい。上の文では，needは助動詞になっています。だから，直接need notとなるのです。ところが下の文では，doという代動詞(という便利屋さん)が出てきて，それにnotがついて，do not needという形になっていますね。この場合は本動詞あるいはふつうの動詞であるわけです。このような違いがどうして出てくるのか，ということに，改めて注目してみましょう。
　では，助動詞と言われているコトバたちについて復習とまとめをやってみましょう。

Iグループ

I **will** do it.　(私はそれをするだろう)
I **must** do it.　(私はそれをしなければならない)
I **may** do it.　(私はそれをするかもしれない)
I **can** do it.　(私はそれをすることができる)

これら will，must，may，can たちが助動詞であることははっきりしています。後ろの do という本動詞を助ける意味しかない役割を果たしていることがよくわかるからです。ところが，次の動詞たちは，どうでしょう。この動詞たちも，ふつうは助動詞だ，と言われているのです。

Ⅱグループ

I need **to** do it.　(私はそれをする必要がある)
I want **to** do it.　(私はそれをすることを欲する)
I ought **to** do it.　(私はそれをするべきだ)
I have **to** do it.　(私はそれをしなければならない)
I used **to** do it.　(私はそれをいつもしていた)

これらの need，want，ought ，have，used などの動詞は，あとに to がついて，それと一組でようやく一人前の助動詞として扱われているようです。だから厳密に言うとこのⅡのグループの動詞たちは，まだ助動詞ではなくて，助動詞になりつつある動詞たち，と言うべきなのです。あとに to をつけなければならないのは，これらの動詞が助動詞になりきっていない何よりの証拠です。

だから，これらの助動詞たちは，それぞれを，否定文にしてみると，

Ⅰグループ

I will **not** do it.　(私はそれをしないだろう)
I must **not** do it.　(私はそれをすべきでない)
I may **not** do it.　(私はそれをしないかもしれない)
I can **not** do it.　(私はそれをすることができない)

というふうに，助動詞のあとに not がつく形になります。

ところがⅡのグループの方は,

Ⅱグループ

I **don't** need to do it.
(私はそれをする必要はない).

I **don't** want to do it.
(私はそれをしたいと思わない)

I ought **not** to do it.
(私はそれをすべきでない)

I **don't** have to do it.
(私はそれをすべきでない)

I **didn't** use to do it.
(私はそれをいつもしていなかった)

というように, ought 以外は, これらの動詞の前に, その動詞を否定する形で, do not が入る形になります。これで, これらの need や want や have などが, まだ助動詞になりきっていなくてふつうの動詞扱いされていることがわかりました。

ところが ought につづいて, need も,

I need **not** to do it.
(私はそれをする必要がない)

という言い方が, 時々使われているのです。

ということは, これも近い将来は, Ⅰのグループのはっきりとした助動詞の仲間入りをしそうですね。その際には, うしろのtoも消えてしまうでしょう。このようにコトバは生きているのです。コトバを使っている人間が生き物であるようにコトバもまた微妙に変化してゆく生き物なのです。

否定文をつくる not と同じような問題として，疑問文に直すとどうなるか，という問題が必ずありますね。念のためやってみましょう。ここでは主語は You に換えることにします。

Ⅰグループ

Will you do it?
（あなたはそれをしますか）
Must you do it?
（あなたはそれをすべきですか）
May you do it?
（あなたはそれをしてかまいませんか）
Can you do it?
（あなたはそれができますか）

このように，助動詞が文章の頭に出て来るだけの形のひっくりかえり方をするわけです。ところが，

Ⅱグループ

Do you need to do it?
（あなたはそれをする必要がありますか）
または**Need** you to do it?
Do you want to do it?
（あなたはそれをしたいですか）
Do you ought to do it?
（あなたはそれをすべきですか）
Do you have to do it?
（あなたはそれをすべきですか）
Did you use to do it?

(あなたはそれをいつもしていましたか)

こちらの方は，代動詞 do を使う形になってしまうわけです。needの場合だけは，両方の使い方があるわけです。このDo you～形は主にアメリカで発達した言い方なのですが，イギリスでは，haveというコトバは，完全に助動詞になっているらしくて，ここでの have も do you 形ではなくて，

Have you to do it?（あなたはそれをすべきですか）になるようです。

さあ，これだけのことが，しっかりと頭で理解できたでしょうか。そして，自由に使えるほど声に出して言ってみて，なめらかに言えますか。この助動詞のしくみと使い方は，ものすごく基本的なことであるのに，中学校の英語の授業でしっかり習わないままで，高校生になってしまう人が非常に多いのです。助動詞の場合だけでも Do you 形が何故こんなに多いのか，ということもしっかり理解して下さい。

最後に同じように助動詞化しているコトバなのに，ちょっとだけ癖のあるhad better（～した方がよい）についても，ここで考えておきましょう。

had betterは，皆さんもよく知っているとおり，何回も何回も試験問題に出されますね。それは，これが，特殊な形（haveではなくていつも必ず had である。そして，いつも必ず better という good の比較形を伴っていて，この二語で併せて一つと考えられています）をしている上に，Ⅰグループに属することになっているからです。だから，

I had better do it.
(私はそれをしたほうがいい)
のようにbetterとdoの間に前置詞toが，入らないことになっています。ところが，否定文にして，not形の場合には，

I had better not do it.
(私はそれをしないほうがいい)
というふうに，notは，betterのすぐあとにくることになっています。決して，

× I don't had better do it.

でも

× I had not better do it.

でもないのです。この文を疑問文にすると，

Had you better do it?
Had I better do it?

というように，Ｉグループの変化の仕方を取って，hadが，そのまま文章の頭にくる形になるのです。決して

× Do I had better do it?

ではないのです。このように，had betterは，一応は助動詞のグループに入れられていながら，こみ入った動きをするので，中学校の試験問題として出されることが多いのです。had better notという言い方が，Do you～形の重大な例外であることを皆さんは知っていましたか？

notはその文章の中のどこにきても意味として通じるのです。例えば，

I go to school.という文は，

× I not go to school.

× I go not to school.

× I go to school not.

と書いても，相手に伝わるのです。しかし，これらの書き方は，教育用の英語文章としては，大まちがい，ということになっています。そして I don't go to school. だけが正しいとされていることは，十分に知っておいて下さい。

ちなみにYou better do it.（あなたはそれをした方がいいよ）というように，現在では，ふつう英米人はhadを抜いてしゃべっているようです。

1-03-A

❶ So, after some thought, Mrs. Banks chose the children — Jane, the eldest, and Michael, and the twins, John and Barbara.

the eldest

「いちばん年上の」。この物語では Jane は女の子なので「長女」。バンクス夫人は子供の方を選んで，期待どおりちゃんと四人（うち二人は双子）の子供ができたわけで，家はあいかわらず小さく汚れっぱなしのままだ。それでもイギリスの 19 世紀の中産階級というのは，それ相応の金持ちなのだ。

❷ So there they all are now, at Number Seventeen.

❸ Mrs. Brill cooks for them, and Ellen helps her, and Robertson Ay cuts the grass and cleans the shoes.

Mrs. Brill cooks for them,

ここでの them はバンクス一家。「彼」や「彼女」はだいぶ日本語としてもこなれてきて日常使われるようになっているが「彼ら」も日本語としてまだすわりがよくない。they に関しては状況に応じて「みんな」とか「二人」とかに訳し分けてみよう。

1-03-B「ガチガチ訳」

❶そこで，いくつかの考えの後で，バンクス夫人は子供たち——いちばん年上のジェインとマイケル，そしてジョンとバーバラの双子——を選んだ。

❷そして，17番地のそこには，今彼らはみんないる。

❸ブリル夫人は彼らのために料理をし，そしてエレンが彼女を助ける。そして，ロバートソン・アイは草を刈り靴をきれいにする。

1-03-C「なめらか訳」

❶で［その時］，**しばらく**考えた後に，バンクス夫人は，子供たち［のいる生活］を選びました——長女のジェイン，マイケル，そして双子のジョンとバーバラの四人です。

❷そんなわけで，今，こうして17番地にみんなが暮らしているのです。

❸一家のために料理をするのはブリル夫人で，エレンがその手伝いをし，ロバートソン・アイは芝を刈り靴をみがきます。

1-03-A

❹ And there ought to be a nurse to look after the children, but she has just left this morning.

a nurse

普通「看護婦」と訳されるが，一般に「めんどうをみる者」のことで，この本では住み込みの子供世話係を保母とした。小説「赤毛のアン」の邦訳では，「家庭教師」となっている。

1-03-B「ガチガチ訳」

❹そして，子供たちの世話をする保母がいるべきだったが，彼女は今朝，ちょうど出て行った。

1-03-C「なめらか訳」

❹それに当然，子供のめんどうをみるための保母がいるべきなのですが，その女性はちょうどこの朝，家を出て行ってしまったのです。

1-03-D

文章の初めに置かれたsoは副詞として，後のsoは接続詞として、働く

So,（1-03-A❶）

このsoは文章の初めに so が置かれている場合，前の文を受けて次の文に接続する「だから」「そこで」「したがって」などの接続詞としての意味と，I am so happy. のように，「とっても幸せよ」の「とっても」のような副詞としての意味がある。

after some thought,（1-03-A❶）

この thought は「しばらく考えた後に」，なのだから本来の文章は she thought something for a while.となって，この thought は，もともとが動詞なのです。それを名詞として使っているのが after some thought なのです。そこで，まず「いくつかの考えの後で」ぐらいは思いつくだろうから，そこから「あれこれ考えて」ぐらいまで想像できれば，よい。「考えた後に」バンクス夫人が選んだ，という文意さえつかめれば，あとはこのsomeを「ちょっと考えた」の「ちょっと」という日本語に直せばよい。

So there they all are now,（1-03-A❷）

So「そして」there 「そこに」they「彼ら，バンクス夫人と子供たち」が all みんな are 「いる」。thereは場所を示す副詞で，日本語の「そこに」だ。「そこ」とはどこかといえば，それは「桜の木通り17番地」だ。thereというとまずthere are（is）の構文が思い浮かぶが，thereはあ

くまで場所を示す副詞として覚えておく必要がある。there are (is) の場合でも，原則は何ものかが「ある」「いる」を「そこに」と限定しているのだ。ここのnowは「いま」,「さて」「ところで」，あるいは「さあ」「まあ」「そもそも」などと訳すこともある。

thereはあくまでも場所を示す副詞である
there ought to be a nurse (1-03-A❹)

元は there is の構文で，料理頭のブリル夫人，その手伝いのエレン，庭番に当るロバートソン・アイとあげてきて，「当然保母さんもいるべきだ」ということを表わすようにought to be としてある。しかし，また「当然いるべき」と強調しているということは，すぐ後で，保母は今朝出て行ってしまってもういないことの伏線になっている。ought についてはポイント[9]p.49を参照。

現在完了形を日本語にするときは文脈にそって、過去か現在に訳そう

she has just left this morning. (1-03-A❹)

she は保母さん。「彼女」と書くと，日本語ではちょっと唐突かもしれないので，「その女性は」としておいた。保母はいたのだが，just「たったいま」出て行ってしまった，というわけで，現在完了形が使われている。日本語にはこの現在完了形に対応するものはないのだから，気にせずに，過去か現在か，すわりのよい日本語にすればいい。

❶'What can I do about it?' asked Mrs. Banks.

...asked Mrs.Banks.

会話が先に入る場合，語順が逆になる。つまり Mrs. Banks が主語，asked が述語，そして会話文が目的語となっている。

次の❷ Mr.Banks said, は語順どおり，主語，述語，目的語（会話文）が並ぶ。said の後の ,（コンマ）は英文のきまりで，前の語順が逆になる場合には , が入らないのもきまり。「文の倒置」についてはポイント5参照(p.35)。

❷ Mr. Banks said, 'You can only put a notice in the newspaper.

❸ Say that you need someone to look after four children for very little money, and see how many come.

for very little money

この for は「ために」ではなく「とひきかえに」の意味で使われている。「ごく安い給料で」の「で」がこの「ひきかえに」を表わす。日本文ではこの助詞「で」の扱い方が重要。特に前置詞の処理には助詞の工夫をすること。

1-04-B「ガチガチ訳」

❶「それについて私は何ができるだろう」とバンクス夫人はたずねた。

❷バンクスさんは言った。「あなたにできるのは新聞に広告をのせることだけだ。

❸とても少ないお金で四人の子供の世話をしてくれる誰かが必要だと言え。そして，どんなにたくさん来るか見ろ。

1-04-C「なめらか訳」

❶「私は何をしたらいいのかしら？」とバンクス夫人はたずねました。

❷バンクスさんは答えました。「君はただ，新聞に広告を出せばいいんだ。

❸そこに，**当家では**ごく安い給料で四人の子供のめんどうをみてくれる人を求む，と書いて，何人ぐらい応募してくるかチェックしてみるんだ。

1-04-A

❹ Ask the policeman to help you if there are too many.

❺ Now, I must go off to the City.

❻ It's terribly cold today.

It's terribly cold today.

terriblyは強調の副詞。日本語でも「オソロシク寒い，暑い，速い」などと言うのと同じで，何も「恐ろしい」のではない。「たいへん」「すごく」と同様，べつにたいへんでなくても一種の誇張として，日常語化したちょっとした強めの言葉になっている。この点は日本語と同じ。だから，この種の「強めの副詞」に足を引っぱられないように。

❼ Which way in the wind blowing?'

1-04-B「ガチガチ訳」

❹もし多すぎるならあなたを助けるために警官を呼べ。

❺さて，私はシティに行かなくてはならない。

❻今日は恐ろしく寒い。

❼風はどちらから吹いているのか？」

1-04-C「なめらか訳」

❹あんまり多く来るようだったら，警官の助けを頼めばいいさ。

❺さあ，私はシティにでかけなくちゃ。

❻恐ろしく寒いな，今日は。

❼風の向きはどっちかな？」

1-04-D

口語表現に表われるcanは，許可や命令の意味で使われる

You can only put....（1-04-A❷）

いうまでもなく義務ないし命令のcan。「君は新聞に広告を出しさえすればいい」「君は……出しなさい」の意味。onlyは強調。ここでは「……出せばいいんだ」という形で強調を表現している。すでに述べたが，口語でのcanはまずめったに能力による可能の意味では用いられず，ほとんど許可による可能か，義務（命令）の意味で使われることが多い。

off や out や away という前置詞は動詞について副詞としての動きをする

I must go off to....（1-04-A❺）

「出かけなければならない」。普通，「出かける」だとgo outとなるが，go off を使って，off の「離れる」という意味から，同じように「出かける」となる。off，out，away，up，down，これらは，副詞です。前置詞ではない（念のため）。英語というコトバ独特の働きを持っている副詞。これらをイディオムとして覚え込むよりも，英語特有の表現法としてその都度，文脈から読み取ることの方が必要だろう。

Point 10

知覚動詞は英文のなかでどんな使われ方をしているのか

You see people come.

君は人々が来るのを調べなさい。

このseeは，ふつう知覚動詞と呼ばれているものです。

I	see hear	him	sing.
主語	**知覚動詞**	**人間目的語**	**※動詞の原形即ち不定詞**
（私は彼が歌うのを見る）（――聞く）			

※これを原形不定詞という言い方がありますが、不定詞は、いつも原形に決まっているのです。toがつかないということを強調した場合の言い方らしいのですが、toは前置詞です。念のため付言しておきます。

上の例文では，singという動詞の前にtoがつかないことが重要な事ですね。このことは試験によく出されます。これは，これとして，まず理解して下さい。

さて，そのあとが問題なのです。

このsingは，絶対に原形でなければならないのかというと，そうではないのです。

I hear him singing. （私は、彼が歌っているのを聞く）	このsinging は現在分詞（動名詞ではない！）
I hear him sung. （私は、彼が歌われているのを聞く）	このsungは過去分詞

このように，singは，動詞の原形（私の考えでは，動詞の終止形＝不定法）だけではなくて，「現在分詞」や「過去分詞」というような他の形をした動詞もくるのです。このことは，たいへんむずかしい文法理論ですが，このことがわかった人が，だいたい大学入学レベルに達している，とこの国では考えられています。

このことをまったく別の側面から観察したときに，「五文型理論上の第五文型の文」と言います（五文型理論については，別のポイントを参照して下さい。ポイント38 p.357）。

Point 11

文頭にくる It は日本人にはよくわからない

It's cold today.

今日は，寒い。

これは，「それは寒い，今日」と訳さなければならないはずですが，それではあまりに変なので，「今日は寒い」

つまり「今日＝寒い」というふうに訳すことになっています。なぜでしょうか。そう訳す以外に手がないからです。このItとは何でしょう。「だから，今日だよ」ではすまされないのです。このItは，たいへんな謎につつまれているコトバです。ふつうの教科書では，このItのことを「時間，天候のit」と言います。代々木ゼミナール講師の鬼塚幹彦さんはこれら，全てのItのうち文章の冒頭に来るItのことを『文頭のIt』（雑誌「アルファ」連載）と呼んでいます。私は，昔から『よくわからないIt』と呼んでいます。

Itというコトバには巨大な謎がかくされています。Itを「それ」とやって意味が通ることは，かえって少ないのです。

文頭のItが，ピンと来るようになれば，皆さんはスラスラと英文が読めるようになるのです。（この種のItについては『道具としての英語・しくみ編』別冊宝島43号，p.44の表を参考にして考えてみて下さい。）

その他，文章の頭に来るこのItには，むずかしい使い方がいくつかありますが，それを説明するのは，またたいへんむずかしい問題を含んでいます。ポイント㉓（p.140）の**It's** difficultの使い方についての説明を読んでじっくり考えたのちに参考にして下さい。Itを「それは」と訳しただけではうまく行かない場合が実際にたくさんあるのだ，ということだけはここでしっかりと心にとめておいて下さい。

1-05-A

❶ And Mr. Banks looked out of the window as far as Captain Boom's house.

looked out of the window

窓から見るという言い方が，窓を通して外を見るということを意味する場合にこの out of を用いる。「～から」というと，普通 from を思い浮かべるかもしれないが，from と out of は，向きがちょうど逆の関係になる。from は例えば from inside「内部から」のように，その起点の方に向いて，「その起点の方から」を示すのに対し，out of は起点を背にして，あるいはその場を起点にして「そこから」外の方へ向かう方向を示す。ちょうど矢印が逆向きになるわけだ。

Captain Boom

Captain はふつう，軍隊の階級で陸軍では大尉，海軍では大佐のこと。海軍大佐というのは，軍艦の艦長になれる地位にある。この場合，Boom さんが退役海軍大佐なので，船のような形をした家に住んでいるところから近所の人が「船長さん」というニュアンスを込めて Captain が使われている。

❷ It was the biggest house in the road, and it looked just like a ship.

❸ The flag on the roof always showed which way the wind was blowing.

1-05-B「ガチガチ訳」

❶そしてバンクスさんはずっとキャプテン・ブームの家の方まで窓から見た。

❷それはその通りでいちばん大きい家で，それはちょうど船みたいに見えた。

❸屋根の上の旗はいつも風がどちらの方向に吹いているかを示していた。

1-05-C「なめらか訳」

❶バンクスさんは窓の外に目をやって，ブーム船長の家の方をながめました。

❷その家はこの通りではいちばん大きな家で，ちょうど船のように見えました。

❸屋根の上の旗が，いつも，風向きを示しているのです。

1-05-A

❹'Ah ha', said Mr. Banks.

❺'It's an East wind. I thought it was. I shall put on two coats today.'

❻ And he waved to his wife and children and went off to the City.

he waved

wave は「手をふる」。smoke という一語の動詞に「タバコを吸う」の「タバコを」の意味が含まれるように「手を」という目的語が含まれている。

1-05-B「ガチガチ訳」

❹「アーハー」とバンクスさんは言った。

❺「それは東の風だ。私はそれはそうだと考えた。私は二枚のコートを今日は着ることにするだろう」

❻そして彼は彼の妻と子供たちに手を振り，シティに出かけた。

1-05-C「なめらか訳」

❹「ははあ」バンクスさんは言いました。

❺「今日は東風だな。私が思ってたとおりだ。今日はコートを二枚着て行くことにしよう」

❻バンクスさんは，奥さんと子供たちに手を振って，シティへ出かけました。

1-05-D

lookやseemやseeという動詞は 不完全自動詞といい、be動詞に置き換わる

it looked just like a ship.（1-05-A ❷）

このlookは「見る」ではなく,「見える」,このitはthe house だから,「その家が見る」のではなく「その家が見える」。これはYou look at me.「あなたは私を見る」とYou look nice.「あなたはよく見える」→「あなたはかっこいいよ」の違いで,後者は不完全自動詞のlook。この「不完全自動詞」と言われる種類の変な動詞たち（seem, sound, see など）はbe動詞に置き換わるのだ。

The flag on the roof always showed....（1-05-A ❸）

このshowは「示す」「見せる」だ。旗が風向きを「示している」といっても,これは,同時に,人間の方が旗を見ることによって風向きを知る,というしくみがあって,はじめて成り立つ。そこで,バンクスさんが旗に問いかけ,旗がそれに答えて風向きを「示している」。この show にかぎらず物が主語の場合,いったん人間との関係のなかに置き換えてみると,日本語の表現として自然な形がつくれることが多い。

I thought it was.（1-05-A ❺）

このitは日本語でいう「そういうわけで」とか「それでだね」の「そう」に当たる漠然とした表現で,状況や前の文の全体をさしている。(itの項参照)。つまりここは「そうだと思ってた。東風だと思ってたらやはりそうだった」

の意味。「私が思ってたとおりだ」としておいたが，日本語の場合，一人称の「私」をハッキリ出すと，かえって強調した感じが出るという性格があって，ここでは，バンクスさんの予想が当たって得意になっている感じが，「私が」と一人称を置くことによってうまく表わせる，という効果がある。逆に次の文では，一人称の主語を入れない方が，日本語では自然になる。

I shall put on two coats today.（1-05-A❺）

shall が「単純未来」でwillが「意志未来」だ，などという文法理論があるが，それは疑問だ。「単純未来」か「意志未来」かは，文章の流れとして判ることなのであってshallを「意志」とだけ決めることはできない。現在ではもはやshall もwillも同じだと考えていい。

Point 12

out of と from は同じ「から」なのに全然ちがう

He looked out of the window.

彼は窓から外を見た。

この文の中に，「外を」つまりoutsideというコトバは入っていません。それなのに，「外を」と入れて訳さないとおかしいことになります。

では，この文を，

He looked from the window.

と書きかえると，どうなるでしょう。「彼は，窓（そのも

の）から見た」という意味になってしまいます。

私たちは，fromを「〜から」と，覚え込んでいますが，この場合，out of という，もうひとつの重要な「〜から」との区別をつけておくことは大切なことです。

ある意味では，この from と out of は，まったく逆の使い方をするのです。つまり，

He looked from inside the room out of the window.

（彼は，部屋の中から窓の外の方を見た）

という文に作りかえてみると，よくわかるでしょう。つまり，見ている人の「視点」の位置によって，そのコトバの位置が決まってくるのです。fromは，もともと，ものごとを客観的に観察しようとしている人の立場から考えて，「〜どこどこから，どこどこまで」from A to Bというふうに使います。それに対して，out of は，あるものの中にいる人が，「その外側」のことを指そうとするときに使います。

つまり，

He went out of the room.

（彼は部屋から出ていった）

となります。

もちろんこの場合，out は副詞（動詞を強めるための飾りコトバ）ですし，of は，前置詞です。（しかし，もしかしたら，この of も，強めのための副詞かもしれないのですが）。from と out of の使い方のちがいにご用心。

Point 13

as ～ as の前の as は副詞，後の as は接続詞

He looked as far as Mr. Boom's house.

彼はブーム氏の家の方を見た。

「as far as」は，辞書で調べると「～までは」という訳が載っていますが，その英文を実際に日本語にしようとすると，かなり無理な場合があります。「家の方まで見た」とやると，日本文としては，「程度」あるいは「限界」を示す意味にしか受け取れなくなるからです。これと同じくas much ～asなどの「等量比較の表現」なども，私たち日本人には，なかなか使いにくいコトバです。だから，こういう時にこそ文法理論に戻る必要があるのです。

前の方の as が**副詞**で，あとの方の as が**接続詞**だ，ということを知っていましたか。「～と同じだけ」ととにかく覚え込んでも実はまったく，わかったことにならないのです。

前のasは副詞，つまり次の形容詞を強めるための飾りコトバです。例えば，

He has as much money/as I have (money).

(彼は，私が持っているのと同じだけたくさんのお金を持っている)

の先の as は，much を強めているだけなのです。そして，あとの as は接続詞ですから，as 以下は，別の文章になっ

ているのです。「熟語で覚えよう」とか言うのではなくて，もっと理屈で考えてからにしてほしいのです。

ポイント[7]（p.45）のeither～orもそうでしたが，このように，ふつう「熟語」と言われているものを，とにかく形にはまった意味で暗記させようという方針を取る先生たちが，あまりにも多すぎます。その結果として，私たちはいよいよわからなくなり，実際に使えないことになるのです。文章のしくみの上から言って，その as（この as は，よく so になったりもします）が，どういう働きをしているのか，そして，あとの方のasとは，品詞がちがうのだということを理解して下さい。そうするとはじめの例文も，

He looked **as** far/**as** Mr. Boom's house is there.

というふうに分けて，考えてみると，「彼は，遠くの方まで見た。ブーム氏の家があるあたりの」ということになります。何でもかんでも熟語にして覚えようという考え方に，私は大反対しています。英語を一語（word（ワード）と言います）一語にまで細かく分けて考えてみると，その一語ずつは決してむずかしい意味を持っていません。皆さんも一度，辞書にズラズラ載っている「熟語」を相手にして，このような品詞分析法を試しにやってみて下さい。

Point 14

「見る」と「見える」では天地の差

主語を動かす動詞を自動詞、目的語をあれこれ動かす動詞を他動詞という。その自動詞のなかにはbe動詞に置きかわるものもある。

He looks good.

彼はカッコいい。

He looks good.
（彼はカッコいい）

あるいは

He is looking nice.
（彼ってカッコいいね）

この場合のlookは，次の

He looks at her.
（彼は彼女を見る）

のlookとは，ちょっとちがうゾ，と思いませんか。上の方のlookは，「見る」ではなくて，「見える」なのです。さあ，誰が見ているのでしょう。誰が誰を見ているのでしょう。

「彼は見える」のです「goodに」。このことは，英語の動詞の働き，というものを考えていく上では，けっしておろそかにできない重要なポイントを含んでいます。

「彼はカッコよく見える」のであって「彼がグッドを見る」のではないのです。「見ている」のは，この文章の周りに

いる，私たち，あなたたち，読者，この文章の作者など，もろもろの人々なのです。不思議ですね。「文章の中に出てこない人々が見ている」のです。しかも「彼を」です。「彼が」ではないのです。英語の動詞の中には，このように，たいへんよく見かけるくせに，ちょっと変な働きをする動詞たちがいます。この同じ仲間の動詞をあげてみましょう。

is	
He seems well.	彼は元気そうに見える
He feels well.	彼は気分がいい
He smells bad.	彼は嗅(にお)う
He sounds nice.	彼は元気そうな声だ
He gets well.	彼は元気になる
He goes wrong.	彼はまちがっている
He proves bad.	彼は体をこわしていることが判る
He keeps well.	彼は良好を保っている

このようなちょっと特別な動詞たちのことを，英文法では「不完全自動詞」と言います。「自動詞」なのです。「**自動詞**」というのは，「**主語を動かす動詞**」のことです。例えば，

I sleep.（私は寝る）

は，「寝る」のは私です。したがってこの場合この sleep

という動詞を，自動詞と言います。ところが，

I sleep her.

と書くと，「私は，彼女を寝かしつける」
という意味になります。この場合，「寝る」のは「彼女」なのです。それを，「私」が「させる」のです。このように，「**目的語に働きかけて，目的語をあれこれ動かす動詞のことを他動詞**」と言います。

左の表にあげた動詞たちは，一応自動詞の仲間なのですが，しかし，そのうちでもちょっと気の弱そうな動詞で，実は，**be動詞という根本的な動詞**と血縁関係にある動詞たちなのです。なぜなら上の表の動詞は，すべて，be (is) に置き換えることができるのです。ふつうの他動詞たちには，決してこのような性質はありません。日常でたいへんよく使うからこそ，かえって，なかなかその性質の特殊性がわかりにくい動詞たちであるわけですね。よく表を見直し，考えてみて下さい。

ついでに，皆さんに，ここで軽い質問をしておきますと，さて，これらの文章は，第何文型でしょう？　この「文型」ということがわかるようになると，シメたものなのですが，このあとの方で，いっしょに考えることにしましょう。

そこで，このテキストの例文である，

The house looks like a ship.

は，「そのお家は，まるで船のような形をしているように見える」の「見える」の「見」は，「私たちが見る」のです。このことをもう一度，かみしめて下さい。

Point 15

動作を表わす動詞と状態を表わす動詞の違い

英語の動詞は「動作」を表わす動詞と「状態」を表わす動詞の二つに分けられる。その違いを現在進行形という形から見てみると？

I put on a coat.

私はコートを着る。

これは，「着る」という「動作」を示している言い方です。それに対して，「着ている」という「状態」を表わす動詞は，

I wear a coat.

（私はコートを着ている）

です。英語の動詞たちは，大きく分けて，この「動作」か「状態」かに二大分類されると言われています（その他の分類の仕方に「自動詞」と「他動詞」がありますが）。例えば，have，look，think，know，forget，love，likeなどは，もともとが，「状態」すなわち**一定の時間の幅を内部に含んでいる**ので，瞬間的な動作，例えば「食べる」eatとか「飛ぶ」flyのように，現在進行形の文章，

I am eating lunch.

（私は昼食を食べている）

I am flying in the sky.

（私は空を飛んでいる）

には，ならないとされています。つまり，

× I am having a book.
（私は本を持っている）
× I am looking at him.
（私は彼を見ている）
× I am thinking of her.
（私は彼女のことを考えている）
× I am knowing it.
（私はそれを知っている）
× I am forgetting you.
（私はあなたを忘れかけている）
× I am loving you.
（私はあなたを愛している）
× I am liking you.
（私はあなたを好いている）

などは，ふつう言わないことになっている，とされています。なぜなら，こういう非常によく見かける動詞たちは，もともと「～にしている」という一定の「状態」を含んでいるのだから，進行形の文になじまないのだ，と説明されています。
だから，初めの例文も，
I am wearing on coat.「私は，コートを着つづけよう

としている」というのは，おかしい，ということになります。

このように，動詞の種類によって，「～している」という意味を含んでいるかいないかで分ける考え方を知っておくことは英作文の試験勉強のためにはたいへん重要なことです。

ところがです！　皆さん，ほんとうのふつうのアメリカ人たちは，先ほど，×(バツ)にした表の言い方を実際には使ったりするのですよ。

I am thinking of her.
I am knowing it.
I am loving you.

と言ってみて，それほど，おかしいですか。おかしくないでしょう？

現在進行形にしようと思えば，どんな動詞だって，進行形にすることができるのです。

しかし，いいですか。このあとの私の話をしっかり聞いて下さい。「進行形」（それと「完了形」と言われている have + p.p.）というのは，もともと，変な表現形ですよね。「進行形」の場合だけ「～している」と訳して，そうではない「現在形」の場合には，「～する」と訳すということに，一応なっているらしいのですが，それでは，あまりのことに，日本語訳（この本では原文忠実訳のことです）が，ギクシャクしてしまいます。そこで，「進行形の文」でな

くても例えば，He runs.を「彼は走っている」というふうに訳す必要があって，そのようになんとなくみんなやっているわけです。

進行形と完了形というのは，おかしな言いまわしです。ヨーロッパ語の中では英語だけに強く感じられる言い方ですね。そして，この感じが外国人である私たちには，どうやってみてもはっきりとつかめません。

この動詞は進行形にしようかな現在形でいいかなとか，変な悩み方をして，少しも英語がしゃべれないということになります。同じことが，「現在完了形で言おうか，過去形で言おうか」という点にも表われています。

日本人は，現在形と，過去形，この二つの動詞の形の使い方さえしっかりできれば，それでいいのです。それで十分なのです。それ位に考えた方がよいのではないのでしょうか？

1-06-A

❶ Now, the City was a place where Mr. Banks went every day — except Sundays and Bank Holidays, of course — and there he sat on a large chair in front of a large desk and made money.

Now,

「さて」「ところで」と話題をかえるために使う語で「今」のことではない(念のため)。

the City

ロンドンの旧市街。金融，商業の中心地。一マイル四方に数百の銀行，証券会社が集まっていて，今でも世界の銀行業の中心地でもある。

there he sat on ....

前の where とこの there が一種のかけ言葉のように対応して「そしてそこでは」という意味を表わしている。つまりバンクスさんが毎日行った，「その場所では」。

❷ The children thought that he cut the money from metal or from paper.

The children thought that ...

that 以下のことを考えた，という構文。注意して欲しいのは，続く二つの文にもこの構文が生きているという点だ。

1-06-B「ガチガチ訳」

❶さて，シティはバンクスさんが毎日行く場所で——もちろん，日曜日と銀行の休みの日は除いて——そこで彼は大きな机の前の大きなイスに座ってお金を作った。

❷子供たちは彼は金属や紙からお金を切るのだと考えた。

1-06-C「なめらか訳」

❶さて，シティ**というのは**，バンクスさんが毎日出勤するところで——もちろん日曜日と銀行の定休日は別ですが——そこでは，バンクスさんは大きな机の前の大きな椅子に座り，お金をこしらえているのです。

❷子供たちは，お父さんが金属や紙からお金を切り取っている，と考えていました。

❸ He then brought it home with him in his little black bag.

❹ If he made enough money that day, he sometimes gave some to Jane and Michael to put in their money-boxes.

1-06-B「ガチガチ訳」

❸それから彼は彼の小さな黒いカバンといっしょにそれを家に持ってきた。

❹もし彼が充分にお金を作った日は彼はときどき彼らの貯金箱に入れるためにいくらかをジェインとマイケルに与えた。

1-06-C「なめらか訳」

❸［子供たちの考えでは］お父さんはそうやってお金を黒いかばんに入れて家に持ってくるのです。

❹お金を充分つくった日には，お父さんは少しだけお金を貯金箱に入れるようにジェインやマイケルにくれたのです。

1-06-D

主語が述語以下で説明している英文の訳しかた

the City was... (1-06-A❶)

ここまでにすでにthe Cityというコトバは出て来ていたわけだが，あらためてここで説明されることになる。このようにして主語が述語以下の文で説明される場合には「～というものは」「～ということは」あるいは「～とは」と訳すと読みやすくなる。これ以外の場合でも，「は」「が」ではおさまりが悪い時には，「とは」「というものには」などを使うとなめらかな日本文になる。

a place where Mr.Banks went ... (1-06-A❶)

where は関係副詞。日本語の構文だと「バンクスさんが毎日かよっている場所」となってこの where になるものが消えてしまうが，英語では落とせない。

heやsheを「彼」や「彼女」と訳さずに それが指すものをきちんと訳し出す

he cut the money... (1-06-A❷)

この he はバンクスさんのことだが，ここは子供たちが頭の中で考えている内容なので，子供たちから見たバンクスさん，つまり「お父さん」と訳す方がいい。「彼は」とやると日本語ではひどく他人行儀な感じになってしまう。しかし，英語では，逆に，きわめて明白なのだ，という点を忘れずに。

cut the money from metal or ... (1-06-A❷)

このfromはまさに「〜から」。「お金を金属や紙の型から切る，切り取る」。子供たちは，make money「お金を作る」という言葉から，貨幣や紙幣を金属や紙の型から切り取ってくることだと考えた，ということ。こうした一種のコトバの遊びを利用した話しの運びは，英語の文学の得意とするところで，ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』などではよく使われている。

Point 16

形容詞は名詞を飾るコトバ 副詞は動詞を飾るコトバ

形容詞は名詞の前にきて名詞を修飾し、副詞は動詞の後にきて動詞を修飾する。副詞はまた形容詞、副詞を修飾する。

He is looking nice.

彼ってカッコいいね。

形容詞（adjective（アジェクティブ））というのは，名詞を飾るコトバです。ふつう名詞の前にきて，名詞（体言）を，形容（修飾）する語のことです。**pretty** girl （かわいい女の子）とか，**nice** day（いい日より）とか，**good** morning（よい朝）とかのような，二つの語の前の方は，形容詞なのです。

それに対して**副詞**（adverb（アドバーブ））というのは，動詞を飾るコトバです。動詞を修飾して動詞の働きに特別な方向性や強さを与える語のことです。例えば，

He runs **fast**.（彼は速く走る）

She smiles **beautifully**.（彼女が美しくほほえむ）

You get **well**. (あなたはよくなる)
We hope **much**. (私たちはおおいに期待する)
などのように，動詞のあとに来て，前の動詞の意味を強めたりする働きのある語のことです。

この形容詞と副詞の意味を知っていることは，たいへん，重要なことですから，しっかりと自分の頭で考えて理解して下さい。それから副詞は，別の副詞を修飾することがあります。

She is pretty. (彼女は、かわいい) She is very pretty. (彼女は非常にかわいい)

この very という副詞は，pretty という形容詞を修飾していますね。

さあ，これだけのことがわかったら，あとは，

(I) thank you much. (たいへん感謝します) (副詞) (I) thank you very much. (非常にたいへん感謝します)

この very は，much という副詞をさらに強めている副詞です。その他に，副詞は，形容詞を強めたりすることもあります。

	She	is	pretty
1(品詞という分け方で考えると)	名詞	動詞	形容詞
2(文型という分け方で考えると)	主語	動語	補語
3(格という分け方で考えると)	主格	動作格	補格
ただし3.の分類法は一般には認められていません			

というように考えてみましょう。

さてこの中で2の「文型」という方向の考え方から見てみると，この文はS＋V＋Cで「第二文型」を作っているのだ，ということを，この先少しずつ理解していかなければなりません。

さらにこのあと指摘しておくべき点として，日本語の「形容詞」「副詞」は，英語の「形容詞」「副詞」と一致しないことが多い，ということも知っておくべきでしょう。例えば，「美しい」という日本語の形容詞は，「美しく」と変化させても，語としては形容詞です。ところが，英文の中で考えると「美しく」というのは，どう考えてみても「副詞」なのです。「美しく咲く」というように，動詞にかかるからです。このことは，実は日本文法学というものが，本当の本当は，たいへん大きな理論的欠陥を秘めている，ということを示しています。

品詞分類法というのが，文法学の基本であり，その中でも「品詞活用表」というのが，日本で出まわっている文法理論の大半なのですが，この「活用」にしてみても，英語の品詞の活用と，日本語の品詞の活用を同じ視点から観察して比較してみようとする学者がこの国には今のところい

ません。「国文法と，外国文法はそもそもちがう」「ちがうからちがうのだ」「お互いの研究分野を侵し合うのはやめよう」と考えているらしいのです。同じコトバの研究なのに，変ですね。コトバというのは，お互いに置き換えられるべきなのですから，すっきりした統一的な文法理論というのが，必要だとは思いませんか。皆さん！

Point 17

疑問形をつくる疑問副詞の働きを理解しているか？

疑問文の前にくるWhere，Who，How などはそれが指し示すものによって、疑問副詞、代名詞、形容詞となる。

the City is a place where Mr. Banks goes everyday.

シティというのは、バンクス氏が毎日出勤するところです。

さて，このようにwhere などによって，二つの文章が前と後につながれてしまう言い方が，英語にはありますね。その代表例は，まず，何と言っても which や who などの「関係代名詞による文」（ポイント27を必ず見て下さい。p.185）ですね。その他に，I think **that**...に見られる「接続詞のthat」による文ですね。（このthatについても，ポイント27を参照下さい。p.185）。その他にもいろいろな種類がありますが，ここでは，以上の二種類のことだけ頭に置いておいて下さい。さてWhereというのはそもそも何でしょう？

Where do you live?

(あなたはどこに住んでいるの？)
は「疑問文」ですので，where（このwhere を疑問副詞と言います）が文の頭に来ているのですね。この文を，もともとの形に戻してみますと，

> You live **where** ?
> (あなたはどこに住んでいるの？)
>
> = You live **in Sendai city** .
> (あなたは仙台市に住んでいる)
>
> You live **in the house** .
> (あなたは家に住んでいる)
>
> You live **in the park** .
> (あなたは公園に住んでいる)
>
> つまり **where**
> ॥
> **in the place** なのだ

なのです。where という一語は，in the place という，三つの語の代わりだ，ということがわかりますね。この場合，where は place（場所）という語よりも，in という前置詞を含んでいるということの方がたいへん重要なことなのです（この点が，「関係代名詞」の文との大きなちがいなのです)。

> ここを副詞句と言います。←
> He lives **in the town.**
> (彼はその町に住んでいる)

live inというような変な熟語で覚えないようにして下さい。かえってわからなくなりますよ。そして，このところを5W1H（いつ，どこで，誰が，何を，どちらに，どうした）形の疑問文にするわけですから，

ふつうの文	1 He lives **in the town.**
これでも立派な疑問文	2 He live **where** ?
疑問文用の倒置形	3 **Where** does he live ?
答えの文	4 He lives **in the town.**

というようなグルグルまわるしくみになっているのです。

in the townという副詞句（主語や動詞や目的語のような文章の骨格となっている語とはちがう，文章のふろくのこと。文章のおしまいの方にくる。金魚のふんのようなもの）が，where という一語で置き換わるので，このwhere を副詞というのです。そして，この場合は疑問文「どこに」ですから，疑問副詞というのです。

したがって，カンのいい人なら，これだけですぐにわかるでしょうが，では，what や who は品詞名で言うと何でしょう？

What is he?　　（彼は何ですか）
= He is **what**?　　（彼は何ですか）
He is **a teacher**.　　（彼は先生です）

このwhatは，疑問代名詞と言います。

なぜなら，「先生」という名詞の代わりをしているから

です。同じく,

Who is she? (彼女はだれですか)

= She is **who**? (彼女はだれですか)

She is **Mary**. (彼女はメアリーです)

この who は,「メアリー」の代わりをしているから,こちらも疑問代名詞ですね。How はどうでしょうか。

How is he? (彼はどうですか?)

= He is **how**? (彼はどうですか?)

He is **fine**. (彼は元気です)

この fine は, **形容詞**ですね。だから, その代わりをしているこの how は, 疑問形容詞と言うのです。which はどうでしょうか?

Which book do you like? (あなたはどちらの本が好きですか) You like **which** book? (あなたはどちらの本が好きですか) I like **this** book. (私はこの本が好きです)

which は this という指示形容詞の代わりをしているわけですから, 疑問形容詞ですね。これだけのことがわかれば, かなり英語の文章のしくみというのが, わかりはじめたと言えると思います。

Point 18

不定詞のほんとうの性格を知れば、もっと前進できる

不定詞は動詞なのだ。前の方に動詞を使っているから“一文章一動詞”の原則に違反しないよう、前置詞toをつけて不定詞にするわけ。

He gave her some money to put in the money box.

彼は貯金箱に入れさせるために彼女にちょっとしたお金をあげました。

私たちは，ふつう英文の中で，to がくっついている動詞のことを「不定詞」(infinitive〈インフィニティブ〉) と呼んでいます。最も代表的な文章は，

副詞的用法	I come **to see** you. (私はあなたに会いに行く) ↑ (私はあなたに会う**ために**行く) I want **to go** there. (私は、そこへ行きたい) (名詞的用法としてもいい) ↑ (私はそこへ行く**ことを**欲する)
形容詞的用法	I want something cold **to drink**. (私は何か、冷たい飲みものがほしい) ↑ (私は飲む**ための**何か冷たいものがほしい)
名詞的用法	**To see** is to **believe**. (見る**こと**は信じる**こと**だ→百聞は一見にしかず)

などです。

ふつう私たちは，不定詞がくると，瞬間的に上の三つの用法があるというふうに，中学二年生以来覚えこまされてきました。そして，

副詞的用法	「～するため**に**」
形容詞的用法	「～するため **の** 」
名詞的用法	「～する**こと**」

という日本語訳が決まっていることになっています。

だから，このテキストでも，不定詞が出てくるたびごとに，原文忠実訳の方は，上の日本語のうちのどれかをそのままあてはめて訳してあります。

このことをさらに例文をあげて考えてみましょう。

He tried to do it.

という英文があると，私たちには，次の四つの訳し方が考えられます。

①彼はそれを**するために**試みた。

②彼はそれを**することを**試みた。

③彼はそれを**しようと**試みた。

④彼はそれを**しようと**した。

①は，この不定詞が「副詞的用法」なので，「～にするために」とやったわけです。すると日本語としては，なんだかおかしな文章になってしまいましたね。②は日本文としては，おかしくはないのですが，「～すること」とやっていますのでまるで，名詞的用法の訳し方になってしまい

ました。問題ですね（しかし，ふつう私たちは，このように訳しています。この点を考えてみて下さい)。さて③は，なかなか日本語としてはなめらかですね。「～しようと」とやって，「と」を使うと，自然な感じが出るのですね。④は，try という動詞を，あえて「試みる」と訳さないで，「した」とやってすらりとした日本語にしたのです。テキストの「なめらかな訳」の方では④の訳になっているはずです。

さあ，そこで，この「不定詞の三つの用法」というのは，一体全体，どういうことになるのだ，ということを考え直してみましょう。そもそも，「副詞的」とか「形容詞的」とかいうのは，何のことなのでしょうか？

「名詞的」というのは，皆さんにもすぐわかりますね。動詞に to をつけて「名詞のようなものとして使う」ということです。だから「～すること」でいいわけですね。

次に「形容詞的」と「副詞的」というのは何でしょうか。「形容詞と副詞」については，ポイント⑯（p.93）で説明してありますから読み直して下さい。しかし，ここでもう一度，念のため説明しましょう。

形容詞	名詞を飾るコトバ
副　詞	動詞（ときには副詞、形容詞も）を飾るコトバ

そうすると，それぞれ形容詞的と副詞的というのは，それぞれ，名詞か動詞のあとにきて，前の詞を飾るのだな，ということがわかりますね。だから，形容詞的用法は，

「〜するための何々」なのですね。副詞的用法は，「〜にするために何々する」であるわけです。これで，一応学校で皆さんが習っておくべきことの復習は終わりです。

さあ，冒頭にあげたこのテキストからの例文を，もう一度見直してみて下さい。「貯金箱に入れる**ために**お金をあげた」という訳は，少しおかしいと思いませんか。その場面の情景に合わせて考えると，これは「彼は彼女にお金をあげた。**そしてそれを**（彼女は）貯金箱に入れた」と訳した方が賢いでしょう。このように，「副詞的用法」と言われるものは，なんでも「〜にするために」と目的や理由の意味に訳せばいいというものではないことを，わかって下さい（だから，わざわざこのような例文の場合を，「結果用法」と説明する教科書があります）。ここから，いわゆる「用法分類」という考え方自体がそもそも疑わしい，ということにピンときて下さい（同じようなことが例えば「現在完了形の四つの用法」と言われるものにも見られます）。「用法」で覚えればすむというのは，はっきり言って，おつむの程度の低い考え方です。そのことの説明を，これからやりましょう。

さあ，そもそも「不定詞」というのは，何なのでしょう。皆さんは不定詞という品詞を初めて教えられたとき以来，不定詞というコトバを何十回も聞いていますが，その「不定」というのは，どういう意味なのか知っていましたか。「不定詞」という品詞を，辞典で引くときは，何を引くのですか。「動詞」を引くでしょう。そうなのです。不定詞というのは，動詞のことなのです。もっとくわしく言うと，

動詞なんだけれども，その文章の中に，前の方にすでに別に動詞があるから，動詞とは言えなくなって，そこで仕方がないから，**toという前置詞**を付けてもらって，「不定詞」という名前をもらったコトバのことなのです。だから，正確に言うと，不定詞というのは，**動詞の不定詞形**のことなのです。これを原形不定詞と言ったりする先生たちがいますが，不定詞というのは，いつでも必ず原形なのです。だから不定詞なのでしょう？　そうではありませんか。したがって，私の考えを徹底させると，不定詞というのは，日本文法で言う**動詞の終止形**ということになります。I want **to go** there.の不定詞goは，「行くということ」つまり「行く」という基本形なのです。これを不定詞と言うのです。ちょっとむずかしいことを書きましたので，なかなかわかりにくいと思います。しかし，しっかり考えてみて下さい。

英語の文章は，たいてい主語＋動詞＋目的語（or 補語）という形をしています。したがって，一つの文章に，動詞が二つ（以上）あるというのは，おかしな話になってしまうのです。これを，『一文章一動詞の原則』（Principle of one verb in one sentence ）と，私は名づけています。そして，この大原則に反して，動詞が二つ以上あるとき，あとの方の動詞には前置詞のtoをつけて，「不定詞」という名前にしたのです。これが，理由のすべてなのです。このことがわかったとき，皆さんは，初めて「不定詞」の意味がわかることになるのです。

もっとわかりやすく，日本語との関係で考えてみましょ

う。

日本語の動詞には，連語動詞というのがあって，「作り上げる」とか「死に絶える」とか「考え込む」とかいうふうに，「作る」と「上げる」の二つの動詞をくっつけてまるでひとつの動詞としてしまう，たいへん便利な使い方があります。見事な合成語法と言うべきでしょう。ところが，英語というすばらしく簡潔なコトバには，この連語動詞というのがありません。

そこで，何か言いたいときに，どうしても**二つの動作性**をひとつの表現の中にとじ込めなければならない必要に迫られるのは避けられないことでしょう。そこで，動詞を二つ（あるいはそれ以上）くっつけるようにして使う方法が，発達したのです。また，そのために，私たち外国人が，英文を正確に読もうとするとき，いろいろ苦しむことになったわけなのです。けれども，その苦しみも大半はわけもわからず「用法」とかいうふうに覚えこもうとするからなのです。

to go は to と go の二語あわせて不定詞なのではないのです。to はただの前置詞なのです。go だけが不定詞なのです。

そして，不定詞というのは，もともと動詞のくせに，副詞のような顔をしてみたり、形容詞のように名詞のあとからくっついてみたり，名詞そのものとして使われたりするというわけです。これだけのことがわかれば，さあ，皆さんは，自分の足で立って，英文の中の「不定詞」をやっつけながら読みすすめて行くことができるのです。前進!!

1-07-A

❶ So Mr. Banks went off to cut out some more money, and Mrs. Banks wrote letters to the newspapers.

wrote letters

I wrote to you.で「私はあなたに手紙を書く」となり，write toだけで「手紙を書く」という意味まで含む。ここでのlettersは求人広告の依頼状の意味で，「新聞社に広告の依頼状を出しました」と訳せる。

❷ In these letters she asked if anyone knew of a children's nurse.

1-07-B「ガチガチ訳」

❶そこでバンクスさんはいくらかのもっと多くのお金を切り出すために出かけた。そしてバンクス夫人は新聞に手紙を書いた。

❷これらの手紙の中で彼女はもし――子供たちの乳母を知った誰かがいないかとたずねた。

1-07-C「なめらか訳」

❶こういうふうにしてバンクスさんがもっとお金を切り取るために出かけると，バンクス夫人は新聞に手紙を書きました。

❷この手紙の中でバンクス夫人は，誰か保母［に適当な人］を知っていないか問い合わせました。

1-07-A

❸ Upstairs, in the nursery, Jane and Michael sat and waited for this new nurse.

Upstairs, in the nursery,

この upstairs は「二階に，二階で」という副詞，正確に訳すと「二階では，保育室で」となる。

❹ They were glad to get a new one, because they did not like the old one.

❺ In the evening they sat at the window and looked down the road for her.

❻ The cherry trees were dancing in the cold wind.

1-07-B「ガチガチ訳」

❸二階の子供部屋で，ジェインとマイケルは座って新しい保母を待った。

❹彼らは新しい一人を得ることを喜んだ。なぜなら，彼らは古い一人が好きではなかった。

❺夕方に彼らは窓に座り，そしてこの新しい保母を待った。

❻桜の木は冷たい風の中でダンスをしていた。

1-07-C「なめらか訳」

❸二階の子供部屋では，ジェインとマイケルが座りこんで，次の新しい保母さんを待っていました。

❹子供たちは，新しい人が来るのを喜んでいます。というのも，二人は，前の人が嫌いだったからです。

❺夕方，二人は窓のところに座って，**新しい保母さんが来ないかと**，通りを見おろしていました。

❻桜並木は寒い風にあおられて舞うように揺れていました。

forというコトバは「〜へ」という方向を表わすだけではない

waited for this new nurse.（1-07-A❸）

thisは「今度の」で，「この」ではない。まだ新しい保母さんはきていないのだから。例えば，今日が月曜日で，今週の金曜日に会おうと言う場合，See you, this Friday. とthisを使う。「今度の金曜日」という意味。それを来週の金曜日にと言うつもりなら，next Fridayとする。つまり「次の金曜日」。日本語だと，この区別は英語ほどはっきりしていないので，「今度の」をnextと言ってしまったりしないように注意がいる。waitだけでも，「待つ」の意味なのだからforは単なる強めのために置かれている。私たちはwait forを「熟語」だと覚えさせられてきた。そして，この種のforを「原因」とか「目的」の用法としての「前置詞」と習わされた。しかし，もう少し考えてみると，このfor はただの「副詞」ではないのだろうか。私の考えでは，「後置詞」だ。「前置詞」と「副詞」の違いについてはポイント⑳（p.115）を参照。

They were glad to get a new one,（1-07-A❹）

このgetはemploy「雇う」の意味だ。つまり「新しい人を雇う」ことだ。

getはごく普通の日常語で使う「やる」「する」という汎用語なので，ここではさらにget をhaveに置き換えて考えることもできる（haveのくわしい用法についてポイ

ント23参照p.140)。そしてそのhaveを「彼らは新しい保母さんを得たのが嬉しかった」と考えるのが基本だが，haveをそのように「持つ」「得る」とだけ考えないで，「いる」「ある」というふうに考えて「保母さんがいてくれるようになって嬉しい」としてもいい。a new one, oneは人称代名詞，the old oneはthe former「前の保母さん」のこと。

they sat at the window and looked down... (1-07-A❺)

ここ数行のtheyはジェインとマイケルなので，「二人は」としているが，何度も繰り返し出てくる場合にはいっそのこと，とっぱらってしまってかまわない。日本語では，いちいち入れていくとうるさい感じになる。

英文の中に出てくる代名詞が
何を指すのかをしっかり理解しよう。

for her (1-07-A❺)

herは「新しい保母さん」。英語では前の文章に出てきた人や物を，話しが進んでしまってからでも代名詞のままで登場させてしまうので，まどわされないように。

Point 19

ifを「もし〜ならば」とだけ覚えてはいないか？

仮定法の文章は二つのタイプしかない。文頭にifがついたからといって、すべてが仮定法の表現というわけではない。

She asked [if] he knew of it.

彼女は彼がそのことを知っているかどうかたずねた。

ifという語がくると，皆さんはなんでもかんでも「もし〜ならば」だとだけ覚えているのではないでしょうか。そのような「もしも」の if で始まる文章を**仮定法**（**conditional**）の文と言います（条件法，あるいは，叙想法と呼ぶ人もいます）。この仮定法の文は，ちょっとやっかいな問題をかかえています。

まず，次にあげる二つの例題だけを，しっかり暗記して，仮定法の文章は，実際には，この二つのタイプしかないのだなということをわかってほしいと思います。

Ⅰ仮定法過去
If I had the book, I would give it to you. （もし、私の手元にその本が**あれば**、あなたにさしあげる**のですが**） If I were a bird, I would fly to the sky. （私が鳥だっ**たら**、空に飛ぶ**のに**）
Ⅱ仮定法過去完了 If I had known it, I would have told you. 私がそれを知ってい**たら**、あなたに教えた**だろうに**。

この二つの例文を覚え込むことによって，仮定法のむずかしい問題は解いてゆけるのです。

Iの例文は，現在の事実に対して現在の時点での「仮定」を表わしています。「もしAがBなら，CはDでしょう」という判断を示しているだけなのです。それに対して**II**の「仮定法過去完了」は，語る人に感情がこもります。「あの時私（あなた）が～していたら，私（あなた）は～だったのに」というふうに「たら」「のに」という言い方にみられるように非難や反省やくやしさを含んでいるのです。「仮定法過去完了」は「過去の事実」に対して現在の時点からふりかえって，あれこれ悩んでいるのです。

ふつう教科書では，仮定法は四つあることになっていて，上の二つ以外にも「仮定法未来」と「仮定法現在」というのがあるとしています。この二つの文は，ほんとうは，実際の英文ではめったに見かけることのないものです。それを上の二つといっしょに習うので，私たちの頭は大混乱を起こすのです。例えば，

a. If it will be fine, we will go there.
（もし，晴れそうだったら，そこに行こうよ）

これは，文の形から，「仮定法未来」に分類されてしまいそうです。 If の文の中が will be というように未来形になっているからです。しかし，ちょっと考えてみればわかるように「仮定法未来」というのは，ただの未来なのです。私たちが誰でも，日常でしゃべっているように，「明日～だったら～しよう」という言い方なのです。

そして，上の a. の例文は通常は

a′. If it is fine, we go there.
（もし，晴れそうだったら，そこに行こうよ）
という文章とまったく同じ内容なのです。このa′の例文のことを指して「仮定法現在」と言いたければ言ってもいいのです。しかし，そう言って何の役に立つのでしょう。
そして「仮定法現在」というのは，英米人ですら現在では使わない言い方ですので，この形の文にまどわされる必要はありません。要するに「文語」「堅苦しい言い方」すなわち「古語」なのです。これを，無理やりに，はじめの二つ，つまり「仮定法過去」「仮定法過去完了」と同じ種類のものと考えたことが，そもそものまちがいなのだと思います。「仮定法」とただの「仮定的な言い方」とは，ちがうのです。このことが長年わからなかったので，私たち日本人は「仮定法」というものが何なのかわからないできたのです。（私の考えでは，英語以外のヨーロッパ語では，「仮定法」ではなくて，「接続法」という文法理論が中心のようです。）
そして，そのくせ，「仮定法」の試験問題としては，はじめの二つの「仮定法過去」と「仮定法過去完了」以外の「古語」を平気で出題するのです。このことが，混乱にさらに拍車をかけているのです。ですから，私たちとしては，まず，はじめの表の「二つの仮定法」の文の形をしっかり覚えて，それを書けるようになること，その次に，「ただの未来のことの仮定的な言い方」を自由にwillを使って言えるようになればそれでいいのです。
さて，はじめの三つの例文に話をもどしましょう。まず

大切なのはⅡの方で，この例文のお尻半分のコンマ後の方の文（これを「帰結」apodasisの文と言います）にはwould have beenというふうに，ここに助動詞のwouldという語がくることです。このことを覚えることが何よりも大切なことなのです。これ以上のことはわざと説明しないことにします。この三つの例文をしっかりと見比べて，どうちがうかを考えてください。

そして，はじめにあげた，**ask if** の if が「～かどうか」であることを忘れないで下さい。if がきたら何でも「もしも」だと思わないで，その前に，「かどうか」という意味があることを理解しましょう。また，「仮定法」と「ただの仮定的な言い方」とはちがうのだということを肝に命じてください。

Point 20

ofという不思議な前置詞を理解するのはむずかしい

前置詞を他の単語と結びついた形で覚えると、英文の微妙な表現は理解できない。

He knew of her.

彼は彼女について知っていた。

この文からofを取り去って，

He knew her.

（彼は，彼女を知っていた）

とやって，文としてまちがいでしょうか。そんなことはあ

りません。こっちでも正しい文です。同様に，

I think of it.

（私は，そのことを考える）

と，

I think it.

（私は，そのことを考える）

は，同じですね。どうして，このように前置詞のofというのは，くっついたり，取れたりするのでしょうか？

ふつう学校の英語の先生たちは，このような動詞のあとにくる前置詞は，動詞と組になっていて，それでキマリ文句，すなわち，熟語なのだから覚えなさい，と教えます。私たちは，何だかよくわからないけど一応覚えることにしています。しかしですね，なぜそうなっているの，ともう一度聞きに行くと，先生たちは顔を青くして，ふるえあがるのです。これは日本人の英語教師だけでなくてアメリカ人の英語教師に聞いても同じことです。要するに，この人たちは「覚えなさい」という以上のことは考えてはいないのです。これが英語文法理論の実際の水準なのです。英語のことなんか何にも知らない皆さんとたいした差はないのです。ほんとうのことを言うと。

熟語を覚えてすむのであれば，辞典に載っている重要熟語を全部覚えれば，英語がもっとわかるようになるはずではないですか。実際は少しもそんなことはないではないですか。**私は，熟語で覚えよう主義が大嫌いな人間です。**熟語ですむなら文法理論などいらないのです。

さあ，この of について考えてみましょう。of だけでは

ないのです。他の with や for や in や to や by などの前置詞の場合にもまったく同じことが言えるのです。例えば，

I marry to you. （私はあなたと結婚する） I marry you. （私はあなたと結婚する）

to がつくのとつかないのとどちらが正しいのか，しゃべっている英語人にもわからないそうです。何かとっても微妙な差がありそうな気がしますが，うまく説明はできないのだそうです。でも何とか，前置詞がついたりつかなかったりする場合の説明をやってみましょう。

まず，冒頭の例文の of の例ですが，

I know **it** of him.

というふうに，knowのあとにitという代名詞を置いてみます。同じく，

I think **it** of **him**.

というふうに考えると，この文も，なるほど，というふうになります。このように，動詞とそのあとにくる前置詞（と言われているもの）の間には，今ひとつかくされている本来の目的語が浮かびあがってくる気がします。

ドイツ語の動詞にはこのように，目的語を間にはさみ込む動詞がたくさんあります。動詞自身が二つに分裂してしまうのです。分離動詞と言います。つまり，ofknowとかofthink という形に相当する動詞が実際にあるのです。そして，この動詞が二つに分裂することと，同じく目的語も

二つに分裂することがあります。それを，むずかしい文法理論では，分離主体と言います。ラテン語の文法では，「奪格（だっかく）」と言います。

例えば，ふつうの英語にも，

I pat him **on the** shoulder.

（私は彼**の**肩をポンとたたく）

というような重要な例文があります。これなどは，

I pat **his** shoulder.

と言えばすむのに，わざわざ him と shoulder を分けて考えて，しかも，その shoulder に the をつけるというキマリになっています。「彼」と「彼の肩」が分裂して置かれているので，これを分離主体あるいは，奪格と言うのです。of という語の使い方の秘密もこの辺にかくされています。

He is my friend.

（彼は私の友人です）

と言えばいいのに，わざわざ，

He is a friend **of** mine.

（彼は私の友人です）

という言い方を時々しますね。ここにも，分離主体のしくみが非常によく観察できます。

だから，このように，動詞のあとに of や for や with がくるときは，実はその間に，昔は本来の目的語がおかれていたのだ，それがいつのまにか省略されてしまうようになったのだ，と考えないわけにはいかなくなります。そうでないと，of がつく場合とつかない場合の区別などできなくなってしまうではないですか。

さらに言いましょう。この of はほんとうは，前置詞ではありません。think の後にあるから**後置詞**なのです。この後置詞という考え方はアメリカの文法学者の中でも新しい考え方ですが，私は採用したいと思います。ふつう，私たちは，日本語の助詞の「て・に・を・は」と，英語の前置詞がよく似た働きをしているということを知っていますが，そのしくみのちがいを観察してみると，

私「は」学校「に」行き「ます」

というふうに，日本文では，私，学校，行く，という主要な語のあとに助詞や助動詞の「は」「に」「ます」などが置かれているのであって，「は私」，「に学校」「ます行く」とはなっていません。英文では，

I go **to school**.

というふうに，to school「に学校」になっているのであってschool to とは言いません。だから，この to は，後置詞なのです。前置詞というのは，in the morning「午前中に」のときの in のように morning の前にあるものや，at 3 o'clock「3時に」の at のようなものを言うのです。この区別の仕方がわかっていただけたでしょうか。

さてそこで，ふつう熟語で覚えましょう，と言うとき，三語連語の形のものがあります。catch up with「おいつく」や，make up for「つぐなう」put up with「がまんする」などですが，ここに出てくる up という語は，決して前置詞ではありません。副詞なのです。前置詞と副詞はしっかり区別して下さい。

1-08-A

❶'Look, there's Daddy,' said Michael when they saw someone at the gate.

❷'No,' said Jane, 'that's not Daddy. That's a woman.'

❸The woman was holding her hat on with one hand, and carrying a bag and an umbrella in the other.

carrying a bag and an umbrella in the other.

carry を「運ぶ」とだけ覚えるとあとで困ったことになる。bring とか carry はたいへん広い意味を持った言葉なので意味の広がりがかえって理解しにくくなってしまう。ここでは「持っている」でかまわない。そして，バッグと傘をそれぞれ小わきにかかえているのだから，ここでは「かかえる」という言葉の方がぴったりくる。

1-08-B「ガチガチ訳」

❶「見て，お父さんがいる」彼らが門のところに誰かを見た時マイケルは言った。

❷「ちがう」とジェインは言った。「あれは女の人です」

❸その女の人は片手に帽子を持ち，もう一つの手にカバンと傘を持っていた。

1-08-C「なめらか訳」

❶「ほら，お父さんだ」門のところに誰か見えた時，マイケルが言いました。

❷「ちがうわ」とジェインは言いました。「あれ，お父さんじゃないわ。女の人よ」

❸その女性は，片手で帽子を**押さえ**，もう一方の手にバッグと傘を**かかえていました**。

1-08-A

❹ When she was inside the gate, the wind blew very hard.

When she was inside ....

　日本語の「ある」「いる」には動きが含まれないが，beには「ある」だけでなく「なる」「ゆく」などの生成や移動までも含む。she was inside the gate は「門の内側に入って行った」ということ。

❺ It threw her at the front door of the house.

❻ There was a loud bang and the house shook.

There was a loud bang ....

　bangは「バーン」という音。音は「あった」ではなく「した」。

1-08-B「ガチガチ訳」

❹彼女が門の中にいた時，風がたいへん強く吹いた。

❺それは彼女を家のドアの前に飛ばした。

❻大きな音と家の揺れがあった。

1-08-C「なめらか訳」

❹その人が門の中に入った時，風がとても激しく吹きました。

❺その風は彼女を家の玄関の前まで一瞬のうちに運びました。

❻バーンと大きな音がして家が揺れました。

1-08-D

英文をその流れに沿って，前から訳し出すクセをつけよう

when they saw someone.... （1-08-A❶）

「二人が門のところに誰かを見た時」とまず原文に忠実に訳してほしい。しかし see は，前に find の例で述べたのと同じく，目的語の方を「～を」と置けば「見る」だが，「～は（が）」と置けば「見える」となる。しかも日本文の慣習からいえば，ここで見ているのはマイケルとジェインに決まっているのだから，いちいちthey「二人は」と置く必要はない。そこでここは「誰かが門のところに見えた時」とすると簡潔な表現となる。ここでは，これまでの英文和訳の習慣にしたがって，when以下を後から訳してsaid Michaelにつないだが，to不定詞についてもそうであったように，whenの場合にも，英文の流れの通りに読み，前から流れにそって訳す方が適切だ。もちろん，日本語の性格からしてすべてそのようにできるとは限らないが，できるだけそうするべく努力しよう。するとその努力が確実に英語を読み理解し日本語の表現として自然なものにする能力を養うことになる。

単語を日本語の一つの意味だけで覚えてしまうと英文は読みとれない

It threw her at .... （1-08-A❺）

Itは風のこと。throwの意味は，ふつう「投げる」だが，ここでの使い方に対してはまったく役立たない。瞬間の内

に行われる移動について使う言葉で，一語で対応する日本語はない。carry や bring などと同様，こういう言葉は「訳語」で覚えないでその場の雰囲気で納得しておきましょう。

Point 21

時間の幅を持つ動詞たち、hold, keep, put, stay

She holds her hat.

彼女は自分の帽子をおさえている。

このholdという動詞は「～しつづけている」という意味を内部に含み持っています。つまり一定の時間を継続させる性質の動詞なのです。このholdには似たような仲間たちがいます。それは，keep，put，stay，go on，run といった動詞たちです。これらも継続を内包している動詞たちですから使えるようになりましょう。例文としては，

He runs a shop.
（彼はお店を経営している）
He keeps a dog.
（彼は犬を飼っている）
He stays there.
（彼はそこでじっとしている）

を知っておきましょう。

1-09-A

❶'How funny! I've never seen anything like that before,' said Michael.

❷'Let's go and see who it is,' said Jane.

go and see

これは go to see と同じ。「見に行く」。同様の表現に，come and see (You come to see me.)「うちにいらっしゃい」がある。「読み終わる」のような日本語に相当するものとしては，連語動詞がある。動詞二つがつながって，動作，行為を表わすもの。「不定詞」についてはポイント[18]を参照(p.100)。

who it is,

it として she としていないのは，まだそれが女性かどうかはっきりしていないから。ドアがノックされた時に「どなた？」と聞く場合もだから，Who is it？ となる。

... said Jane. She and Michael ...

英語ではすぐ前の文に出た語をくり返すのは美しくないとして，避ける。したがってここでは Jane の代わりに She をもってきている。日本語ではむしろ同じ語を反復して文の調子をつけるところがあるのだけれど。

1-09-B「ガチガチ訳」

❶「なんて変なんだ。あれに似た何かを前には決して見たことはない」とマイケルは言った。

❷「それが誰なのか行って見てみよう」とジェインは言った。

1-09-C「なめらか訳」

❶「わあ，変なの！　ぼく，あんなの今まで見たことないや」とマイケルは言いました。

❷「行こうよ，誰だか見に」とジェインは言いました。

❸ She and Michael went out of the nursery to look down the front stairs.

❹ They saw their mother, and a visitor.

❺ The visitor was a woman with shiny black hair —'like a doll,' said Jane—and large hands and feet.

❻ She was very thin.

❼ They could just see her small, sharp blue eyes.

1-09-B「ガチガチ訳」

❸彼女とマイケルは一階を見降ろすために子供部屋を出た。

❹彼らは彼らの母親と訪問者を見た。

❺訪問者は輝く黒髪をした女性で――「人形みたいだ」とジェインは言った――大きい手と足だった。

❻彼女はとてもやせていた。

❼彼らは彼女の小さくて鋭い青い目を見ることができた。

1-09-C「なめらか訳」

❸ジェインとマイケルは子供部屋を飛び出し，玄関の階段を見おろしました。

❹お母さんとお客さんが見えました。

❺そのお客は，つやのある黒髪の女性で――「お人形さんみたい」とジェインは言いました――大きな手足をしていました。

❻彼女はとてもやせていました。

❼二人には，やっとどうにか彼女の小さな，鋭い青い眼が見えるだけでした。

1-09-D

英文を日本語に訳すとき、誤訳、珍訳を恐れるな

I've never seen anything like that before. (1-09-A ❶)

現在完了形になっているが，こういう文法上の形式をいちいち気にして訳し分ける必要はない。日本語にはこれに一対一で対応する表現の形式がないのだから，ひとまず英文の意味を大ざっぱにつかんだら，日本文として自然に前後につながるようにすればよい。誤訳や珍訳はどうせ避けられないのだからどんどんやればいい。間違いをやって，それが間違いだったことがわかれば，同じ間違いはやらなくなるものだから。とにかく完全な訳なんてない，誰だって（学校の英語教師だって）多かれ少なかれ誤訳，珍訳をやっているのだから，あまりガチガチに訳そうと構えないことが肝心だ。

I never saw anything like that....は「私はあのようなもの（こと）を前に全然見なかった」。さて，大ざっぱに意味がつかめたら，今度は日本語の文章表現の工夫をする。「見ていない」「見なかった」は口語では普通「見たことがない」とやる。この「こと」というのは「見る」「聞く」「する」など動作や行為を表わす動詞には何にでもくっついてしまう。現在形につくと動詞を名詞化し，過去形につくと現在までの経験を表わす。というわけで，日本語の表現にとって欠かせないこの「こと」を使ってみると，I never saw anything like that before. は「私はあんなもの

を前に見たことがない」とできる。

Point 22

letという使役動詞の使い方を覚えよう

Let's goとはLet us goなのだ。つまり「私たちが私たちを行かせる」という意味。let というのはそのうえに丁寧な表現が含まれる。

Let's を「～しましょう」とだけ覚えているから，高校生になってから，大混乱するのです。

Let us go.の let は，使役動詞 make の重要な一員で，この let の使い方がよくわからない人は，絶対に大学入試レベルの英語の学力がつくことはないと思ってよろしい。これは，元の形は，

We **let us** go.
（私たちは，私たちを行かせよう）

なのです。「私たちが私たち**をして**行かせしめる」と古風な日本語で言った方がピンとくるかもしれません。「～をして～せしめる」という使い方をする動詞のことを使役動詞というのです。make，have，help，bidなどがありますが，その他に，これにきわめて接近してきている動詞としてget，want，hope，wishなどがあります。とりわけgetという語は，現在のアメリカの若者たちのおしゃべり会話を占領したと言っていいほどよく使われています。このget は，be，have，make，take，mustなどの重要動詞

の代用をしているのです。

このような一見かんたんにみえる，letという一語を，let'sで「〜しましょう」というふうに軽く考えることが，あとあと英語の勉強でのたいへんなつまずきの元になるのです。

I let him go.
(私は彼を行かせる)
(You) let me see.
(あなたは私に，それを見させる)
(→あなたは私に，考えさせる)
(→ちょっと考えさせてください)
(→あのう)

(You) let me show you it.
(あなたは**私に**あなたにそれを見させるのを，させて下さい)
(→どうぞ，これをご覧下さい)

そしてこれらもまた，**第五文型**という最高級にむずかしい文章の型（形ではない！）の重要な例なのです。(第五文型についてはポイント38参照p.357)

このletは，「バカ丁寧に相手の許可を求める」というような意味の動詞なのです。たいへんにへりくだった（謙譲の）表現なのです。だから，この let は，英語のおしゃべりの中でもひんぱんに出てくるのです（このことはポイント30 p.236 「動名詞」のところで同じことを別の方向から考えていますが)。

英語の文章というのは，内容の点から根本的に考えてみ

ると，次の三つの質問型からできています。

① May I open the window?

（**私が**窓を開けてもいいですか）

② Would you（please）open the window?

（**私のために**）（**どうか**）（**あなたが**）窓を開けてくださいませんか）

③ Do（Would）you **mind me opening** the window?

（私が窓を開けることを，あなたは気にしますか？）

（→［私］が窓を開けても［あなたは］いいですか）

この①→②→③の段階で複雑化してゆく，おしゃべり質問の形が，じっくりと理解できた人は，英語のしくみがはっきりとわかったと言える人です。わずか，この三つの言い方の中に，きわめて高級な英語の理論がかくされているのです。しかし，ここでそれを説明しつくすことは，もはや無理と言わざるをえません。ただ，次の一行の意味を正確にわかっていただければ，それで，私としては満足と致しましょう。

Would you **let** **me help you off with** your coat, Madam?

（どうか，私に，貴方（あなた）がコートをお脱ぎになるのをお手伝いさせて下さいませ，奥様。）

こんな気どりに気どった表現形まで，編み出した英語というコトバの前で，敬語が発達しているのは日本語だけだ，などと平気で言っている人は，考え直す必要があるでしょう。

1-10-A

❶'They are really very nice children,' Mrs. Banks was saying, in her soft voice.

Mrs. Banks was saying,

進行形というのは英語にしかないが，要するに口調上のちょっとした変化で，意味上の違いはたいしてない，と考えればいい。つまり，進行形なる文形があると考えるのではなく，be 動詞に ing がついて形容詞に変身しつつある動詞がついているとみなせばよいということだ。

in her soft voice.

in は前置詞の中では，一番やさしいと考えられている。しかし，実際の使い方ではちょっと高級な感じのものがよくある。speak in English（英語で話す），write in ink（インクで書く）とかのような使い方。日本人には by（〜によって）とのちがいがむずかしい。

❷'You won't have much difficulty with them.'

❸Above their heads, Jane and Michael looked at one another.

1-10-B「ガチガチ訳」

❶「彼らはとても非常によい子供たちだ」バンクス夫人は彼女の柔らかい声で言っていた。

❷「あなたは彼らについて多くの難しいことは持たないでしょう」

❸彼らの頭の上でジェインとマイケルは互いを見つめた。

1-10-C「なめらか訳」

❶「みんなとてもよい子たちなんですよ」とバンクス夫人は，優しい声で言っているところでした。

❷「あなたの手に負えないようなことはありませんわ」

❸［話をしている］二人の頭上で，ジェインとマイケルは互いに顔を見合わせました。

❹ The visitor sniffed loudly.

❺ Perhaps she did not believe it.

she did not believe it.

　このitはバンクス夫人の言ったこと，子供たちが面倒をかけないということをさす。

❻ 'And have you a letter,' Mrs. Banks went on, 'from the family you were working with before?'

Mrs. Banks went on,

　go on「続ける」。この on は先行する言葉 saying の継続を表わす。

1-10-B「ガチガチ訳」

❹訪問者は大きく鼻をすすった。

❺たぶん彼女はそれを信じていなかった。

❻「そして手紙を持っていますか」バンクス夫人は続けた。「あなたが前に働いていた家庭からの」

1-10-C「なめらか訳」

❹そのお客は，大きな音をたてて鼻をすすりました。

❺たぶん，彼女は［バンクス夫人の言う］そんなこと信じていなかったのです。

❻「それで，紹介状をお持ちかしら」とバンクス夫人は続けました。「前にお勤めになっていたお宅からのものを？」

1-10-D

really は口語でよく使われる「本当に」「すごく」といった強めの表現

They are really very nice children, (1-10-A❶)

このtheyはchildrenだが，この家のすべての子供たちを含むので，「みんな」と訳した。こういうところが，日本文の方に工夫がいるところで，「彼らは」とやると「彼ら」が誰をさすのか漠然としてしまう上に，唐突な感じさえ与える。reallyは「本当に」「すごく」といった口語の感じが強い語。

haveには「持つ」という意味だけではなく「ある」「なる」という意味もある

'You won't have much defficulty with them.' (1-10-A❷)

You won't はyou will notの短縮形。haveは，「持つ」ではなく「ある」ないし「なる」の場合もある例（別項ポイント㉓参照p.140）。withについては，まず「と」と覚えるといい（withはそのほかに付帯状況，理由，所有，材料を表わすが，これらも，基本の「と」で表わされる関係から派生する）。

Above their heads,.... (1-10-A❸)

above は前に出た upstairs と同様副詞で，「～の上に」という方向を示す。their heads はバンクス夫人とお客の頭。この二人の頭上で，ジェインとマイケルは，looked at one another「たがいに顔を見合わせた」lookには「目」だけでなく「顔」も含まれている。「ルックスがいい」な

んて日本語にもなっているぐらいだから。one another は each other と同じ「たがいに」。

前にある名詞が目的語や補語のとき関係代名詞は省略される

'from the family you were working with before?'
(1-10-A❻)

これはyou were working with が the familyにかかっているもので，関係代名詞が省略された文。the familyとyouの間にwhichが入る。work with「～と働く」は，相手が場所や集団の場合，「～で働く」となる。「あなたが[そこで]働いた家庭」という風につながるのを，whichが入ると，そのwhich が場所を示すことになる。前にある名詞が，それにつながる後の文章の目的語や補語になっている時には，関係代名詞は省略されるが，これもその一例。

Point 23

haveを「持つ」とだけ知っててもダメ

haveはbe動詞の次に大事な動詞
be動詞とhaveは兄弟なのだ。
be動詞は必ずhaveに置き換わる。
You have difficulty with them.
あなたは彼らに手こずる。

①You have difficulty with them.
（あなたは彼らにむずかしさを持つ）
（→あなたは彼らに手こずる）

haveは，be動詞のつぎに重要な動詞であることは，誰でも知っています。英語の動詞は，beとhaveとdoが横綱クラスで，あとはまあ，getと make とか think とかが大関とすれば，その他の40個ほどの幕内力士がいて，あとの一万語ぐらいの動詞は，すべて，ヒラの動詞たちです。このヒラたちは，要するに「～する」という日本語の形で覚えられるものです。

だから，beとhaveとdoの関係がどうなっているのかさえ，しっかりと理解できていれば英文は読めるわけです。

さて，be動詞とhave動詞は，実は兄弟です。be動詞を使って言える表現は必ずhave動詞を使った文に置き換わると，私は断言しておきたい。したがって，はじめのこの例文も，もともとは，

②They are difficult for you.
(彼らは，あなたにとって難しい)
(→彼らは，手のやける子供たちですよ)
なのです。それを，何かのはずみで，おしゃべりの相手であるYou（あなた）を主語にして言おうと思ったら，とたんにYou have（a）difficultyというように，difficult（むずかしい）という形容詞を，difficulty（むずかしいこと）という名詞に置き換えて，それをhaveという動詞で結んだ形で言ってのけたのです。ここに，英語の文章というものが持っているひとつの，大きな特徴があります。beの文と，haveの文は，相互に置き換わるのだ，という私なりの考えを，もっとわかりやすくしてみましょう。皆さんは，中学二年生で，
We have much rain in Japan in June.
(私たちは，日本で六月に雨をたくさん持つ)
(→日本の六月は，梅雨の季節です)
という言い方を習います。あるいは，
We have two children.
(私たちは二人の子供を持つ)
(→私たちには，二人の子供がいます)
という文章も習いました。

これは，haveをそのまま直訳して「持っている」と頭の中でやって，それから，それを，それぞれの文章の流れ(context（コンテキスト）といいます）に合わせて「雨が多い」とか「子供がいる」というふうに，日本文にするのでしたね。だから，この場合のhaveの使い方には強いクセがあって，それは

英語独特のクセなのだということに気づく必要があるのです。この二つの英文は，それぞれ，書きかえてみると

（存在の文） **There is** much rain in Japan in June.
（存在の文） It **rains** much in Japan in June.
（物主語の文） June **is** the rainy season in Japan.

（この場合は人間中心の文がまさしく We have ....なのだ）

あるいは，

（存在の文） There **are** two children in my family.
（物主語の文） My family **consists** of two children and us couple.
（人間主語の文） Two children **are** in my family.

このように言いかえられなければならないのです。

さて，そういうわけで，冒頭の have difficulty の形も，素直にやれば，be difficult でよかったのです。だから，ここでは have という根本的な動詞を，「持つ」とだけ覚えて，

それでどんな場合でも切りまくろうと思っているとしたら，それは野蛮で原始的な学習法だから，もうそろそろやめにした方がいいですよ，ということを結論にしておきましょう。

ヒントとしては，haveというのは実は，beの弟子なのですから，beの根本が「～がある」という「存在」の意味だとすると，haveは，それよりも「もっと身近の存在」を含んでいるというふうに考えるとわかりやすいと思います。すなわち，「子供がいる」「雨がある」なのですよ。

と，ここまで書いてきて，実は，もう少しだけどうしても説明しておかないといけないことがあることに気づきました。それは，Itというコトバとからまってきます。冒頭の例文の言いかえの方（②の文）は，受験用英文では，

It is difficult **for** you **to** get along with them.

（その子供たちとうまくやってゆくのは，なかなかたいへんですよ）

というふうに，It is で始まる文章になることになっています。そして，この形の方が基本だ，というような教え方をします。ここが，日本人が英語となかなかお友達になれないひとつの壁だということを，早く，日本の英語教師の皆さんに気づいてほしいですね。

このItを，「仮主語」と言って，「to以下」を「真の主語」として，これを「It ～ toの構文」などと称して，平気で参考書を書きまくっている受験屋先生たちがほとんどですが，もっとよく考えてみて下さい。

Itが文章の頭にくるということのスゴさをもっと深く考

えてみなければいけないのです。たいていの参考書では，「意味上の主語」としてIt しか主語に取れない形容詞は決まっているとして一覧表があって，difficult の他にも，impossible（不可能な），careful（注意深い），good（よい），kind（親切な），stupid（おろかな）……などが書かれています。

だから，例えば，

English is difficult for us to learn.

（英語は，学ぶのがむずかしい）

という言い方よりも，

It's difficult for us to learn English.

に直せ，というようなことばかりを私たちに教え込ませようとするのが，日本の英語教育のやり方なのです。

「英語はむずかしい」と，私たちがアメリカ人の前で，とっさに言いたい，と思ったら，

English is difficult.

でいいではないですか。だから同じように，冒頭の「子供たちとうまくやってゆけないだろうな」の文も

③I am difficult with them.

でも，いいではないですか。それを，何が何でもIt is ～の文章で言わせようとする態度，かつそれ以外は認めようとしない（試験問題としては，③は，まちがった文ということになっています）態度。このことを，なんとかしないかぎり，日本人が英語と仲良くなる時代はなかなかやってこないのではないでしょうか。

1-11-A

❶ The visitor said coldly, 'I never bring a letter from another family to a new place. That kind of thing is very out-of-date now.'

I never bring a letter ....

a letterは紹介状のこと。普通は履歴書をそえる。履歴書のことを英語では personal history あるいは，curriculum vitae（カリキュラム バイタイ）と言う。イギリスなどでは，前の職場の上司や雇い主が書いた紹介状が，採用の際に大きな役割をはたす。紹介状は一種の証言なので，裁判同様，判断を下すための証拠として扱われ，紹介状を書く方も，そういう扱われ方を承知の上で書くという慣行がある。

❷'Oh, yes, very well then,' said Mrs. Banks quickly.

❸ She did not want to be out-of-date.

❹'Now, please follow me upstairs to the nursery.'

1-11-B「ガチガチ訳」

❶訪問者は，冷たく言った。「私はもう一つの家庭から新しい場所に決して手紙は持って来ない。そんな種類のことは今では非常に時代遅れだ」

❷「おう，そうです。そのようだ。それから」バンクス夫人は急いで言った。

❸彼女は時代遅れであることを望まなかった。

❹「さて，どうぞ私について二階の子供部屋に行きましょう」

1-11-C「なめらか訳」

❶お客は冷たく言いました。「私，よそのご家庭からの紹介状を，新しいところへ持って行くことはいたしません。そんなことは，このごろでは，時代遅れですわ」

❷「あら，ええ，そうですわね」とバンクス夫人は急いで言いました。

❸夫人は時代遅れになりたくなかったのです。

❹「では，さぁ，二階の子供部屋にまいりましょう」

❺ She went upstairs first.

❻ So she did not see what the children saw.

❼ The visitor, with her large bag in her hand, just jumped upstairs in one jump.

❽ Her feet did not touch the stairs at all, and she arrived at the top at the same time as Mrs. Banks.

❾ Jane and Michael often jumped down the stairs, yes, but up — in one jump — never.

1-11-B「ガチガチ訳」

❺彼女は最初に二階へ行った。

❻だから彼女は子供たちが何を見たのかを見ることができなかった。

❼訪問者は，彼女の腕の中に彼女の大きなカバンを持って，一つのジャンプでまさに二階へ飛び上がった。

❽彼女の足は，階段に全然ふれなかった。そして，彼女はバンクス夫人と同時にいちばん上に到着した。

❾ジェインとマイケルはしばしば階段を飛び降りた，はい，しかし，飛び上がる——一つのジャンプで——ことはしなかった。

1-11-C「なめらか訳」

❺夫人が**先に**階段を上がりました。

❻そのため夫人には，子供たちには見えたものが見えなかったのです。

❼お客は，大きなバッグを手に，ひとっ飛びで二階まで飛び上がったのでした。

❽その足は階段には全然**さわらないのに**，バンクス夫人と同時に［階段の］上に着いていました。

❾ジェインとマイケルだって，よく階段を飛び降りましたが，でも飛び上がる——しかもひとっ飛びで——なんてとてもできたものではありません。

whatは先行詞 the thingを
自分の中に含んでいる関係代名詞だ

That kind of thing (1-11-A❶)

「そんなこと」「そういうたぐいのこと」, つまり「紹介状を持ってくるようなこと」。かなり強調した表現で, 普通ならItですむところだ。thing というのは, 日本語の「こと」「もの」と重なるが, 日本語の「こと」「もの」ほど融通はきかない。

veryというコトバは強めのコトバ
かならずしも訳し出す必要はない

very out-of-date now (1-11-A❶)

veryは強めで, 必ず訳さなければならないようなものではない。ここでは「〜ですわ」の「わ」で強めの代用をさせている。out-of-date 三語でひとつの形容詞をつくっているので, 間をハイフンでむすんでひとまとまりの語であることを表わしている。「時代遅れ」「流行遅れ」「時期はずれ」。

she did not see what the children saw. (1-11-A❻)

whatは関係代名詞で, the thing whichに置き換えてもいい言葉。それが she did not see it と the children saw it との二つの文のそれぞれの it をつないで一文にしている。she did not see the thing which the children sawに置き換えると she did not see the thing「彼女はそのものを見なかった」, その見なかった「もの」とは何かというと

which，それはthe children saw it.「子供たちが見た」。つまり，she did not see the thing. The children saw it. のthe thingとitが同じものであることをwhich が示す，という形になっている。こうしてwhich の場合にはthe thingに当たる何らかの名詞が前に置かれて，それに後の文をつなぐという働きをするわけだが，what は the thing まで自分の中に含んでしまっている形の関係代名詞だ。そこで，「彼女（バンクス夫人）は，子供たちが見たものを見なかった」となる。この「もの」がwhatに含まれ，その「もの」は子供たちは見たがバンクス夫人は見なかった「もの」として，whatの中でつなぎ合わされ重ねられる。バンクス夫人がお客の先に階段を上がって行き，階段の上から子供たちが見おろしているという情景からすると，ここは，「夫人には，子供たちには見えたものが見えなかった」と訳した方が自然だろう。

Point 24

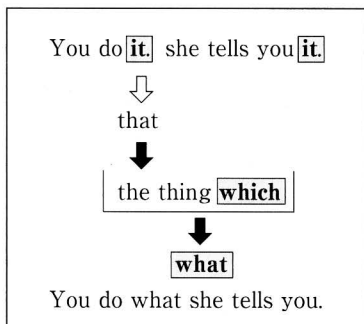
whatとは先行詞を食べている関係代名詞

You have to do what she tells you to do. (p.178)

あなたは，彼女があなたにしなさいと命じたことをしなければいけません。

この文をもっとかんたんにすると，

You do what she tells you.

となって，これは，途中を分解してみると，

となります。

whatは，すなわち，the thing whichという三つの語を，内部に含んでいる関係代名詞であるということがわかります（関係代名詞のしくみの表→ポイント27参照p.185）。

ふつうWhatは，文章の頭にきて「何が」というふうに使われます（このWhatを疑問代名詞と言います）が，それ以外の使われ方をしているwhatはすべて，この関係代名詞のwhatであると考えていいのです。しかし，これを「何」だと思いこんで読もうとするから，私たちはバタバタあわててしまうのです。このwhatとは「こと」なのです。もっと言うと「そしてそのこと」なのです。

したがって，このように，文章の中に出てくるwhatは，必ずその場でthe thing whichと書きかえて下さい。そして，関係代名詞の文章というのは，前に述べたとおり（ポイント27参照p.185），二つの文章をガチャンと，前後に衝

突させて，まるでひとつの文章のようにしてしまうことでした。その二つの文章のそれぞれがまるで，列車のようであって，その間をつないでいる連結機 joint（ジョイント）が，関係代名詞なのです。

そして，ここでは，ふつうの関係代名詞とちがって，whatは，thing （あるいは it）という先行詞（前の方の文章がさし出すべき分のコトバ）を内蔵している，ちょっとだけ偉い関係代名詞なのです。さあ，このことさえわかれば，あとは，自分でできます。ちょっとだけ練習してみましょう。

① I don't know **what** you like.
the thing which
（私はあなたの好きなものを知らない）

② I bought **what** was sold in the shop.
the thing which
（私は店で売られているものを買った）

③ **What** he did is not **what** I did.
the thing which
（彼がしたことは私がしたことではない）

念のため言いますが①の文のwhatを「何」という疑問代名詞だと考えてもいいのです。つまり「私はあなたは何が好きなのか知らない」とやってもいいのです。それは，まったく同じことなのです。

❶ Mrs. Banks saw the children and said, 'Now, Jane and Michael, come and say how-do-you-do to your new nurse.

❷ Her name is Mary Poppins. And these,' she said, and waved her hand at the twins, 'these are the babies — the twins. Is that all right now?'

❸ 'Yes, it'll be all right if *I'm* pleased,' said Mary Poppins.

❹ She took out a very large red and white hand-kerchief and blew her nose on it.

1-12-B「ガチガチ訳」

❶バンクス夫人は子供たちを見た，そして言った。「さあ，ジェインとマイケル，来てあなたたちの新しい保母に『今日は』を言え。

❷彼女の名前はメアリー・ポピンズだ。そして，これらは」と彼女は言い，そして双子に彼女の手を波立たせた。「これらは赤ちゃんたち——双子だ。今は大丈夫だろうか？」

❸「はい，もし私が楽しめるのなら大丈夫だろう」とメアリー・ポピンズは言った。

❹彼女は非常に大きな赤と白のハンカチを取り出し，そしてその上で彼女の鼻を吹いた。

1-12-C「なめらか訳」

❶バンクス夫人は子供たちを見て，言いました。「さあ，ジェインとマイケル，こちらに来て，あなたたちの新しい保母さんに，『はじめまして』のあいさつをなさい。

❷この方はメアリー・ポピンズさんですよ。それから，こちら」と夫人は双子の方に手を振って，言いました。「この子たちは赤ちゃん——双子ですの。さて，これで全部ですが，よろしいかしら？」

❸「ええ，［あとは］**私の方が納得がいけば**，それでけっこうでございますわ」とメアリー・ポピンズは言いました。

❹彼女は紅白の大きなハンカチーフを取り出して，鼻をかみました。

❺ Then she took a long look at all the children.

❻ 'Will we be good enough?' asked Michael, but Mrs. Banks said, 'Michael, be quiet now!'

❼ For another long minute Mary Poppins looked at the children.

❽ She was trying to decide if she liked them or not.

❾ Then she gave a loud sniff, and said, 'I'll come.'

1-12-B「ガチガチ訳」

❺それから彼女は子供たち全部に一つの長い見ることを取った。

❻「ぼくたちは充分に良いだろうか？」とマイケルはたずねた。しかしバンクス夫人は言った。「マイケル，今は静かにしていなさい！」

❼もう一つの長い間，メアリー・ポピンズは子供たちを見つめた。

❽もし彼女が彼らを好きか嫌いか彼女は決定することを試していつづけた。

❾それから彼女は大きく鼻をすすることを与え，そして言った。「私は来るだろう」

1-12-C「なめらか訳」

❺それから，子供たちを**まじまじ**と見つめました。

❻「ぼくたち，いい子になれるかな？」とマイケルがたずねましたが，バンクス夫人は「マイケル，静かになさい，今は！」と言いました。

❼**次の一分間が長く感じられるほどの間**，メアリー・ポピンズは子供たちを見つめていました。

❽彼女は，この子供たちを好きになれる**かどうか**，決めようとしていました。

❾**やがて**，彼女は大きく鼻をすすって言いました。「いいですわ。私，［こちらに］ごやっかいになります」

1-13-A

❶When their mother left the nursery, Jane and Michael went over to Mary Poppins.

went over to

overはup, down, outなどと同じ副詞。ジェインとマイケルがメアリー・ポピンズの方へ「かけよる」の「よる」という感じをこのoverが出している。「うちに遊びに来いよ」という場合, Please come over to my place. とこのoverを使うが, ここにも「よる」の感じが生かされている。

❷She didn't move, but stood in the middle of the floor, with her hands in front of her.

❸'How did you come here?' asked Jane.

❹'Did the wind really blow you?'

1-13-B「ガチガチ訳」

❶彼らの母親が子供部屋を去った時，ジェインとマイケルはメアリー・ポピンズにかけよった。

❷彼女は動かなかった。しかし，彼女の両手を彼女の前にして，床の真ん中に立っていた。

❸「どのようにしてあなたはここに来たのか？」とジェインはたずねた。

❹「風は本当にあなたを吹き寄せたのか？」

1-13-C「なめらか訳」

❶母親が子供部屋**からいなくなると**，ジェインとマイケルはメアリー・ポピンズの方へかけよりました。

❷彼女は動かず，ただ部屋の中央に，両手を前にして立っていました。

❸「どうやってここに来たの？」ジェインがたずねました。

❹「本当に風に乗って来たの？」

1-13-A

❺'Yes, it did,' said Mary Poppins.

❻ She took off her hat and hung it on the end of the bed.

❼ Then she put a key into the lock of her large bag.

❽ Michael could not take his eyes off her.

❾'What a funny bag!' he said.

1-13-B「ガチガチ訳」

❺「ええ，それはしたのだ」とメアリー・ポピンズは言った。

❻彼女は彼女の帽子を脱いでベッドの端の上にそれをかけた。

❼それから彼女は彼女の大きなカバンの錠に鍵を入れた。

❽マイケルは彼の目を彼女から離すことができなかった。

❾「なんて変なカバンだ！」彼は言った。

1-13-C「なめらか訳」

❺「ええ，そうですよ」とメアリー・ポピンズは言いました。

❻彼女は帽子を取って，ベッドの端にかけました。

❼**それから**，鍵を彼女の大きなバッグの鍵穴に差し込みました。

❽マイケルは彼女から目を離せません。

❾「変なバッグだな！」とマイケルは言いました。

⑩ But when Mary Poppins opened it, it was more surprising still — because there was nothing in it.

more surprising still

このstill は副詞で,「さらに」とか「もっと」の意味。比較級の副詞moreを「もっと」強める働きをする言葉。

1-13-B「ガチガチ訳」

❿しかし，メアリー・ポピンズがそれを開けたとき，それはまだもっと驚きだった。なぜならばその中には何もなかったから。

1-13-C「なめらか訳」

❿けれども，メアリー・ポピンズがそのバッグを開けると，**もっと**驚くべきことがありました——というのは，その中には何もなかったのです。

1-12-D

takeという動詞の持つ意味の広がりを感じとろう

She took out a very large red and white handkerchief....

(1-12-A❹)

「彼女はとっても大きな紅白のハンカチーフを取り出した」。

a very large...以下の全部がhandkerchiefを形容している。このように形容詞を重ねて使う書き方が英文では日本文よりも多い。そのために形容詞をつづけて訳すときになめらかな訳にならないで苦労することが多い。

take out の out はいままで出てきた up, down, off などと同様副詞風に考えて，take「手に取る」の強めとして扱うことにしよう。out は in との対比では「外」の意味を示すから「取り出す」だろう，と見当がつけば，これはもう相当英語がわかった，ということだ。take outといった「熟語」を覚えようなどとしない方がいい。takeをちゃんと覚え，outをちゃんと理解できれば，あとは何とか連想できるのだから。

Then she took a long look at all the children.

(1-12-A❺)

このtakeはhave, get , let,. make, putなど，特殊な意味のひろがりを持つ動詞で，ここでは「すべての子供たちを長く見ることをしていた」と読めるもの。ここはtake a long look atといった「熟語」として考えようとす

るだろうが，そうではない。なぜなら，意味においては，she looked at all the children for a whileと等しいのであって，ちょうど日本語で「見た」と「見たことがあった」とが同じことであるのと同様だ，lookとtake a look とは，口調ないし表現上の差異を持つだけだからだ。つまり，take a long look at は，look at for a while, for a while という副詞をtake a long lookに置き換えただけのこと。ここを「まじまじと見つめました」と訳したのは，take a long look at を look ～ for a whileの副詞をつかった表現にいわば先祖がえりさせたわけ。ただ a long にしろ a while にしろ長さや時間の意味を示す言葉で，意味の上では「まじまじと」に対応しないので，これは意訳というべきだろう。

Point 25

これだけは覚えておきたい重要接続詞の使い方

主な接続詞の使われている様子を表にしてみました。

1 When **A**, **B**.
(A。するとBだ)

2 **A**, and then **B**.
(Aした。そしてそれからBだ)

3 As **A**, so **B**.
(AなのでBだ)

4 Since **A**, **B**.
(AなのでBだ)

5 Though **A**, **B**.
(AなのだがBだ)

6 **A**, because **B**.
(Aだ。なぜならばBだから)

7 **A**, for **B**.
(Aだ。というのはBだから)

8 While **A**, **B**.
(AではあるがBだ)

9 **A**, and **B**.
(A しかし Bだ)

10 **A**, but **B**.
(A そして Bだ)

接続詞の使い方として重要と思われるのは，左の10通りだと思います。これだけの接続詞をそれなりに使えさえすれば，あらゆる英文に応用できるでしょう。ここでは，それぞれ例文をあげることはしませんので，皆さんが，なるほどと思っていただければ，それでけっこうです。

とくに注意するポイントとしては，9と10の and と but という，この，あまりにありふれた接続詞の「そして」と「しかし」が，英文と日本文では，時々，逆の意味に取らなければならない場合が，あるということです。このテキストでも，何カ所かあります。それは，英米人の考えの流れ方と，日本人の考え方に，ちょっとちがっている点があることを示しています。例えば，

He said nothing, but he smiled.

を，「彼は何も言いませんでした。しかし，ほほえみました」とやるよりは，「彼は何も言いませんでした。そしてほほえみました」とやった方がいい場合があるのです。このbut には，強い逆説の意味がないからです。反対から言えば，私たちがよく使う日本語の使い方に「～なのですが」というのがあります。

「私たちはそこへ行ったのですが，誰もいませんでした」は，

We went there, **but** I found nobody there.よりも，

We went there, **and** I found nobody there.

と and にした方が，適切なのです。

❶'Look,' said Jane, 'there's nothing in it!'

❷'What do you mean – nothing?' asked Mary Poppins, with a very angry look at Jane.

❸'Nothing in it, you said?'

❹ And saying that she took out from the empty bag a clean white apron and tied it round her.

And saying that....

ここはちょっと難しい。というのは，saying の主体が誰か，実ははっきりしないからだ。ジェインが言ったとすると，彼女が「何もない」と言ったにもかかわらず，という意味になる。これは一応，文法上あり得なくはない。一方メアリー・ポピンズだとすると，すぐ直前のセリフを「言いながら」ということになるが，文法上ちょっと無理がある。少なくとも，And she, saying that....としなければならない。ここでは「そう言いながら」と訳したが，これは前後の文脈を考えた無理のない意訳と考えてほしい。いずれにせよ，この saying that の置き方は英文でも避けるべき表現と思ってもらってかまわないだろう。

1-14-B「ガチガチ訳」

❶「見よ」とジェインは言った。「その中には何もない」

❷「何をあなたは意味したのか――何もないか？」とメアリー・ポピンズは非常に怒った様子で聞いた。

❸「その中には何もないとあなたは言ったのか？」

❹そして，言いながら彼女は空のカバンから一つの白いエプロンを取り出し，そして彼女のまわりにまきつけた。

1-14-C「なめらか訳」

❶「見て」ジェインが言いました。「中には何もないわ！」

❷「何もないって――どういう意味？」メアリー・ポピンズは，ジェインにとても怒っているような眼をむけながら，たずねました。

❸「中に何もないって，言ったわね？」

❹そして，**そう**言いながら，彼女は空のバッグからきれいな白いエプロンを取り出し，自分の体にまきつけました。

1-14-A

❺ Then she took out a large cake of soap, a toothbrush, a box of hair-pins, a small glass bot-tle, and a folding chair.

a large cake of soap.... a box of hair-pins,

この場合の of の用法は「ひとつの大きな角石けん」,「一箱のヘアピン」と頭の方から訳す。目的属格の of という。

❻ Jane and Michael could not believe their eyes.

❼ 'But I saw it,' said Michael.

❽ 'It was empty.'

1-14-B「ガチガチ訳」

❺それから彼女は大きな石けんのケーキ，一つの歯ブラシ，一つのヘアピンの箱，一つの小さなガラスびん，そして一つの折りたたみ椅子を取り出した。

❻ジェインとマイケルは彼らの目を信じることができなかった。

❼「しかし僕はそれを見た」とマイケルは言った。

❽「それは空っぽだった」

1-14-C「なめらか訳」

❺それから，大きな角石けん，歯ブラシ，ヘアピン箱，小さなガラスびん，そして折りたたみ椅子を取り出しました。

❻ジェインとマイケルは自分たちの目が信じられません。

❼「でも，ぼく見たよ」とマイケルは言いました。

❽「空っぽだったのに」

take out from は take out of と同じ意味

she took out from the empty bag a clean white...
（1-14-A❹）

この take out from は，ポイント⑫（p.77）にあった「out of と from のちがい」と同じで，本来は take out of なのだ。従ってこの文を正確に書きかえると，She took out a clean white apron from the empty bag.なのだ。もっと厳格に書くと take out an apron out of the bag なのだ。

take out「～を（外へ）取り出す」なのだから「～から」の意味は含んでいない。実は，a clean white apron の箇所が長すぎるために文章の後ろの方に回されてしまって the empty bag を前に持って来たために，from が仕方なくここに置かれることになってしまったのだ。out of と from はこのように紛らわしい。

Point 26

分詞構文はむずかしくない

In no answering to him, she watched it.
彼に答えようともしないで，彼女はそれを見ていた。

このように，文章の頭に主語が来ないで，いきなり～ing（これを現在分詞と言います。ポイント㉚を読んで下

さいp.236 ）という語で始まる文章を「分詞構文」participial constructionと呼びます。

英文の中で分詞構文に出会うとゾッとして，全然読めなくなってしまう人がたくさんいます。しかし分詞構文は，それほどむずかしいしくみをしていません。英語国民のおしゃべり口調がそのまま英文になったのだ，と考えるとよくわかるのです。つまり，ふつうの文のように「私は」とか「彼は」とかの人間主語で始めたくないような気分のときに，主語をはぶいてしまって，その上で動詞を ing 形にしてポンと前に出した言い方なのです。例えば，

① **Walking** in the park, **I** met him.
(公園を散歩していたら，彼に会った)
この walking は，
When I walked in the park, I met him.
という形に戻せます。つまり，後ろの方の文の人間 I（私）を前の方の文に復活させてかつ動詞を元の形に戻し，それから適当な接続詞（**As**か**When**か，**If**か，**And**，**Though** これだけでよいのです。このうちどれかです。）を頭につけさえすればいいわけです。

② **Being** ill in bed, she can not go out.
(病気で寝ているので，彼女は来れません)
これは，
As she is ill in bed....
に直ります。このように「分詞構文」は，これだけのことがわかっていれば必ず読めるのです。

❶The last things Mary Poppins took out were a large medicine bottle and a spoon.

❷They could read on the front of the bottle 'One teaspoon at bedtime.'

They could read on the front of the bottle...

「ビンには……と書いてありました」と訳すしかない。このようなtheyは「非人称主語」なのだ。「人間ならば誰でもよい主語」としてのtheyなのだ。「彼ら」という特定性は全然ない。このような言い方は日本文にないので，しっかりと区別をつけよう。

❸Mary Poppins now poured something dark red into the teaspoon.

something dark red

somethingには形容詞が後ろからつく。従ってdark somethingとはならないで，必ずsomething darkとなるのだ。このきまりは，somethingのthingという「物，事柄」を表わすコトバが世の中のすべての事をつつみこんでしまうぐらい大きなコトバだからだろう。

1-15-B「ガチガチ訳」

❶メアリー・ポピンズが取り出した最後のものは一つの大きな薬びんと一つのスプーンだった。

❷彼らはそのびんの前に「寝るときにスプーン一杯」と読むことができた。

❸今メアリー・ポピンズは茶さじに黒くて赤い何かを注いだ。

1-15-C「なめらか訳」

❶メアリー・ポピンズが最後に取り出したのは，大きな薬びんとスプーンでした。

❷子供たちには，そのびんの表面に「就寝時にティースプーン一杯」と［**書いてあるのが**］読めました。

❸メアリー・ポピンズは，そこで，何か濃い赤いものをティースプーンにつぎました。

1-15-A

❹ Michael was very interested.

❺ 'Is that your medicine?' he asked.

❻ 'No,' said Mary Poppins,

❼ 'it's yours,' and she held out the spoon to him.

❽ 'But I don't want it. I don't need it. I won't take it…' he began.

1-15-B「ガチガチ訳」

❹マイケルは非常に興味を持った。

❺「あれはあなたの薬なの」と彼はたずねた。

❻「いいえ」とメアリー・ポピンズは言った。

❼「それはあなたたちのためだ」そして彼女はそのスプーンを彼に差し出した。

❽「でも僕はそれを欲しくない。僕はそれを必要としない。僕はそれを飲まないだろう……」彼は，始めた。

1-15-C「なめらか訳」

❹マイケルは，とても興味を引かれました。

❺「それあなたの［飲む］お薬なの？」とたずねました。

❻「いいえ」とメアリー・ポピンズは言いました。

❼「あなたたちのものなのよ」と言って，彼女はスプーンをマイケルの方に差し出しました。

❽「やだ，ぼくそんなの欲しくない。いらないよ。飲まないからね……」とマイケルは［言い］始めました。

1-16-A

❶ But Mary Poppins' eyes were on his face, and Michael found something out.

❷ You have to do what Mary Poppins tells you to do.

You have to do what Mary Poppins tells you to do.
このYou はマイケルだけではなく読者である皆さんをも含んでいて,「人はみな誰でも」を意味する。これは,前にThey の例でも述べたように,非人称のYou だ。

❸ Something about her made him afraid, and yet was very exciting.

❹ So he shut his eyes and opened his mouth.

1-16-B「ガチガチ訳」

❶しかしメアリー・ポピンズの目は彼の顔の上だった。そしてマイケルは何かを発見した。

❷メアリー・ポピンズがするべきだとあなたに告げたことをあなたはしなければいけない。

❸彼女についての何かが彼を恐れさせた。そして，それでも非常に刺激的だった。

❹そこで彼は彼の目を閉じ，そして彼の口を開けた。

1-16-C「なめらか訳」

❶けれども，メアリー・ポピンズの目はマイケルの顔に**そそがれていて**，マイケルは，何か変な感じにとらわれました。

❷どんな人でもメアリー・ポピンズにするようにと言われたことはやらなければならない［ということを感じたのです］。

❸彼女**についての**何かが，マイケルを不安にさせましたが，でもそれはとても人々を，興奮させるものでした。

❹それでマイケルは目を閉じて口を開けました。

1-16-A

❺ His tongue touched something very nice, and he smiled happily.

❻ 'It's chocolate ice!' he cried.

he cried.

cry は普通「叫ぶ」と訳されるが，「叫ぶ」ではちょっと強すぎる場合もある。cry の幅は「〜と言う」から「叫ぶ」までの間をおおっているので文脈に応じて「声を張りあげた」とか「大声で言った」とか訳す工夫がいる。

❼ 'More, more, more!' But Mary Poppins, with a stern face, was giving a different spoonful to Jane.

1-16-B「ガチガチ訳」

❺彼の舌は非常に素敵な何ものかにふれた。そして彼は幸せに笑った。

❻「それはチョコレート・アイスだ」と彼は叫んだ。

❼「もっと，もっと，もっと！」しかし，メアリー・ポピンズは厳しい顔で一つの違ったスプーン一杯をジェインに与えつづけていた。

1-16-C「なめらか訳」

❺彼の舌に何かとてもおいしい味が触れ，マイケルはしあわせそうにほほえみました。

❻「これ，チョコレート・アイスだ！」と彼は大声をあげました。

❼「もっと，もっと，もっと！」けれど，メアリー・ポピンズは，いかめしい顔をして，別の一杯をジェインに与えようとしていました。

1-16-A

❽ This spoonful was green-yellow-silver, and Jane loved it.

❾ But then Mary Poppins carried her spoon across to the twins, and Jane cried out at once, 'No no, they're too young for medicine!'

1-16-B「ガチガチ訳」

❽このスプーン一杯はみどり・黄色・銀色だった。そしてジェインはそれを愛した。

❾しかしそれからメアリー・ポピンズは彼女のスプーンを双子の方に横切って運んだ。そしてついにジェインは叫んだ。「だめ，だめ，彼らは薬のためには若すぎる」

1-16-C「なめらか訳」

❽この一杯は**黄緑がかった銀色**で，ジェインはそれが**とても気に入り**ました。

❾**それでも**それからメアリー・ポピンズは，そのスプーンを**向こう**の双子の方へ持って行きましたが，そのとたん，ジェインが大声をあげました。「だめ，いけないの，この子たちはまだ小さくてお薬は無理よ！」

1-15-D

感情を表現するときは、英文では受動態がもちいられることが多い

Michael was very interested.（1-15-A❹）

interestedを「興味深い」という形容詞として扱うことが常識化されているが，これはbe surprised, be pleased, be shockedなど感情，表現に用いられる動詞たちは，受動態で表わされるという傾向の一例として理解した方がよい。情念というのは英語でpassion，これはactionの対として受動の意味を持つくらいで，強い感情は外からやってきて人間を受動状態に置く，という発想がヨーロッパ世界には広くある。だから「マイケルは興味を持つ」のではなく「興味を引かれる」とする方がこの表現の意味に忠実だろう。あるいは「ひきつけられた」なり「驚かされた」としてもいい。普通be interested in と inがつく形で覚えさせられるが，ここにみるように，別になくても問題ない。ただ目的語が次に来た時には，一種のゴロあわせみたいなものだが inを入れる。この場合の in は，言葉のつづき具合をよくする，という働き以上のものではないが，逆にそういう慣習というのは欠けると奇異な感じを与えるわけで，inはやはり目的語がくると欠かせない。

1-16-D

be動詞十前置詞の形を覚えよう

But Mary Poppins' eyes were on his face,（1-16-A❶）

「メアリー・ポピンズの目が彼の顔の上にあった」ということで，「～にそそがれていた」となる。

だから，意訳といっても，英文からそんなにかけ離れたものではない。ここの例に限らず，be動詞＋前置詞ないし副詞の形は重要。形容詞や名詞と結びついて，イコールの働きをするbeの前に，「存在のbe」を考えると，I am in the room. I am at the desk. I am out of the house.など，be動詞＋前置詞（副詞）の結びつきが，他のあらゆる動詞の根底にある，とさえ言える。

Point 27

関係代名詞というのは、二つの文章をつなぐ品詞

英文を列車に例えれば、関係代名詞は連結機にあたる。
つながれる車両が違えば、関係代名詞も変化する。
The last thing she took out was a bottle.
最後に彼女が取り出したものは，ビンでした。

このテキスト例文の，The last thingとshe の間に，which という関係代名詞がかくれているのです。省略されていると言っても同じことでしょうが。

The thing **which** she took out **it** is a bottle.

関係代名詞というのは，二つの文（列車）をつなぐため

のコトバなのですから，この例文の場合を，絵で示してみると，

というように，ただたんに，前後につないだ形ではなくて，前の機関車の中に，あとの列車が，はさみ込まれたような形になっているわけですね。時々こういう形になるのです。ふつうは，前と後につなぐだけなのですが。

さて，関係代名詞の文を，まとめて，表にしてみましょう。

このwhomは，省略してもいいことになっています。なぜなら，その前に him というまさしく whom が代名しようとしたそのものがあるからです。同じ意味のコトバを二つ並べる必要はないからです。さらに言うと，この関係代名詞というのは，おしゃべり語そのものの中ではたいていは消えているのです。関係代名詞は実は書きコトバとしての英文の中で，重要な働きをしているのです。

《これを主格という。後の文章にとっては主語だから。》

I love him who loves her.

（私は彼女が愛している彼を愛している。）

I love him **whose** loves is her.

（私は、その人の恋人が彼女であるその人を愛している。）

上の三つの関係代名詞 whom, who, whose は人間についてのものです。次に，物についての例文をあげましょう。

I live in a house of which the owner is him.

（私は、その所有者が彼である家に住んでいる。）

④のof whichの形の方が，ご覧のとおりたいへんくどい言い方になってしまうので，実際にはあまり使われないのです。この文は物の代名詞であるhouseでできているので，本来はこの of which の形で表現するべきなのですが，of whichにすると複雑になるので，仕方なくwhoseを使うことにしたのでしょう。英語国民自身が。

このように，この6種類の関係代名詞の使い方のしくみさえよく知っていれば，何もむずかしいことはありません。

そのかわり，このしくみをよくわからないで，ただがむしゃらに英語を読んでも，英会話学校に行っても何年勉強しても，内容を正確に読めるようにはなりませんから，このことははっきりと申しあげておきます。

さて，あとひとつだけ発展問題として，考えてみましょう。

④の例文を前後に入れかえてから，つないでみると，どうなるでしょうか。

もっとも，この in は，which に連行されないで，ソッと文章のおしりに置かれたままでいいのです。

He has a house（which）I live **in.**

このように，in which とか at which とか for which とかいう変わり者が，時々あるのは，関係代名詞 which が後（あと）の文の前置詞をひっかけて，前に来てしまうからなのです。このことがまたどうしたことか試験によく出されるのです。

さて，関係代名詞の文というのは，以上のように，文章をつなぐために存在しているわけです。このことをくれぐ

れも忘れないで下さい。「関係」とか「代名詞」とか言うと，なんだかむずかしそうな気がして，とたんに考え込む人がいますが，学問的なコトバのむずかしさに，だまされないようにして下さい。なぜ「代名詞」なのか，ということは，前頁の表でわかってもらえましたか。もう少しだけ，自分の力で考えてみて下さい。

話はかわりますが最近の日本の女の子たちが，

「あたしィ，……だからァ，なのォ。それでェ……したときィ，……なわけ」という話し方をしています。私の考えでは，この文末の尻あがりと，区切りのつけ方は，まさしく，英語の接続詞 that や，関係代名詞の使い方と，同じしくみをしていることがわかります。加えて，この流行日本語は英文を読むときのリズムと速度にもよく似た話し方なのです。中学・高校では実質的に国語の勉強よりは，英語の勉強（それも文法中心の）の方に力が入れられていますので，いつの間にか全国民的におかしな日本語になりつつあるのでしょう。それを感覚的に鋭い若い女の子たちが体現したのだ，と私は思います。

例えば，「私は，朝，起きられない**人なの**」というような言い方は，完全に，関係代名詞の主格の who の用法の影響を受けています。これは，

I am **a person** **who** can't get up quickly in the morning.

という英文になります。他にも，「これは私**の**」の「の」は，関係代名詞の what の用法そのものです。

This is what I have.

Whose thing is this?

（これは誰**のなの**）

このような考えは，飛躍のしすぎでしょうか。皆さんも，自分が実際にしゃべっているコトバは，はたして，どんなしくみと影響からできているのかをいちどじっくりと考えてみるとおもしろいですよ。おしまい。

1-17-A

❶ Mary Poppins gave her a terrible look, and put the spoon into John's mouth.

Mary Poppins gave her a terrible look,

これは前にも出たtake an angry lookやtake a long lookと同様、looked at her terriblyの変形。「目をやる」といった感じで、少し気取った表現。同じコトバをくり返していると文章が単調になるので、こうした表現上の工夫をするのは英語も日本語も同じだ。

❷ They could see, from the white line round John's mouth, that this time the spoon held milk.

They could see,

このseeは、「見える」という意味からさらに広がって「わかる」「気づく」の意味になっている。さらに広がると「考える」という意味もある。従ってI see.は「私は見る」という意味から「わかりました」という意味の間に広がる様々な感覚的感情的理解を示している。

1-17-B「ガチガチ訳」

❶メアリー・ポピンズは彼女に恐ろしい様子を与えた。そして、ジョンの口にスプーンを入れた。

❷彼らはジョンの口のまわりの白い線からこの時そのスプーンはミルクを保っていることを見ることができた。

1-17-C「なめらか訳」

❶メアリー・ポピンズは、ジェインに怖い目を向けて、ジョンの口にスプーンを押し込みました。

❷ジェインとマイケルには、ジョンの口のまわりの白い輪から、今度はスプーン［の中身］がミルク**になっている**ことがわかりました。

1-17-A

❸ And Barbara was pleased to get the same spoonful.

❹ Then Mary Poppins poured out another spoonful and took it herself.

❺ 'Whisky,' she said, and ran her tongue over her wet mouth.

❻ Then she put the top back on the bottle and put it in a cupboard.

she put the top back on the bottle....

the top は「フタ」のこと。ビンの頭。テッペンという意味。backは「元に戻す」を示す副詞。backは動詞でも使われる。(You) back a car into the garage「後向きで車を車庫に入れろ」。(We) back a candidate「候補者を後援する」など。

1-17-B「ガチガチ訳」

❸そしてバーバラはその同じスプーン一杯を得ることを楽しんだ。

❹それからメアリー・ポピンズはもう一つのスプーン一杯を注いで、彼女自身がそれを飲んだ。

❺「ウイスキー」と彼女は言い、そして彼女のしめった口の上に彼女の舌を走らせた。

❻それから彼女はびんの上の後ろの頂上に置いて、それを食器棚に入れた。

1-17-C「なめらか訳」

❸それでバーバラも同じ一杯を喜んで飲みこんだのでした。

❹それからメアリー・ポピンズはもう一杯スプーンに注いで、自分で飲みました。

❺「ウイスキーよ」と言って、ぬれた口のまわりを舌でぬぐいました。

❻そうして、ビンにふたをして、戸棚の中にしまいました。

1-18-A

❶ Jane and Michael were too surprised to speak, but she gave them no time.

❷ 'Now,' she said sharply, 'straight into bed with you!' and she began to undress them.

❸ She did it all very quickly.

❹ Buttons and hooks flew open at one look from her, and a minute later the children were in bed.

a minute later

「一分後に」。速いということの表現だが、最近では「ちょっと待って」と言う時、英語でも(wait) a minuteではなくて(wait) a second(一秒)というくらいになっていて、生活の速さの尺度が大分短くなってきている気がする。

1-18-B「ガチガチ訳」

❶ジェインとマイケルはしゃべるには驚きすぎていた。でも彼女は彼らに時間を与えなかった。

❷「さあ」と彼女は鋭く言った。「あなたと共に真っすぐベッドの中へ！」そして彼女は彼らに服を脱がせることを始めた。

❸彼女はそれをすべて非常に速くやった。

❹ボタンとホックは彼女から一瞬ではずされ、そして一分後に子供たちはベッドの中だった。

1-18-C「なめらか訳」

❶ジェインとマイケルは、とっても驚いてしまって、何と言っていいのかわからなくなりました。もっとも彼女の方もその余裕を与えませんでしたが。

❷「さて」と彼女はピシャッと言いました。「あなたたちはさっさとベッドに入りなさい！」そして彼女は子供の**服を脱がせ**始めました。

❸彼女は着がえをすべてすごい速さでやってのけました。

❹ボタンやホックは、一瞬のうちにはずれ、次の一分で子供たちはベッドの中に入っていました。

1-18-A

❺ From there, they watched Mary Poppins.

❻ She took more and more things out of her bag.

❼ Seven warm nightdresses, and four cotton ones, a pair of shoes, some playing cards, two rubber caps, and a lot of postcards.

some playing cards

someは「いくつか」とか「何か」とかではなく、「ちょっとした」や「～みたいなもの」と覚えよう。playing cardsは遊び用の絵札の類。cardで「トランプ」cardsだと「トランプ遊び」となる。

❽ Then came something bigger.

1-18-B「ガチガチ訳」

❺そこから彼らはメアリー・ポピンズを見張った。

❻彼女は彼女のカバンからもっともっとモノを取り出した。

❼七枚のあたたかい寝巻き、四枚の綿のそれ、一足の靴、いくつかのトランプ、二つのゴムのキャップ、そしてたくさんのハガキだ。

❽それからもっと大きな何かが来た。

1-18-C「なめらか訳」

❺ベッドの中から、子供たちはメアリー・ポピンズをじっとながめていました。

❻メアリーが**次から次へ**自分のバッグから品物を取り出しました。

❼七枚のあたたかそうな寝巻き、四枚の**綿製品**、靴一足、トランプの類、二つのゴム製の［ナイト］キャップ、そしてたくさんの絵ハガキ。

❽それから、何かもっと大きいものが出てきました。

❾ It was a folding bed. She put it down between their beds, and they saw it was all ready to sleep in.

1-18-B「ガチガチ訳」

❾それは折りたたみベッドだった。彼女はそれを彼らのベッドの間に降ろした。そして彼らはそれがそこで寝るためにすべて用意されていたことを見た。

1-18-C「なめらか訳」

❾折りたたみ式のベッドでした。彼女がそれを子供たちのベッドの間に置きました。これで、子供たちにも［メアリーが］寝る準備がすべて完了したことがわかりました。

1-17-D

takeやgiveを使った表現には少し気どったふんいきがある

Mary Poppins gave her a terrible look, (1-17-A❶)

take an angry lookやtake a long lookと同様、looked at her terriblyの変形。「目をやる」といった感じで、少し気取った表現。「見る」でいいわけだが、同じコトバを繰り返していると文章が単調になるので、こうした表現上の工夫をするのは、英語も日本語も同じ。take a lookとの違いは、take a look at herと方向を示す at が必要となるのに対し、give a look の場合には、herをはさんで、give her a lookとする点。目的語を動詞ではさむというゲルマン語系の分離動詞の形が、潜在している、とも考えられるところ。

getには日本語でいう「やる」や「する」という意味がある

Barbara was pleased to get the same spoonful.
(1-17-A❸)

be pleasedは「喜ぶ」。ここの to はandと扱ってかまわないので、was pleased and got the same「喜んで飲んだ」。getはhave、take、drinkのことで、日本語で言えば「やる」「する」みたいな動詞のひとつと考えればよい。get the same...で、「飲む」となる。the same spoonful は、後にof medicine あるいは of something 具体的にはof milkが省略されていることを忘れずに。

1-18-D

withというコトバのかなりむずかしい用法

'straight into the bed with you!'（1-18-A ❷）

これはYou go straight into the bed with youの省略。straightはここでは本来副詞として働くところだが、かなり動詞化している。goがなくても「さっさとする」「ただちにする」といった動詞風の意味合いを含んでいるので、このような用法が可能となる。「さっさとベッドに入れ」。with youというのは日本人から見ると、非常に特殊なコトバづかいだ。You goと命令する形の you が、withをつけて後につけられていると考えるか、あるいは、to go into bed (by) yourself に近い用法、「あなたたちで、自分で」という意味ととるか、いずれにせよ、かなりむずかしい用法の with だ。

❶ Jane and Michael could find nothing to say.

❷ But they knew that their house at Seventeen Cherry Tree Road now had someone very surprising in it.

their house at Severnteen Cherry Tree Road now had...

「桜の木通り 17 番の彼らの家」が had の主語。これは叙述の視点を、二人の子供の目から一気に上空へと舞い上げて、驚きの大きさをきわだたせるといった表現上の効果をねらった言い方。この had は be と非常に接近した意味の「ある」「いる」と考えてよい。

❸ Without a word, Mary Poppins put on one of the large nightdresses and began to undress under it.

without a word

付帯状況を示す with と用法は同じで、意味は逆。「～せずに」「～しないで」。ここは「ひと言もなく」「黙って」「無言のまま」。

put on one of large nightdresses and began to undress under it.

大きなスモックみたいな寝巻きをスッポリかぶるように着て、その下で服を脱ぐという光景は、ヴィクトリア朝時代を舞台にした映画などで、見たことがあるかもしれない。to undress は、自動詞「服を脱ぐ」で、herself を補えばはっきりする。

1-19-B「ガチガチ訳」

❶ジェインとマイケルは言うべきことが何もないことを発見した。

❷しかし彼らは桜の木通り17番地の彼らの家は今その中に何かとても驚くべきことを持ったことを知った。

❸一つのコトバもなく、メアリー・ポピンズは大きな寝巻きの一つを着てその下で服を脱ぎ始めた。

1-19-C「なめらか訳」

❶ジェインとマイケルは何と言ったらいいのかわかりませんでした。

❷だけど、二人は、桜の木通り17番地のこの家に、とても驚くべき人が現われたということがわかったのでした。

❸無言のまま、メアリー・ポピンズは大きな寝巻きの一枚をはおり、その下で服を脱ぎ始めました。

❹Then Michael could not stop himself.

❺He cried out, 'Mary Poppins, you'll never leave us, will you?'

❻But there was no answer from under the nightdress.

❼'You won't leave us, will you?' he called again.

1-19-B「ガチガチ訳」

❹そしてマイケルは彼自身を止めることができなかった。

❺彼は叫んだ。「メアリー・ポピンズ、あなたはぼくらから決して去らないだろう、そうだね」

❻しかし、寝巻きの下からは答えはなかった。

❼「あなたはぼくたちから去らないだろう。そうだろう」彼はもう一度呼びかけた。

1-19-C「なめらか訳」

❹その時、マイケルはこらえきれなくなりました。

❺彼は大声をあげて言いました。「メアリー・ポピンズ、ぼくらのところからいなくならないよね？」

❻でも寝巻きの下からは答えがありません。

❼「あなたはいなくならないよね？」マイケルはもう一度問いかけました。

1-19-D

couldには文全体を含みを持たせた表現にする働きがある

Jane and Michael could find nothing to say.
(1-19-A ❶)

They had nothing to say.と同じ。「言うことが何もない」。二人はあっけにとられてなんと言ったらいいのかわからない、という状態にある。

そういう情景を考えて「なんと言ったらいいのかわからない」と訳した。findは「見つける」「気づく」というよりも、いわば驚きの受動状態にあるわけだから、「浮かんでくる」「思いつく」という意味にずらしてかまわない。

couldは含みを持たせる語。ここでは「なんと言ったらいいのかコトバをさがせない」という意味。読むということは単語にしがみつくことではなく、コトバが織り成す世界を自分の想像の中に映し出し、感じ取り、経験することにある。それは相手が英語の文章でもなんら違うところはない。

付加疑問文は日本語で念を押すときに使う「ね」の気分がある

'Mary Poppins, you'll never leave us,will you?'
(1-19-A ❺)

leaveは「去る」「いなくなる」。will youは付加疑問文の形。「ね」にあたる。相手の理解、納得を求める時、あるいは相手の意思に念を押す時に、用いる。「メアリー・

ポピンズ、あなたは、ぼくらのところからいなくなったりしないよね？」と念を押している。You'll leave us, won't you? だと「いなくなっちゃうの？」。

Point 28
再帰代名詞は自動詞を他動詞にしてしまう？

He could not stop himself.
彼は彼自身をとめることができなかった。

このように、英文には時々、himself や themselves のような「自分自身を」という意味の語が出てきます。日本人でも、よく「私自身としてはね」というような念の入った言い方をする場合がありますから、この oneself というコトバ自体はとりたててむずかしいものではありません。

ではなぜ、こんなコトバが使われるのでしょうか。上の例文から、himselfを取り去っても、文章としては全然、困りません。He could not stop. だけでも「彼は止(や)められなかった」となって、だいたいわかるわけです。ここで注目すべきは、「止(や)める」と「止(と)める」という日本語のちがいの方なのです。「やめる」「とまる」の方を自動詞、「とめる」の方を他動詞と、英語文法でならはっきりとしています。

しかし、日本語文法では、他動詞と自動詞の区別は明瞭でないのです。それでも「自分をとめる」から「やめる」になるのだ、ということはわかりますね。

自動詞	He stops. （彼はやめる）（彼は止まる）
他動詞	He stops her. （彼は彼女を止める）
自動詞なのに 他動詞扱い	He stops himself. （彼は自分を止める→彼はやめる）

このように、本来は自動詞（ふつう目的語を取らない動詞と言われています）なのに、それではなんとなく口さみしいので、himselfをつけて他動詞のようにしてしまう場合があるのです（この再帰代名詞というのはフランス語では大変よく発達しています。もっとも、発達しているからといって使いやすくて便利だとは限りませんが）。だから、ここで大切なことは、やはり、ひとつの動詞の使い方の中でそれが自動詞として使われているのか、他動詞としてなのかを、よくよく考えなければならないということですね。例えば、

I sleep.（私は寝る）

は、どう考えても、目的語を取りません。人は何かに向かって、眠ったりしません。ただ眠るからです。しかし、これを、

I sleep her.

とやると、なんだか、「私は、彼女を寝(ね)かしつける」というような意味に自動的に他動詞になってしまうのです。こ

こが英語の動詞のコワイところであり、かつ、大変おもしろい点でもあります。

皆さんが考えている以上にその動詞が自動詞か他動詞かその両方があるのか、ということは、重要なことなのですが、残念ながら日本の英語教育では、この点が、大変、おろそかになっています。例えば、「見る」という一語でも、「見る」、「見える」、「見せる」、「見られる」、「見れる」、「見させる」、「見てもらう」、「見てあげる」のようにコトバとしてはいろいろな表われ方をするのです。これらの使い方を、ひとつずつめんみつに研究してみなければなりません。

だから、ふつうの参考書や辞書に書いてあるように、watchは「じっと見る」look atは「見る」で、seeは「目に映る」だとかいうような説明だけでは足りなくてもっと奥の深いものがあるようです。

1-20-A

❶ Mary Poppins' head came out of the night-dress and she looked very sternly at him.

❷'One more word from you,' she said, 'and I'll get a policeman to come.'

One more word from you,

ここは If you talk one more word の意味。「もうひとことでもしゃべったら」と脅迫的な雰囲気を含んだ意味。

❸'I mean,' said Michael more quietly, 'I hope you won't go away soon...'

I mean,

「私が言いたいのは」と，聞き手に自分の話すことの理解を前もって求める時に使う言い方。逆に自分の言ったことを「ほんとうなんだ」と確認する時の用法もある。例えば I love you. I mean it. 「愛している。本気なんだ」。ここでは子供の言葉らしく「ぼくはただ……」と訳した。

1-20-B「ガチガチ訳」

❶メアリー・ポピンズの頭が寝巻きから出てきて彼女は彼をとてもいかめしく見た。

❷「あなたからもう一つコトバが出たら」と彼女は言った。「そして私はおまわりさんが来ることを得るでしょう」

❸「僕が意味したのは」とマイケルは静かに言った。「僕はあなたがすぐに出ていかないと望んでいる」

1-20-C「なめらか訳」

❶メアリー・ポピンズの頭が寝巻きの上に現われて，彼女はマイケルをとても厳しくにらみました。

❷「あと一言しゃべったら」彼女は言いました。「そしたらおまわりさんに来てもらいますよ」

❸「ぼくは，ただ……」マイケルは前より**ゆっくりと**言いました。「ぼくは，あなたがすぐ行ってしまわないで，って言いたかったんだ……」

1-20-A

❹ Mary Poppins looked from him to Jane and said nothing.

looked from him to Jane

こういう場合のlookは「見る」とするより「目をやる」「目を向ける」とした方が，日本語にしやすくなる。

❺ Then she sniffed.

❻ 'I'll stay till the wind changes,' she said, and blew out the light and got into bed.

1-20-B「ガチガチ訳」

❹メアリー・ポピンズは彼からジェインを見た。そして何も言わなかった。

❺それから彼女は鼻をすすった。

❻「私は風が変わるまでとどまるだろう」と彼女は言った。そしてあかりを吹き消しベッドに入った。

1-20-C「なめらか訳」

❹メアリー・ポピンズはマイケルからジェインの方に目を移して，何も言いませんでした。

❺それから彼女は鼻をすすりました。

❻「私は風が変わるまでここにいるわ」と彼女は言って，あかりを消し，そしてベッドに入りました。

❶ And so Mary Poppins came to live at Number Seventeen and everyone was glad to have her.

❷ Mrs. Banks was glad because she now had an up-to-date nurse.

because

　because は cause「原因」という名詞に be がついたもの。It be a cause that という形で「が原因となって」を表わしていたのがいつのまにか，because と言いならわされて，独立した語になった。したがって，because は常に why と because 「原因と理由」の対で考えられていることに注意する必要がある。これは基本としては疑問と理由づけの対の関係だが，その背景にはすべてのものごとを「原因とその究明」として考えたがる英語国民の性格がかくされている。

❸ Mrs. Brill and Ellen were glad because they did not have so much work to do in the nursery.

1-21-B「ガチガチ訳」

❶そしてだからメアリー・ポピンズは17番地に住むために来た。そして誰もが彼女を持つことを喜んだ。

❷バンクス夫人は彼女が一人の現代的な保母を持ったので喜んだ。

❸ブリル夫人とエレンは子供部屋でするべきそんなに多くの仕事を持ったことがなかったので喜んだ。

1-21-C「なめらか訳」

❶こうしてメアリー・ポピンズは17番地に住むようになり，誰もが彼女［が来たこと］を喜びました。

❷バンクス夫人は，今や流行に敏感な保母を**雇った**ことに喜んでいました。

❸ブリル夫人とエレンは子供部屋であまりたくさん仕事をしなくてもよくなったので喜んでいました。

1-21-A

❹ Robertson Ay was glad because Mary Poppins cleaned her shoes herself.

Mary Poppins cleaned her shoes herself.

このcleanedは単なる過去形だが，おわってしまった行為なのではなく，慣習としての行為を表わす。いつか「みがいた」のではなく，いつも「自分でみがいている」の意味。動詞が過去形だからといって，いつも「〜した」と訳さないこと。現在形として訳さなければいけない場合も多い。このことは大事です。

❺ But what Mary Poppins thought about it no one knew, because she never told anybody anything・・・・

1-21-B「ガチガチ訳」

❹ロバートソン・アイはメアリー・ポピンズが彼女の靴を彼女自身がきれいにしたので喜んだ。

❺しかし，それについてメアリー・ポピンズが何を考えていたのかを知る人はいなかった。なぜなら彼女は誰にも何も決してしゃべらなかったから。

1-21-C「なめらか訳」

❹ロバートソン・アイはメアリー・ポピンズが**自分**の靴は自分でみがいてくれるので喜んでいました。

❺けれどメアリー・ポピンズがいったい何を考えているのやら，誰もわかりません。というのも彼女は［自分のことを］誰にもほんの少しも打ち明けなかったからです……。

1-20-D

have や make や get は 使役文を作る動詞たち

I'll get a policeman to come.（1-20-A ❷）

「第五文型」と言われている難しい表現。I'll get him to come. が「私は，彼に来てもらう」で，get はこの「もらう」に当たる言い方。「誰々**に**，何々**を**～してもらう」という文型の「もらう」だ。have，makeなどを「使役動詞」と言い，ここに出てくる get もその仲間になりつつある。こうした使い方を「使役用法」と言う。policeman to come はポリスマンが来るということで，それをget で「させる」「してもらう」という意味になる。

I hope,I want は英語特有の しゃべりだしのフレーズだ

'I hope you won't go away soon ...'（1-20-A ❸）

「すぐに出ていってほしくない」「いなくならないでほしい」。日本語では「～してほしい」「～なんだけど」と後にまわるが，英語ではI hope, I wantと前につく。英語で何か話そうと思う時，とりあえずI hopeとかI wantとか言って始めてしまうといい。しゃべり始めるのに都合のいいコトバだから別に後の文章にかかわりなくたって，かまわずしゃべってしまうクセをつけよう。

get は他のさまざまな 動詞と置き換わる

blew out the light and got into bed.（1-20-A ❻）

blow outは「吹き消す」。おそらく，ろうそくやランプの時代の表現だったのだろうが，「あかりを消す」という意味の延長で，現在にまで生きのびたのだろう。get into bed はgo into bed の言いかえ。getは他のさまざまな動詞に置き換わる，と覚えておこう。逆に，getが出てきたら，他の動詞に置き換えて考える必要がある，ということでもある。例えば，I get up.「私は起きる」は，I wake up, and stand up, and take up.というような一連の動作をまとめて代替しているので，get一語の中には「起きる」という意味はなく，またget upという熟語があるのでもない。～upというもののほとんどがget upで代替できるということだ。

1-21-D

becomeという動詞は
come to beが変化したものだ

And so Mary Poppins came to live at... （1-21-A ❶）

come to liveは「住むようになる」become は come から派生したので，「なる」はもともとcomeに含まれている。come to be～の be が前に回ってbecomeとなったわけ。またbe自体に「なる」を含む。ここもMary Poppins was (to live)at Number～で「住むようになる」を表わす。

2 Laughing Gas
笑いガス

メアリー・ポピンズの叔父さん、
ウィッグさんの部屋で起こった
笑いガス事件……
天井からウィッグさんがあいさつする——

2-01-A

❶'Will he really be at home?' asked Jane as she and Michael and Mary Poppins got off the bus.

◆point index◆

be at(be動詞＋前置詞)……ポイント③(p.28)

❷ Mary Poppins was very displeased at Jane's question.

Mary Poppins was very displeased at Jane's question.

displeasedという動詞はpleaseにdis-という否定の接頭辞をつけた形だ。「不愉快にさせる」とか「おこらせる」とかの意味。それが be pleased と同じように be displeased の方が常態化して，感情を表わす表現となった。「副詞」についてはポイント⑯を参照(p.93)。

❸'Would my uncle ask you to tea if he means to go out?' she said.

◆point index◆

if he means(仮定法)……ポイント⑲(p.112)

2-01-B「ガチガチ訳」

❶「彼は本当に家にいるだろうか」とジェインは彼女とマイケルとメアリー・ポピンズがバスから降りた時たずねた。

❷メアリー・ポピンズはジェインの質問でとても喜ばされなかった。

❸「もし彼が外に出ていることを意味していたのなら私の叔父さんはあなたたちをお茶に呼ぶでしょうか」と彼女は言った。

2-01-C「なめらか訳」

❶「その人は，本当に，家にいるの？」とジェインがたずねました。彼女とマイケルとメアリー・ポピンズがバスを降りようとしていた時のことでした。

❷メアリー・ポピンズは，ジェインの質問が気に入りませんでした。

❸「私の叔父さんが，あなたたちをお茶に招いたりするかしら，もし外出するつもりなら？」と彼女は言いました。

2-01-A

❹ She was wearing her blue coat with the silver buttons, and a blue hat.

❺ When she wore these clothes it was very easy to make her angry.

◆point index◆

make her angry(使役)……ポイント㉙(p.232)

❻ The three of them were going to pay a visit to Mary Poppins'uncle, Mr. Wigg.

❼ Jane and Michael were looking forward to this visit, because they wanted very much to meet Mr. Wigg.

2-01-B「ガチガチ訳」

❹彼女は銀のボタンのついた彼女の青いコートと青い帽子を着ているところだった。

❺彼女がこれらの衣服を着た時はそれは非常にかんたんに彼女を怒らせた。

❻彼らの三人はメアリー・ポピンズの叔父さん，ウィッグ氏を訪問しようとしていた。

❼ジェインとマイケルはこの訪問を楽しみにして待っていた。なぜなら彼らはウィッグさんに会うことをとても望んでいたから。

2-01-C「なめらか訳」

❹彼女は，銀のボタンのついた青いコートを着，青い帽子をかぶっていました。

❺こうした服を着ることがいつも彼女を怒りっぽくさせるのでした。

❻この三人は，メアリー・ポピンズの叔父の，ウィッグさんを訪ねようとしているところでした。

❼ジェインとマイケルはこの訪問を待ちのぞんでいたのです。というのも，二人はウィッグさんにとても会いたかったからです。

2-01-A

❽'Why is he called Mr. Wigg?' began Michael, but Mary Poppins gave a loud and angry sniff and said, 'He is called Mr. Wigg because Mr. Wigg is his name.

❾And if we have any more questions we shall just go back home.'

go back home.

go home と go back を二つ重ねて「家に帰る」となる。
back も home も両方ともそれぞれ副詞。

2-01-B「ガチガチ訳」

❽「彼はなぜウィッグ氏と呼ばれるのか？」とマイケルが始めたが，しかし，メアリー・ポピンズは大きな，そして怒った鼻すすりを与え，そして言った。「彼はウィッグが彼の名前だからウィッグ氏と呼ばれる。

❾そしてもし私たちが何かもっと質問を持つのなら私たちはすぐ家に戻るだろう」

2-01-C「なめらか訳」

❽「どうしてウィッグさんて呼ばれているの？」とマイケルが［質問を］始めましたが，メアリー・ポピンズは大きな音をたてて怒ったように鼻をすすって言いました。「叔父さんはウィッグさんて言うの。なぜならウィッグさんというのが叔父さんの名前だからよ。

❾もし，まだこの上［こんな］質問があるんだったら，三人とも今すぐ家に帰ることにしましょう」

asという接続詞は 同時並行の文章を導く

as she and Michael and Mary Poppins got off the bus.
(2-01-A ❶)

asは接続詞，同時並行の文章を導く。and と同様に扱ってかまわない場合もある。この場合も「～たずねました。その時，彼女とマイケルとメアリー・ポピンズはバスを降りていました」でもいい。ここでは同時性をもう少し強調して「～バスを降りようとしていた時のことでした」と訳している。

ifが出てきたといっても 仮定を表わすわけではない

Would my uncle ask you to tea if he means to go out?
(2-01-A ❸)

これは通常の形では if 以下が前に出た仮定法の文を疑問文にしたもの。それを前後逆にしている。仮定法といっても必ずしも仮定を表わしてはいない場合があり，ここでも，「もしおじさんが，外出するつもりなら私たちをお茶に招待するわけがないでしょ」という非難を含んだ，結果の表現として用いられている。ask you to teaを「お茶に招く」と訳すが，この場合のask は「問う」「たずねる」でなく「頼む」「お願いする」から派生する形の「招く」の意味。この ask から invite が連想できるようになることが肝心。

meanは「意味する」「意図する」。ここでは「意図する」「〜するつもり」の用法。

進行形はある動作の状態を鮮明に表わすための表現だ

She was wearing her blue coat with the silver buttons, and a blue hat. (2-01-A ❹)

過去進行形になっているが，これまでに何度か述べてきたように，進行形という形にこだわる必要はない。wearに対して動作より状態の方をより鮮明に表わしたいという感じ。この wearing は現在分詞。現在分詞は動詞が形容詞化したもの（ポイント㉚参照p.236）と考えればよい。

makeを使った使役の文形は主語＋make＋人間目的語＋形容詞だ

When she wore these clothes it was very easy to make her angry. (2-01-A ❺)

these clothes は単に this cloth の複数と考えることが一応できるが，「このような服」で「よそいきの服」の意味ともとれる。そうすると，「彼女はこういうよそいきの服を着ると，神経質になって怒りっぽくなる」ということになる。it was very easy to make her angry これは使役用法のmake。すなわち，主語＋make＋人間目的語＋形容詞（ないし動詞）という「第五文型」。（ポイント㊳参照p.357）。it was very easyは，まるで make 以下の主語のような形になっている。「〜らしい」「〜し易い」を表わす用法なので，あまり，その意味にとらわれずに，make her angry の方を中心に読み取ることにしてほしい。

Point 29

「使役」って何のこと？

Aさんが Bさんに働きかけ、 Bさんに行動を起こさせるのが「使役」。
一つの文のなかで二人は違う行動をしているのです。

It makes her angry.

そのことが彼女を怒らせた。

使役動詞（causative verb《コウザティブ・ヴァーブ》）の make のことは，中学三年生で習うことになっていますから，皆さんも一応は，ご存知のことでしょう。まず，復習から始めましょう。

ここでは，主語（にくる人）が，目的語にきている人に働きかけて，その目的語にきている人が，何らかの行動をとることをうながす，とか命令するとか，強制するとか，

つまり「使役」するわけです。

I make her **go**.

(私は彼女を行かせる)

行くのは彼女ですね，それを，**私がさせる**のです。このことが重要なのです。つまり，二人の人間が，それぞれ別々の動作を行うのです。命令する人は命令される人の行動に対して命令しているのです。だからこの例題でも，「私」が「行く」のではないのです。あくまで「彼女」が「行く」のですね。ここが大切なポイントです。

さて，この go のように目的語に来るのは，はだかの動詞（原形不定詞と言ったりもします）ということになっていますが，これが，表Ⅱのグループになると，この go に to がつくようになります。この点もたいへん重要なポイントですね。make と have の場合には，to がいらないのに，なぜ get や want だと to がつくのでしょう。

というよりも，**動詞の不定詞形**（この to がつく動詞のことをそう言うのでしたね。ポイント⑱参照 p.100）の法則に従って，一つの文章の中で前の方に一個すでに動詞があると，あとの方の動詞には必ず to がつくのでした。だから，Ⅱのグループの方がふつうなのです。Ⅰのグループの make と have の場合には to がいらないというのは，それこそかえって例外中の例外なのです。なぜ，to が消えたのでしょう。それは，her と go の関係が，非常に強い結びつきを示しているからです。her go とは she goes.「彼女は行く」のことなのです。ここに，一組の主語と動詞がかくれている，と考えられるわけです。だから，その

間に to をつけるのはイヤだ，と英語国民が国民語形成期間の長い歴史の間に，そのように決めていったわけです。ここまでが，復習です。

さて，では，このgoがくる場所には本来は，はだかの動詞しか来れないのでしょうか。そうではないですね。例えば，

I make her **happy**.

（私は彼女を幸せにする）

のように，happy という形容詞が来たりもするのですね。すなわち，

なのです。すると，今度は，

のように，目的語のところが，人間ではなくて，物体になりますと，この例文のように my bag を修理「してもらう」という訳になるのです。これも使役動詞 make の用法であることにかわりはありませんが，この make を

「使役」というのは少しおかしいですね。人は物を「使役」するのではなくて，「使用」するからです。そこで，私は，このような用法を，**受益用法**と呼ぶことにしました。「私」は「修理してもらう」，という利益を受けているからです。すると，これはどうなるでしょう。

I	make	my bag	stolen.
S	V	O	C

（私は、私のバッグを盗まれる。）

この場合，「私のバッグを盗んでもらう」と訳してもおかしくない場合もあるでしょうが，やはりおかしいですね。だからこの場合は，「盗まれる」となって，これを私は make（causative verb）の**被害用法**と呼んでいます。

上の二つの物目的語（my bag）の文の背後にかくれているのは，

My bag	is	repaired.
	is	stolen.

という，受動態の文ですね。物は「される」のです。人間が「する」のです。このことは，英語という言語を貫いている巨大な法則性です。「人間」がこの地球上のあらゆることの主人公なのであって，「物」は（たとえ人間の体の一部であっても）「使われる」のだ，と考えるのです。ここから**受動態**という考え方も起こっているのですが，話を

これ以上広げるのはここでは止めにしましょう。

さて，使役の make の用法も，**第五文型**，すなわち最も重要で，かつむずかしい文章の型の一種です。皆さんの頭が「文型」という貴重な考え方に，このあと少しずつ近づいて行ってくれることを心から希望します（ポイント38参照p.357）。

Point 30

現在分詞と動名詞、形は同じなのにどこが違うんだ

They are looking forward to this visit.

彼らは，この訪問を楽しみにしている。

この言い方は，例えば私たちが新幹線（弾丸列車Bullet Trainと外国人は呼びます）に乗っていると英語のアナウンスがあってその中で必ず使われている言い方です。

We are looking forward to serving you again.

（皆様のまたのお越しを心からお待ち申しております）

という言い方です。つまり，「また来てね」という内容や「楽しみにしているよ」ということを言っています。近い将来のことを願望を含んで言っている丁寧な言い方ですね。「将来のこと」を示しているのは，forward（前方を）という副詞です。そして「願望している」のは look（見る）という動詞です。ところがこの例文は，その次の前置詞 to の次の語に問題点があるのです。高校2年生の試験問題に必ず出題されるのが，この例文です。というのは，この

look forward to（～を楽しみにする）という「熟語」の次には，名詞がくるということに「決まっている」とされているのです。だから，to の次に，動詞を置いて

① We are looking forward **to see** you.

とすると，この to see の see は**不定詞**だから，これでいいではないか，と私たちは一見思うのですが，それではダメだ，バツだ，ということになります。to のあとには必ず，「名詞」がこなければならないのです。だから，初めの例文でも，to this visit のように，visit（訪問する）という元々は動詞なのに，それをそのまま名詞形として使っているのです。だから，to see では誤りで，これを，seeingに変えなければならないのです。そしてこの seeing のことを，動名詞（gerund）と言うのです。まさしく「動詞の名詞形」のことですね。つまり，look forward to の to は，次に不定詞をこさせるための to ではなくて，「将来を見る」look forwardの方に強く結びついている前置詞であるわけです。なんだか，ややこしい話ですが，こういうポイントを高校生に強制して，お前は英語ができるできないを決めているのが，日本の英語教育の実態なのです。なぜ to see がダメで，seeing にしなければならないのかは，厳密に言えばわからないのです。

この①のlook forward toの例とまったく同じような内容をしていて，ちょっと特殊ですが，現在分詞とは何かを考える上で，大切な例文があります。それは，

② Do you mind **my** **opening** the window?
（窓を開けてもいいですか）

③ I can make myself **understood** in English.
(私は，私の言いたいことを英語でわからせることができる)

です。そこで，以上の三つについて考えてみることにしましょう。

さて，はじめの，① look forward to seeing の seeing は，「動名詞」ということになっていますが，I am seeing you.（私はあなたを見ている）の seeing は，動名詞ではありません。この文形を「現在進行形の文」と言うのだということは誰でも知っていますね。この seeing を動名詞だと習ったりしている人が，日本人の3割ぐらいいるそうなので，はっきりと訂正しておきましょう。この seeing のことを現在分詞（present participle）と言うのです。なんだかよくわからない話になって来たなあ，むずかしい話はヤメてくれよ，と思う人は，ちょっと待って下さい。ここがわからないからあなたの英語の勉強は進まないのではないですか。もう少しだけしんぼうして下さい。

分詞には，二種類しかありません。現在分詞と過去分詞（past participle）です。過去分詞というのは，

You are seen by me.
（あなたは私に見られている）

と，受動態の文にした場合の seen のことですね。この see を過去分詞と言うのです。ふつうは，-ed の形になっていて，過去形とまぎらわしい形をしていますね。これと同じように，現在分詞と動名詞がこれまた，まったく同じ形をしています。「ing 形」とだけ習った人も多いことで

しょう。現在分詞と動名詞が実は，イギリスの昔の文法学者たちの対立から生まれた文法理論であることについては，別冊宝島『道具としての英語　しくみ編』（p.188）を読んで下さい。ここでは詳しくは述べられません（私は，「動名詞」という品詞を認めない説の方を支持している，とだけ書いておきましょう。しかし，このようなことを書いているからといって，皆さんの頭を混乱させる気はありませんので，ここからあとは従来通りの説明の線に添ってやってゆきましょう）。さて②について考えてみましょう。

Do you mind～の mind は，「気にする」という意味の動詞です。「あなたは気にしますか，that 以下のことを」となって，

（第一段階）　Do you mind **that** I open the window? （あなたは気にするか。私が窓を開けることを）

この接続詞 that でつないでできた文章を，ふつうは，複文（complex sentence）と言います。that 以下を従節（that clause）と呼びますが，かんたんに言うと，Do you mind という列車（機関車）に，I open the window. という別の列車を，まるで客車のように，接続しているのです。

だからこの that は大変重要ですね。

たいていの英文は，ちょっとこみいるとすぐこのように複文（二重列車）になります。あるいは，関係代名詞の文も，これと同じことですよね。

さて，この that 列車の話を進めましょう。ところで，mind という動詞は，that列車をあとに取らない，ということになっています。それは，mind という動詞の性格がうしろに長ったらしい文章をとりたがらないからです。他のふつうの動詞，例えば，I think that 以下の文の that のようにはならないのです。

（第二段階）　Do you mind **me** **to open** the window?

これは，「that 列車」を廃止して，直接，mind の目的語として，I を me にかえて，open を不定詞にしてできあがった文です。これを，第五文型（S + V + O + C）の文と見ることができるでしょう。ところが，これもダメなのです。前と同じような理由で，mind は，あとに不定詞を取らないキマリだからです。しょうがない。そこで，

（第三段階）　Do you mind me **opening** the window?

このopeningは，現在分詞です。これならOKでしょう。ところが，これは，英文としては一応正しいと英語国民も認めるのですが，それでも少しだけしっくりこないらしいのです。そこで，

(第四段階)	Do you mind **my** **opening** the window?

これが正解だ，ということになっています。me を my にしたということは，この opening は，現在分詞から，動名詞にかわったということなのです。なぜなら，myという所有格代名詞は，my bookというように，あとに名詞を取るからです。

mindという動詞を使うときには，このように，第一から第四までの段階がキチンとわかってからでないと使えないことになっているのです。皆さん，おそれ入りましたか。これが，日本試験用英文法なのですよ。そしてこれがわかっていない人は，実力で大学に受かることはないということになっているのです（実際には，一割ぐらいの高校生がなんとなくわかっているだけですが)。

それからさらに付言しますが，上の mind を使って質問されたとき，どう答えるのでしょうか。

a.「いいですよ。どうぞ窓を開けて下さい」

これを英語でいうと，

No, I don't mind, please.

というふうに，No, で答えるのです。なぜなら，「私が開けるのをあなたは気にしますか」と聞かれているのですから，「いいえ，気にしません」と答えなければならないのです。だからOKのつもりだったら No, I don't. なのです。

もし，Yes, I do. と言ったら，それは，「はい，私は気にします。やめて下さい」という意味になってしまうので

す。日本人は英語で尋ねられると，ついなんでもYes,と答えてしまう癖があります。私も，イギリス人にこの形の質問をされて，さんざん苦しめられた経験があります。Yes, No,の使い方ひとつにしても，なかなか大変なのです。

では次にはじめにあげた③の例文で，過去分詞というものについても考えてみましょう。

③ I can **make myself** understood in **English.**

この文は，使役動詞makeの用法のひとつです。

I make you understand me.

（私**は**，私［の言うこと］**を**あなた**に**理解させる）

これを文型で考えると

I make you **understand** me

S V O ＋ C O

という型をしているので，第五文型の典型ですね。

この使役動詞の make には「make＋人目的語＋動詞の原形（不定詞のこと）」という重大なキマリがありましたね（「使役動詞」についてのポイント㉙を参照p.232）。だったら，

I can make myself **understand** in English.

というように，ここは原形のunderstandのままにしておくべきだと自然に考えたら，そうなりませんか？　一見そのようになるのですが，ところがそうではないのです。myself（私自身）は，「英語」で「理解させる」のではなくて，「理解される」のですから，ここに，I am understood という受動態が，裏にかくれているのです。だから，ここでは過去分詞のunderstoodでなければ，いけないと

いうもうひとつ別のキマリがかくれているということになっているのです。ということは，この例文は，

I make my English understood.

（私は私の英語を理解してもらう）

というように，実は「make＋物目的語＋過去分詞」の形，「～される」「～してもらう」という形だったのだ，ということがわかります。ということは，myselfという再帰代名詞は，「人間」扱いではなくて，「物」扱いだということになります。このこみいった感じが理屈としてわかっていないと，本当は「正しい英語」がわかったことにならないのです。

このように，現在分詞と動名詞はちがうのです。そして，過去分詞と不定詞はちがうのです。

これ以上むずかしいことはもう言いません。ここまではわかって下さい。もしあなたが，まじめに，「英語のしくみ」ということを考えたのであれば，「暗記」に走らないでじっくり考えてみてください。そして，同時にこのことは私たちの「日本語のしくみ」ということも考えるきっかけになるのです。もしかしたら私たちは日本語の文法というものを本当は何もわかっていないかもしれないのです。

最後に，先ほどの mind の使い方が四段階に分析できたことの中に，英語文法を考える上での最も重要な点がすべて含まれていますから，もう一度，まとめて表にして，おきましょう。復習して下さい。

発展段階	文章としての正しさ	例　文
1 that列車の文	×	Do you mind that I open the window? S V O S' V' O'
2 不定詞の文	×	me to open the window? S V O O
3 現在分詞の文	△	me opening the window? S V O C
4 動名詞の文	○	my opening the window? S V O
(この△の意味は，文法的には正しいのだが，実際には使われないということを指しています。)		

Point 31

英語の気取った言い回しだってスラスラ読める

They pay a visit to him.

彼らは、彼を訪問する。

この pay a visit（直訳すれば，「訪問を支払う」）というような言い方は，気取った言い方です。ただ単に，

They visit him.

（彼らは彼を訪問する）

と言えばいいものを，わざわざpayという動詞を持ってきて，そのために visit が動詞の位置からケトバされて，a をつけてもらって名詞になってしまったのです。その影響で，to という前置詞まで必要になってしまったのです。

英文の中には，このような気取った言い方が時々出てきます。have a look（～を見る）とか，have a difficulty（問題をかかえている）とか，make a speech（演説する）とか，数えれば，きりがありません。この種の言い方を，いちいち「熟語」として覚えていた日には，その数だけで膨大な量になるでしょう。このあたりはコトバのリズムから起きた気取り表現なのだな，とわかって，さっと横に逃げるのが賢い勉強法と言えます。visitになぜpayがつくのか。それは，pay attention to（～に注目する）という言い方とどこかでゴロが合っているからなのでしょう。「目のくばり」というような感じを含んでいます。同類のものに，give an eye（見る）take a look（見る）というようなものがありますが，これらを「見やる」などという古語のような変な日本語にする必要は全然ないと言えます。

2-02-A

❶ Michael and Jane decided not to say anymore.

❷ Mary Poppins stopped at the shop at the corner to look into the windows.

◆point index◆

to look(不定詞)……ポイント18(p.100)

❸ She wanted to put her hat straight.

❹ These funny shop windows showed each of them three times.

❺ And Mary Poppins loved to see three of herself.

Mary Poppins loved to see three of herself.

メアリーも，こんなときには普通の女心を持った女性だったのです。子供たちの方がそのことを鋭く見抜いているということを作者は暗に私たち読者に教えようとしているのです。

2-02-B「ガチガチ訳」

❶マイケルとジェインは何かもっと言うことをやめることを決定した。

❷メアリー・ポピンズは窓の中を見るために角にある店で止まった。

❸彼女は彼女の帽子をまっすぐにかぶることを望んだ。

❹これらの奇妙な店の窓は三度，彼らのそれぞれを示した。

❺そして，メアリー・ポピンズは彼女自身を三度，見ることを好んだ。

2-02-C「なめらか訳」

❶マイケルとジェインはもうこれ以上何も言うまいと決心しました。

❷メアリー・ポピンズは街角の店の前に立ちどまって窓ガラスをのぞき込みました。

❸彼女は帽子をきちんと直したかったのです。

❹奇妙なことにそこの飾り窓には，彼ら三人のそれぞれが，三つの方向から映っていました。

❺そしてメアリー・ポピンズは，[窓に映った] 三つの自分を見るのが大好きでした。

2-02-A

❻ She loved it even more when she was wearing her blue coat with the silver buttons and her blue hat.

❼ She thought there ought to be as many Mary Poppins as possible, and so she looked in all the windows with pleasure.

◆point index◆

ought to be（助動詞になりつつある動詞）……ポイント⑨(p.49)

❽ When she was ready to go she said sharply to the waiting children, 'Come along now!'

Come along now!

come alongは「いっしょにいらっしゃい」という呼びかけ。You come along. のことだ。他にget along with himという使い方があって「いっしょにうまくやって行く（暮らす）」という意味。alongには「連れそう」の意味がある。

2-02-B「ガチガチ訳」

❻彼女は，銀のボタンのついた青いコートと青い帽子を着た時のように，それを愛した。

❼彼女はできるだけたくさんのメアリー・ポピンズにならなければならないと考えた。そして幸福な気持ちですべての窓を見た。

❽行く準備ができた時，待っている子供たちにきっぱり言った。「さ，いっしょに来い」

2-02-C「なめらか訳」

❻彼女は，銀ボタン付きの青いコートと青い帽子を着ていたのでなおのこと，窓を見るのが大好きでした。

❼彼女は，できるだけたくさんのメアリー・ポピンズが［映って］いるべきだと考えていたので，うれしい気分でその飾り窓にすっかり見入っていたのです。

❽［叔父さんのところへ］行くための身づくろいができると，彼女は，待たされていた子供たちにきっぱり言いました。「いらっしゃい，さあ早く！」

2-02-A

❾ So they turned the corner and pulled the bell of Number Three, Robertson Road.

❿ When it rang in the house, the children knew that, in a minute, they were going to see Mary Poppins' uncle, Mr. Wigg, for the very first time, and to have tea with him.

⓫ 'If he's in, of course,' said Jane in Michael's ear.

2-02-B「ガチガチ訳」

❾彼らは街角をまがって，そして3番地のロバートソン通りのベルを押した。

❿それが家の中で鳴った時，子供たちは，すぐに，彼らがメアリー・ポピンズの叔父さんのウィッグ氏に会いに行って来ていても，たいへん早い時間だから，彼はお茶を飲んでいることを知った。

⓫「もちろん，彼はいるでしょうね」ジェインはマイケルの耳にささやいた。

2-02-C「なめらか訳」

❾そうして三人は街角をまがって，ロバートソン通り3番地のベル［引き金］を引きました。

❿ベルの音が家の中に響いた時，子供たちはわかっていたのです。一分もしないうちにメアリー・ポピンズの叔父さんの，ウィッグさんに，初めて会って，お茶をいただくことになっていることを。

⓫「叔父さんいるかしら。もちろん［いるわ］よね」とジェインはマイケルに耳打ちしました。

2-02-D

テンポのある、はしょった文章は状況を一つ一つ思い浮かべながら読め

So they turned the corner and pulled the bell of Number Three, (2-02-A ❾)

ここは大変はしょった書き方をしているわけで,「街角をまがって」, 3番地まで歩いて行って, ベルを鳴らした, ということ。pull the bell「ベルを引く」というのは, 引き金などを引くと, ベルが鳴るようになっている, ということ。

Point 32

形容詞のmoreと副詞のmoreの違いがわかる?

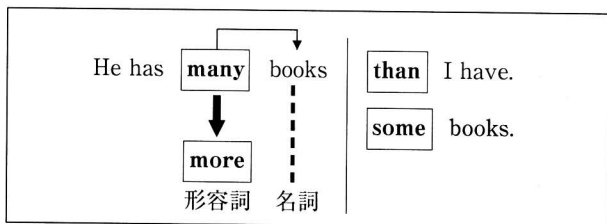
比較詞moreは、それがかかる語によって、形容詞になったり副詞になる。その違いが理解できれば英文は読める

①He has **more** books **than** I (have).
　　　形容詞　　名詞
(彼は, 私よりもたくさん本をもっている)

②She is **more** beautiful **than** you (are).
　　　副詞　　　形容詞

私たちは，ふつう，この“more～than”の用法を，①と②を区別しないで，とにかく形だけ暗記してきたように思います。①と②では，内容が相当，ちがっていることが，わかりますか。

①の方のmoreは**形容詞**です。②の方は，**副詞**なのです。そして私たちが通常，わかったつもりになっているのは②の方の使い方です。

①の方がより基本的だということを，そろそろ理解して下さい。①の例文はこれもeither ～ or（ポイント7 p.45）やas ～ as（ポイント13 p.79）でやったのと同じく，

というふうに，前の列車とあとの列車というふうに前後に切れます。thanは**接続詞**なのです。そして，moreは，

many（much）―more―most

と三段階に変化する比較詞ですね。moreというコトバがきたら，もともとはmuchあるいはmanyなのだ，というふうに頭の中で元の形に戻して読む訓練をした方がいいと思います。ただ単に，「～より～だ」と覚えているだけだから，実際には全然使えない，ということになるのです。

②の方は

She is **more** beautiful | than you (are beautiful).
副詞　形容詞

となっていて，文章としての骨組みは She is beautiful. の部分なのです。①の方とは，言っている内容がちがうでしょう。②の方は，むずかしく言うと「叙述的な言い方（プレディカティブ）」と言います。①の方は，物（名詞）の数量の多さを強調するために more を使っています。だから①の more は形容詞です。②の方は，ものごとの状態のいちじるしさを強調するために more が使われているのです。だから②の more は副詞なのです。ここがポイントなのです。だから②の型では，She is more beautiful than cute.（彼女は魅力的な美しさより，形の上で美しいのだ）というような「表現比較」が可能になるのです。

さて，more と同じものに less という「否定の方向への比較」があります。否定的比較というのは，日本語にはなじみがうすいのです。「彼の方が私よりより少なく賢い」というような言い方は，今でこそ，しだいにおかしくない日本文として受容されつつありますが，やはりおかしいですね。

この less も，元の形は，little（あるいは few）なのですから，

②' He is little clever / <u>**than**</u> I <u>am</u> clever.
↓
less

となります。

そして，littleというのは「少ない」という意味の他に，**ほとんど否定**の not という副詞と同じ意味がありましたね。lessというのは，はっきり言うと強い否定なのです。表面上は「より少ない」というようなやわらかい意味のように見えて実は，強く否定しているのです。

lessの用法もmoreと同じように，①の型もあります。

①' He has less money than I (have money).
（彼は，私より，お金を持っていない）

この文の基本形は，

He has little money.

ですね。つまり，彼は，全然，お金を持っていないのです。a few や a littleを「二，三の」と覚えている人がたくさんいますが，これらの表現は，本当は，否定なのです。「何もない」ということを，ちょっとだけ，複雑に言ってみただけなのです。このことに気づかないと，比較表現が途中でパラパラと出てくる英文を読んで行くことは不可能だということになります。

次に，「倍数比較」に使う times について考えましょう。

He has [three **times**] **as** much money **as** I have much money).

（彼は私の三倍お金を持っている）

この文の基本型は，

He has much money.

（彼はお金をたくさん持っている）

です。この文章のどこの部分に倍数を示す語がくるのかを

考えてみればよいのです。

ちなみに，二倍のときには，two times のかわりに twice を使います。

He has | twice | as much money as I have.
| = two times |

このように比較の表現も，一度，念を入れて詳しく分析しておくとよいのです。

2-03-A

❶The door flew open and a thin lady in a long skirt stood there.

❷'Is he in?' asked Michael quickly.

◆point index◆

Is he in(be動詞＋前置詞)……ポイント[3](p.28)

❸'Thank you,' said Mary Poppins, and gave him a stern look, 'but *I'll* do the talking.'

❹'How do you do, Mrs. Wigg,' said Jane politely.

❺'Mrs. Wigg! Mrs. Wigg!' said the thin lady. Her voice was thinner than she was.

2-03-B「ガチガチ訳」

❶ドアが突然開き，そしてそこに，長いスカートのやせた婦人が立っていた。

❷「彼は中ですか」マイケルが急いで言った。

❸「ありがとう」とメアリー・ポピンズは言って彼に厳しい目を与えた。「しかし，私が言う」

❹「初めまして，ウィッグ夫人」とジェインが上品に言った。

❺「ウィッグ夫人！ウィッグ夫人！」と，そのやせた婦人は言った。彼女の声は，彼女よりもっと細かった。

2-03-C「なめらか訳」

❶ドアが開くと，そこには長いスカートをはいたやせた婦人が立っていました。

❷「その人いますか？」マイケルが素早くたずねました。

❸「ありがとう」と言って，メアリー・ポピンズはマイケルをきびしい目つきで見すえました。「でも，お話しは私がするのよ」

❹「はじめまして，ウィッグさまの奥さま」とジェインがていねいに言いました。

❺「ウィッグさまの奥さま！　ウィッグさまの奥さまですって！」とやせた婦人は言いました。その声はその人［の身体］より細い声でした。

❻'I'm not Mrs. Wigg. No, thank you! My name's Miss Persimmon — and a very good name too! I'm not Mrs. Wigg! Go straight up, now. First door on the left.' And she hurried away from them.

❼But they could still hear her high thin voice, 'Mrs. Wigg! Calling me Mrs. Wigg!'

2-03-B「ガチガチ訳」

❻「私はウィッグ夫人ではない。ありがたくない。私の名前はミス・パーシモンです——とってもよい名前です。これもまた。——私は，ウィッグ夫人ではない。すぐ，まっすぐ上がって。左側の最初のドア」そして彼女は彼らの前から急いで遠のいた。

❼しかし，彼らはまだ，彼女の高くて細い声を聞くことができた。「ウィッグ夫人，私をウィッグ夫人と呼びながら」

2-03-C「なめらか訳」

❻「私はウィッグさんの奥さまなんかではありません。おまちいがいなく！ 私の名前は，ミス・パーシモンですよ——これだってとても由緒ある名前ですわ！——私はウィッグ夫人ではありません！ まっすぐ行って上におあがりなさい。左側の最初の部屋ですよ」そう言うなりミス・パーシモンは三人の前からさっさと立ち去ってしまいました。

❼けれど，その細い声はまだ聞こえてくるのでした。「ウィッグさまの奥さまだなんて！　私をウィッグさまの奥さまだなんて！」

2-04-A

❶ Jane and Michael followed Mary Poppins upstairs.

❷ Mary Poppins knocked at the door.

❸ 'Come in! Come in! And welcome!' called a loud, cheerful voice from inside.

❹ Jane's face was getting red with excitement.

Jane's face was getting red with excitement.

be getting redは「みるみる赤くなった」という状態の記述。過去進行形にこだわらず，状態や変化の過程を形容しているのだと考えること。Jane's face turned red.「まっ赤になる」と同じ。

❺ 'He is in!' she said, with a look at Michael.

2-04-B「ガチガチ訳」

❶ジェインとマイケルは二階へメアリー・ポピンズについて行った。

❷メアリー・ポピンズはそのドアをノックした。

❸「入って！入って！いらっしゃい！」中から大きな幸福そうな声が言った。

❹ジェインの顔は興奮で赤くなった。

❺「彼は中にいる」彼女はマイケルを見ながら言った。

2-04-C「なめらか訳」

❶ジェインとマイケルはメアリー・ポピンズのあとについて階段を上がりました。

❷メアリー・ポピンズはそのドアをノックしました。

❸「お入り！ お入り！ よく来たね！」中から，大きく陽気な声が聞こえてきました。

❹ジェインの顔が，興奮で赤くなってしまいました。

❺「いるんだわ！」と言って，彼女はマイケルに目くばせしました。

2-04-A

❻ Mary Poppins opened the door and pushed them in.

❼ A large cheerful room was there before their eyes.

◆point index◆

A large cheerful room（物主語の文）……ポイント⑥（p.37）

❽ At one end of it a fire was burning brightly.

❾ In the middle of the room stood a big table with everything for tea on it — four cups and saucers, lots of bread and butter, small coconut cakes and one large chocolate cake.

stood a big table with everything for tea on it...

これは a big table stood and everything was ready for tea on it と読める。つまり「大きなテーブルがあり，その上には，お茶のための準備がすっかりできていた」となる。with は「付帯状況」の with.

2-04-B「ガチガチ訳」

❻メアリー・ポピンズはそのドアを開け，彼らを中に押した。

❼大きく楽しそうな部屋が彼らの目の前にあった。

❽一方のすみの暖炉は明るく燃えた。

❾部屋の中央にある，大きなテーブルにはお茶を飲むためのすべてがあった。四つのカップに受け皿，たくさんのバターつきのパン，小さなココナッツ・ケーキ，それに大きなチョコレートケーキ。

2-04-C「なめらか訳」

❻メアリー・ポピンズはドアをあけて，二人を中に押し入れました。

❼大きくて楽しそうな部屋が子供たちの目の前に**広がりました**。

❽部屋の一方の隅には［暖炉の］火があかあかと燃えていました。

❾部屋の中ほどには，大きなテーブルがあり，その上には，お茶をいただくために必要なものがすべてそろっていました――四つのカップと受け皿，山盛りのパンとバター，たくさんの小さなココナッツケーキと，ひとつの大きなチョコレートケーキです。

2-03-D

文中のnowというコトバは口調を整えるために使われる

Go straight up, now. First door on the left. (2-03-A ❻)
「まっすぐ上がりなさい。左側の最初の部屋ですよ」nowは特に意味はなく，口調をつけているのだ。イギリスの家は，通常ドアを開けると玄関があって，コートをかけたりする場所などがある。その右手に階段がついていて，二階へ上がるようになっている。大変奥行きの深い造りになっている。この家は，大きな下宿屋さん（Boarding House）なので，パーシモンさんは，部屋を借りている人たちの世話をしている人。この場面は，玄関に入ってからすぐ階段をのぼってゆくように，と案内しているところ。

2-04-D

物が主語になったときの表現には人間の主語をおぎなって訳そう

A large cheerful room was there before their eyes. (2-04-A ❼)
「大きな楽しそうな部屋がそこに彼らの眼の前にあった」とこのまま前の方から訳しても日本語として異和感がなくなっている程英語は最近の日本語の文章構成に深く影響している。いわゆる「物主語の文」は今後さらに日本語の表現の中に広がってゆくことだろうが，この形は人間を主語

とした文が裏にかくれていることを忘れてはならない。

この文の場合も，書きかえてみると，there, they found a large cheerful room.「そこに，彼らには，大きく楽しそうな部屋が見えた」という文章になるので，「物主語の文」は必ず「人間主語の文」に書きかえられるということだ。

あるいはこの例文の場合は，a room was there. から当然，there was a room.「部屋があった」という「存在を表わす文」としても考えるべきだ。beforeは時間の前後を表わす前置詞でもあるので，空間に限定した表現として用いればin front of them の意味になるわけだ。

At one end of it. (2-04-A❽)

itは「部屋」,「その部屋の一方の隅には」。ここまでで切れることがわからないと混乱してしまう。　，(コンマ)がなくても，文の構成から切れ目がわかるようにしよう。逆に言えば，At one end of it はしっかりつながってひとまとまりになっているので，この中では切れないことがわかれば，おのずと切れる場所がどこにあるかわかる。

endはこの場所の「端」「隅」のことだ。「終わり」といっても時間や出来事だけでなく，一定の空間や物体の終わりの部分をさしたりする。またendには「目的」という意味もあるから，日本語の「終わり」と，ちょっと意味がずれてくる場合があるのだ。

Point 33

一見、名詞に見えてしまう副詞たち home, upstairs, backなど

We go back home.　　**She goes upstairs.**

私たちは家に帰る。　　彼女は二階に上がる。

これらの言い方の，back も home も upstairs も「副詞」と言います。homeは名詞ではないの？　と思う人もいるでしょうが，これも副詞なのです。

I go home.

（私は家に帰ります）

という言い方は，

I go to my home.

と言えば，homeは名詞なのですが，to my が抜けると副詞になってしまうのです。副詞というのは，もう何回も説明したとおり，動詞を飾るコトバでしたね。I go there. のthere を，ポイント④（p.31）で説明しましたが，あのthere が副詞であったことと全く同じことなのです。だから，これらの例文は，

We go **home**.

We go **back**.

We go **upstairs**.

We go **up**.

のように，特定のすっきりした使い方をするのです。ふつうの考えでは，この例文たちは，主語＋動詞（＋副詞句）

なので，第一文型（S＋V）とされています。しかしこの home や back などの副詞は，C（補語）だと考えてもよいでしょう。したがって，これらの例文はすべて，第二文型と考えてよいのです。ついでに，

We go shopping.
（私たちは買物に行く）

の shopping は，動名詞ということになっていますが，これも，私の説では，第二文型ということになります。

英語教師の中には，第二文型，例えば

She is **pretty**.
S V C

の complement（補語）には，形容詞がくるのであって，副詞はこない，とガンバル人たちがいますが，根拠はありません。しいて言えば，第二文型の動詞は，be か，「不完全自動詞」だけだと考えるかららしいのですが，私に言わせれば，副詞が来てもいいではないか，と思います。なぜなら，副詞も形容詞も，たいしたちがいはない，というよりも，もともとが同じものだからです。

英語というのは，書かれた文章として見る以前に，しゃべられるコトバとしてのリズムを持っています。それを，私は「英文のリズムは，ポン・ポン・ポンだ」と名付けています。I love you. というふうに単語を三つ並べさえすればそれだけで英文になってしまうのだ，と考えています。

なぜなら，そのような感じで，英語国民はしゃべっているからです。be のあとには副詞は来ない，というようなおかしな理屈にまどわされないようにしましょう。

2-05-A

❶'Well, well, this is a pleasure,' said a deep voice.

❷Jane and Michael looked round.

❸They couldn't see anyone.

❹Then Mary Poppins said angrily, 'Oh, Uncle Albert, not again? It's not your birthday, is it?'

❺She was looking up at the ceiling.

❻Jane and Michael looked up too.

2-05-B「ガチガチ訳」

❶「さて，さて，よく来た」と深い声が言った。

❷ジェインとマイケルは見まわした。

❸彼らは誰も見ることはできなかった。

❹その時，メアリー・ポピンズは怒ったように言った。「まあ，アルバートおじさん，またか？　誕生日ではないでしょうね？」

❺彼女は天井の方を見上げた。

❻ジェインとマイケルもまた見上げた。

2-05-C「なめらか訳」

❶「やあ，やあ，これは楽しみな」と肉太の低い声が言いました。

❷ジェインとマイケルは，［あたりを］見まわしました。

❸二人には誰も見えません。

❹その時，メアリー・ポピンズが怒ったように言いました。「まあ，アルバート叔父さん，［またふざけたりして］もうしないはずでしょ？　今日は叔父さんの誕生日じゃないでしょ？」

❺彼女は天井の方を見上げました。

❻ジェインとマイケルも見上げました。

2-05-A

❼ To their surprise they saw in the air a round, fat, smiling man.

a round, fat, smiling man

　形容詞がいくつも重なる場合には，こうして，(コンマ)でつないでいくことが多い。すべての場合 man にかかるわけだが，ズラズラと並べるとまぎわしくなる場合があるから注意しよう。

❽ He was just hanging there.

❾ He wasn't holding on to anything.

❿ He was sitting on the air, because his legs were crossed and he was reading a newspaper.

2-05-B「ガチガチ訳」

❼驚いたことに，彼らは，空中に，立ってほほえんでいる男を見た。

❽彼は，実際そこにひっかかっていた。

❾彼は何にもつかまってはいなかった。

❿彼は空中に座って，ひざを組んで，新聞を読んでいた。

2-05-C「なめらか訳」

❼驚いたことに，空中に，丸々と太った男の人がほほえんでいるのが見えたのです。

❽男の人が，ただ空中に浮かんでいたのです。

❾何にもつかまっていません。

❿その人は空気にこしかけていました。というのも，脚は組んでいたし，新聞を読んでいたのですから。

2-05-A

⓫'My dear,' said Mr. Wigg.

'My dear,' said Mr. Wigg.
My dear は親しい者への呼びかけ。一般に「ねェ君」とか「ねェあなた」。言うまでもなく，文章の流れによって異なってくる。ふつう日本語には訳しにくい。「拝啓」となったりするからコワイ。

⓬He smiled at the children and then looked at Mary Poppins again.

⓭'My dear, I'm very sorry, but today is my birthday.'

⓮Mary Poppins sniffed.

2-05-B「ガチガチ訳」

⓫「やあ」ウィッグ氏は言った。

⓬彼は子供たちにほほえみ，そしてそれからメアリー・ポピンズをふたたび見た。

⓭「たいへんごめんなさい。しかし，今日は私の誕生日なのだ」

⓮メアリー・ポピンズは，鼻をすすった。

2-05-C「なめらか訳」

⓫「やあ，やあ」ウィッグさんは言いました。

⓬彼は子供たちにほほえみかけ，それからまた，メアリー・ポピンズの方を見つめました。

⓭「やあ，とてもガッカリだな，だって，今日は私の誕生日だからね」

⓮メアリー・ポピンズは，鼻をすすった。

2-06-A

❶'I only remembered last night. There was no time to send you a postcard and ask you to come another time. It's sad, isn't it?' He looked down at Jane and Michael.

❷Their mouths were wide open with surprise. 'You see, it's like this.

You see, it's like this.
「わかるだろう，こんなふうでね」という言いまわし，形容詞「〜のような」の like。

❸I'm a cheerful man, and very ready to laugh at things.

2-06-B「ガチガチ訳」

❶「私は昨夜になって思い出しただけだ。ハガキを出すためのそして別の時間に来ることをたずねるための時間がなかった。それは悲しいことだろう？」彼は，ジェインとマイケルを見おろした。

❷彼らの口は驚きで大きく開いたままだった。「あなたは見ます。それはこのようなんだ。

❸私は楽しい男です，そして事を笑う準備がたいへんできている。

2-06-C「なめらか訳」

❶「私はきのうの夜にようやく思い出したんだよ。で，君にハガキを出して，別の日に来るように連絡する時間がなかったんだ。悲しいじゃないか，ねぇ？」叔父さんはジェインとマイケルを見おろしました。

❷二人は驚いて口を大きく**開けたまま**でした。「ごらんのとおり，こんな次第なんだ。

❸私は陽気な男でね，**ことあるごとに**［何でも］**笑っちゃう**んだ。

2-06-A

❹ I find lots of things very funny, and I can laugh at almost everything.'

❺ And when he said that, Mr. Wigg began to shake with laughter.

And when he said that,

このwhenはand thenではなくas「～しながら」の同時並行として理解する方がいい。「そう言っている間にも」

❻ And when he laughed, he went up and down in the air like a balloon.

❼ 'Uncle Albert!' said Mary Poppins, and Mr. Wigg stopped in the middle of a laugh.

2-06-B「ガチガチ訳」

❹私はたいへんおかしいと思うものをたくさん気づく。そして私はほとんどすべてのことを笑うことができる」

❺そして，彼があれを言った時，ウィッグ氏は笑いといっしょに，揺れ始めた。

❻そして，彼が笑った時，彼は，風船みたいに，空気の中で上に下に行った。

❼「アルバートおじさん！」メアリー・ポピンズが言って，ウィッグ氏は笑いのまん中でピタリととまった。

2-06-C「なめらか訳」

❹いろんなことがとってもおかしく思えてね，だから私はなんでもかんでも笑ってしまうんだよ」

❺そう言っている間にも，ウィッグさんは笑いで身体を揺らし始めていました。

❻笑っている間，ウィッグさんは，まるで風船のように空中をふわふわしていました。

❼「アルバート叔父さんたら！」とメアリー・ポピンズが言うと，ウィッグさんは笑うのをピタッとやめました。

❽'All right, Mary, I'm sorry. I'll try not to laugh....But if my birthday comes on a Friday, and if I laugh on that day, then it's all up with me. And I go UP.'

2-06-B「ガチガチ訳」

❽「よろしい。メアリー，ごめんなさい。私は笑わないように試みるでしょう……。しかし，もし，私の誕生日が金曜日に来るのであれば，そしてもし私がその日に笑えば，それから私といっしょにそれはすべて終わりだ。そして私は上がる」

2-06-C「なめらか訳」

❽「わかったよ，メアリー，ごめんよ。笑わないようにするよ……。でもね，私の誕生日が金曜に当たってしまってね，しかもその曜日に笑ってしまうとね，私はもうダメなんだよ。それで私は上にまいりますになってしまう」

thisはなにか特定のものを指すだけでなく、そのときの状況全体も指す

'Well, well, this is a pleasure,' said a deep voice.（2-05-A ❶）

Wellは，言葉の間にはさんだり，何かを言い出す前に「エー」といった感じで置いたりするもの。「やあ，やあ」とか「さて，さて」とか，その場に合った言葉をあてよう。this is a pleasure これは I'm pleased をかえた言い方。thisは何か特定なものを指すのではなく，日本で「これは大変だ」とか「こいつは春から縁起がいいわい」とかいうのと同じで，出来事や状況の現時点での様子全体を指して使う。It's my pleasureの形が，普通使われる場合が多い。

感情を強調するときには倒置の文が使われる

To their surprise....（2-05-A ❼）

これは It is surprised that～という言い方が短縮されたもの。本来は They were surprised, because～となるところ。あるいは，続く次の文章の後にまわして，,and they were surprisedとしてもいいところ。驚きを強調するために「驚いたことには」と先に言って，次にその理由を述べるという順番にしているわけ。

smileには好意を表わすときと冷笑や皮肉を表わすときがある

He smiled at the children....（2-05-A ⓬）

「子供の方へ笑いかけた」。ここでは，もちろん，好意を

表わすsmileだが，smileで冷笑や皮肉を表わす場合もある。またdream a dream「夢を夢みる」と同じような用法があって，smile an ironical smile「皮肉な笑い方をする」という風に使う。

2-06-D

形容詞が副詞の前について副詞の働きをする

Their mouths were wide open with surprise. (2-06-A ❷)

「彼らの口は，驚きで大きく開いていました」。wide openのwideは本来形容詞だが，副詞のopenの前に重ねられて使われているので副詞だ。事実上open widelyの意味。「彼らの口」と物主構文のまま訳さないで，「彼らは，驚いて口を大きく開けていた」，あるいは「彼らは，口をポカンと開けていた」とする方がいいだろう。

接続詞のwhenと、接続詞のasは、よく似ている

And when he said that, (2-06-A ❺)

このwhenは，ここではand then（そしてそのとき）の意味で訳さずに，「～しながら」の as の使い方と同じものと考えて，「彼はそう言っている間にも」と訳した方が適当だ。when と as は非常によく似ている。

2-07-A

❶'But why...' began Jane. 'But how...' began Michael.

❷'Well, you see, if I laugh on that day, I become full of Laughing Gas. And then I can't stay on the floor.

❸The first funny thought I have —I go up like a balloon. And I can't get down until I think of some- thing sad. It hasn't happened to either of you?'

◆point index◆

I think of(前置詞のof)……ポイント⑳(p.115)

2-07-B「ガチガチ訳」

❶「しかしなぜ」ジェインが始めた。「しかしいかに」とマイケルが始めた。

❷「さあ，あなたは見る。もしあの日に私が笑うと，私は笑いガスでいっぱいになってくる。そしてそれから，私は床にとどまることができない。

❸私ははじめのおかしい考えを持つ。私は風船みたいに上がる。そして，私がなにか困ったことを考えるまで，私は降りられない。それはあなたたちのどちらかそれぞれに，起こらなかったか？」

2-07-C「なめらか訳」

❶「でもどうして……」とジェインがきり出しました。「でもどうやって……」とマイケルもきり出しました。

❷「うん，えーと，金曜日に私が笑うとだね，私は笑いガスでいっぱいになってしまうんだよ。で，私は床に**ついて**いられなくなっちゃうのさ。

❸ちょっとでもおかしなことを考えると――もう私は風船みたいに舞い上がっちゃうんだ。そして，何か悲しいことを思いつくまでは，降りて来られないのさ。こんな経験は君たちにはないだろうね？」

2-07-A

❹ Jane and Michael shook their heads.

❺ 'No, I can see that it hasn't. It happens only to me. Once I was up here for twelve hours. Then, at midnight, down I came with a bang. That was funny, wasn't it?

No, I can see that it hasn't.

この種の can が，「できる」の意味ではなくて，may（かもしれない）に近いことについてはポイント[8]（p.46）参照。

down I came with a bang.

I came down の倒置。「おちる」を強調した言い方。bang は強打した音を表わし「ドスン，ドタン，バーン」といった擬音に相当する。

❻ And now it is Friday, and my birthday again, and you two and Mary Poppins are visiting me...Now, don't make me laugh, please don't...'

◆point index◆

make me laugh（使役）……ポイント[29]（p.232）

2-07-B「ガチガチ訳」

❹ジェインとマイケルは彼らの頭を振った。

❺「いいえ。私はそれは持たないことを知ることができる。それは私だけに起こることだ。かつては私は12時間の間ここに上がった。それから，真夜中に，私は大きな音をたてて落ちた。それは奇妙だったでしょう？

❻そして，今は金曜日だ。そして私の誕生日がふたたびだ。そしてあなたたち二人とメアリー・ポピンズが私を訪ねてくる。今，私に笑いを作るな，おねがいだ。するな」

2-07-C「なめらか訳」

❹ジェインとマイケルは首を［横に］振りました。

❺「**そうだろうね**，そんなことなかった**って**私にはわかるよ。こんなこと私にしか起こりはしないさ。一度なんて，12時間もここ［空中］に浮いていたことがあってね。それから，真夜中になって，［ようやく］ドスンと落ちるわけだ。おかしいだろう？

❻で，今日は金曜日で，そのうえ私の誕生日で，君たち二人とメアリー・ポピンズが私をたずねて来ているとなったら……さあ，私を笑わさないでおくれよ，お願いだから笑わさないで……」

2-08-A

❶ Jane and Michael weren't making him laugh.

❷ They were only looking with open eyes and mouths at the most surprising thing in their lives.

❸ But Mr. Wigg began to laugh again loudly.

❹ And when he laughed he bounced all over the ceiling like a ball.

❺ Like a big rubber ball he bounced off the ceiling, hit the top of a cupboard, and went up again.

2-08-B「ガチガチ訳」

❶ジェインとマイケルは彼に笑いを作っていなかった。

❷彼らは彼らの人生で初めての最もたくさんの驚きで目と口を開いてただ見ているだけだった。

❸しかし，ウィッグ氏は大声でふたたび笑い始めた。

❹そして彼が笑う時にボールのように天井中にはねかえりました。

❺大きな，ゴムボールのように，彼は天井からはねかえり茶碗棚のてっぺんを打った。そしてふたたび上がった。

2-08-C「なめらか訳」

❶ジェインとマイケルは笑わそうとしていたわけではありません。

❷二人はただ，目と口を開けたまま生まれて初めて見る，何とも驚くべき出来事をながめていただけなのです。

❸ところが，ウィッグさんはまたもや，大声をたてて笑い始めたのです。

❹笑っている間じゅう，ウィッグさんは，天井のあちこちにボールのようにはねました。

❺大きなゴムボールみたいに天井にはねかえり，戸棚のてっぺんにぶつかり，また上にのぼって行きました。

❻ He looked very funny, and Jane and Michael couldn't help it.

◆point index◆

help it(it)……ポイント⑪(p.70)

❼ They shut their mouths and tried hard to be polite.

They shut their mouths and tried hard to be polite.

このような副詞のhardは，簡単すぎて逆に日本語に直しにくい。「上品であろうと努力した」けれども「なかなかむずかしくて」結局「無理だ」というような長い意味を，hard一語で表わしているからだ。

2-08-B「ガチガチ訳」

❻彼は，たいへんおかしく見えた。ジェインとマイケルはそれを助けることができなかった。

❼彼らは彼らの口をとじて，そして上品であるために堅くあることを試みた。

2-08-C「なめらか訳」

❻ウィッグさんがとっても**おかしい**ので，ジェインとマイケルは［おかしくて］がまんできません。

❼二人は口をとじて，いっしょうけんめい礼儀正しくしていようとしていました。

❽ But they had to laugh. And so they laughed and laughed. Louder and louder.

Louder and louder.
「ますます大声に」。単語をポンポンと置いて，その単語の意味を強調させるというのは，英語によく見られる表現法。

❾ They fell to the floor and cried out with laughter.

2-08-B「ガチガチ訳」

❽しかし，彼らは笑わなければいけなかった。そしてだから彼らは笑いに笑った。より大きく，より大きく，

❾彼らは床に落ちてそして笑いと共に叫んだ。

2-02-C「なめらか訳」

❽でも，二人は**笑い出さずにはいられませんでした**。それで二人は笑いに笑いました。**笑い声がだんだん大きくなっていきます。**

❾二人は床にしゃがみこんで，ゲラゲラ笑いました。

2-07-D

yesのときはnod「うなずく」
noのときはshake「首を振る」

Jane and Michael shook their heads.（2-07-A❹）

この shake は他動詞（先ほど出たのは自動詞で，「身をふるわす」だった)。「首を横に振る」という場合，質問への答えとしては，Noを意味する。Yesの時には，nod「うなずく」。「首を振る」shake one's headは，日本語の表現では「横に振る」であり，一般に「たてに振る」の nod はYesになる。

That was funny, wasn't it?（2-07-A❺）

このthatも，特定の何かを示すのではなく，すでに述べられたことから推測できること，ここでは，笑いガスで宙に浮かんでしまうこと，一度は12時間も浮かんでいたことがあること，そしてドタンと落ちたこと，などをさす。itと同様の用法で that も使われるということで，事実，ここの付加疑問文は，thatのかわりに wasn't it? と it にかえられている。こういう場合には，「それ」「あれ」「これ」などと無理に訳さず，文脈に沿って，「おかしいだろう？」というように，それまでの話しの筋を指すようにする必要がある。

2-08-D

helpはcanやcannotを伴って「避ける」「やめる」の意味となる

He looked very funny, and Jane and Michael couldn't help it. (2-08-A ❻)

このlookは「見える」。「彼はとてもおかしく見えて，ジェインとマイケルはがまんできなかった」。help は can, cannotを伴って「避ける，やめる，抑える，禁ずる」を表わす。itはこれまた漠然とした形だが，一応「おかしさ」や「笑い」を指すとすれば，ここは「おかしさ」と「笑い」を「抑えきれない」となる。もっと漠然とした状況全体を示す it だとすれば「こらえきれない」とか「がまんできない」とかがふさわしい。例えば，何かにうんざりして，I can't take it.「やってられないよ」とか「もういや」と言う場合の it。

But they had to laugh. (2-08-A ❽)

have to は must で「～しなければならない」「～せざるを得ない」。正確には「二人は笑い出さざるを得なかった」ということだが，ここは，they couldn't help laughing.「二人は笑わずにはいられなかった」と言いかえて考えてみよう。they can (cannot) help, は名詞を目的語に取るので，動詞を使う場合は，動名詞化しなければならない。この場合they cannot help laughing.「二人は笑わずにはいられなかった」この動名詞の使い方についてポイント30 (p.236) 参照。

2-09-A

❶'Really,' said Mary Poppins, 'really, what bad children!'

◆point index◆

what bad children!(感嘆文)……ポイント㉞(p.306)

❷'I can't help it!' I can't help it! cried Michael.

❸'It's so very funny. Oh, Jane, isn't it funny!'

❹Jane did not answer.

❺Something was happening to her.

Something was happening to her.

この thing(物)主語の文でかつ過去進行形の文は日本文に直訳してもそのまま意味が通る。そのことがかえって英語というものをわかりにくくしている。

2-09-B「ガチガチ訳」

❶「本当に」とメアリー・ポピンズは言った。「本当に何と悪い子供たち」

❷「どうすることもできない。どうすることもできない」とマイケルは叫んだ。

❸「それはとっても非常に奇妙です。おお，ジェイン。それはおかしくないか」

❹ジェインは答えなかった。

❺何かが彼女に起こった。

2-09-C「なめらか訳」

❶「本当に，」とメアリー・ポピンズが言いました。「本当に，なんて悪い子たちなんでしょ！」

❷「どうにもならないよ！　どうにもならないよ！」とマイケルが声をはりあげました。

❸「おかしくておかしくて，ねえジェイン，おかしいよねぇ！」

❹ジェインは答えません。

❺ジェインに何かが起こっていました。

2-09-A

❻ Every time she laughed, she became lighter and lighter until she was full of air.

❼ And suddenly, with a bounce, she shot right up into the air.

❽ Her head touched the ceiling, and then she bounced along until she met Mr. Wigg.

❾ 'Well,' said Mr. Wigg, 'are you going to tell me it's your birthday too?'

❿ Jane shook her head.

2-09-B「ガチガチ訳」

❻彼女が笑うときはいつでも，彼女は空気でいっぱいだったまで，彼女はより軽くなっていった。

❼そして突然，彼女ははねることといっしょに空中にまっすぐ浮き上がった。

❽彼女の頭が天井についた。そして，それから彼女は彼女がウィッグ氏に会うまで体をはねた。

❾「やあ」とウィッグ氏は言った。「あなたはそれは自分の誕生日でもあると私に言うでしょうか」

❿ジェインは彼女の頭を振った。

2-09-C「なめらか訳」

❻笑うたびに，だんだん軽くなって，**ついに**，空気でいっぱいになってしまったのです。

❼そして突然，ひとはずみ**すると**，彼女は空中に浮き上がったのでした。

❽その頭が天井について，そこではねかえっているうちに，ジェインはウィッグさんとご対面することになりました。

❾「やあ」ウィッグさんが言いました。「あんたの誕生日も今日だったのかい？」

❿ジェインは首を振りました。

2-10-A

❶‘It’s not? Then it’s this Laughing Gas. Hi, there,look out!’ This was to Michael.

It’s not?

口語ではイントネーションだけで疑問を表わすことが多いが，ここもその例。It’s not. で「そうじゃない？」「違うの？」で，続く Then は「そうであるなら」「だったら」というふうになる。

❷ He was no longer on the floor, but was flying through the air.

He was no longer on the floor, but was flying through the air.

no（あるいは not）～，but という文章のつづけ方は，日本語の「～ではなくて，～だ」という言い方よりも，もっと強い，言い切り方を含んでいる。「～ではない。そうではなくて～だ」と訳した方がよい。

❸ He was laughing loudly.

2-10-B「ガチガチ訳」

❶「それは違うか？　それからそれはこの笑いガスだ。はい，あそこ，見上げろ」これはマイケルに対してでした。

❷彼はもはや床の上にはいなかった。しかし，彼は空気を通って飛んでいた。

❸彼は大声で笑った。

2-10-C「なめらか訳」

❶「違う？　それでは笑いガスのせいだな。やあ，ほら，気をつけて！」これはマイケルに［言ったのです］。

❷マイケルはもう床にはいなくて，空中に浮かんでいたのです。

❸彼は，大声で笑い続けていました。

❹ His feet just missed the top of the cupboard, and then he landed with a bounce right on Mr. Wigg's knee.

❺ 'How do you do,' said Mr. Wigg, and shook Michael's hand.

❻ 'This is really friendly of you. You came up here because I couldn't come down to you, didn't you?'

❼ And then he and Michael looked at each other and threw back their heads and shouted with laughter.

2-10-B「ガチガチ訳」

❹彼の足が食器棚のいちばん上を失った。そして，それから，彼は一はねといっしょにウィッグ氏のひざの上にまっすぐ到着した。

❺「ごきげんよう」とウィッグ氏が言った。そしてマイケルの手と握手した。

❻「これが本当にあなたと友人的だ。私が君たちのところへ降りられなかったから，君たちが昇って来た」

❼そして，それから彼とマイケルはお互いに顔を見合わせて，そして彼らの頭を後に投げた。そして笑い声とともに叫んだ。

2-10-C「なめらか訳」

❹足が戸棚のてっぺんをかすめて，天井でひとはねしてから，ぴたっとウィッグさんのひざにとまりました。

❺「はじめまして」とウィッグさんは言って，マイケルと握手しました。

❻「本当に友だち甲斐があるんだね，君たちは。君たちの方がここまで来てくれたんだね。なにせ，私の方は君たちのところまで降りて行けないもんだから，ね？」

❼そこでウィッグさんとマイケルは互いに見つめあい，頭をのけぞらして大笑いしました。

2-09-D

until は until 以下の時や場所に「至る」と覚える

she became lighter and lighter until she was full of air.
(2-09-A ❻)

「どんどん軽くなっていって，空気でいっぱいになった」。untilは「～まで」ということで，「空気でいっぱいになるまで～」とやりたくなるが，これまでに何度も述べたように，文は前から読むべきだから，そもそも英語を漢文なみに返り点つきで読んでいる方がおかしいのだ。untilはむしろ到達点ないし帰結を示すものと考える。つまり，ここでは「どんどん軽くなって」その結果「空気でいっぱいになる」に至った，という風に。until は until 以下の時や場所や事柄に「至る」という風に覚えよう。しかし，もちろん，「まで」がなくなってしまうわけではない。時間が直接問題の場合には「まで」を使えばいい。

文中にはさまれる with は付帯状況を表わす with だ

And suddenly, with a bounce, she shot right up into the air.
(2-09-A ❼)

withは付帯状況の with だ。「ひとはねで」「ひとはねして」。この shoot は他動詞「撃つ」の方ではなく，自動詞で「弾が飛びでる」方だ。「勢いよく動き出す」という意味でPrices are shooting up. と言えば「物価が急激に上がっている」。ここでは，shot right up into the air「空中へ

真上に飛び上がる」。笑いガスでいっぱいになってどんどん軽くなった結果だから，「勢いよく飛び上がる」というより，「浮き上がる」という感じだろう。

and then she bounced along until she met Mr.Wigg.
(2-09-A❽)

bounce alongは天井にあたってポンポンはずんでいる，というところ。until はすぐ前に出たのと同じように扱って，「ミスター・ウィッグと対面することに」至った。

'are you going to tell me it's your birthday too?'
(2-09-A❾)

ここのbe going to はほとんどwillと同じ，未来というより意志「～するつもり」。「君は今日が君の誕生日でもあると私に言うつもりかね」ということ。つまり，ジェインが笑いガスで浮き上がったのを見て，「君も誕生日には浮き上がるのかい」で「今日がその誕生日なので，そうやって浮かんでいるのかい」という風に聞いているわけ。ウィッグさんの冗談だ。are you going to tell me で切れ，it's your birthday too と続く。間に that を入れて考えてもいい。とにかく切れ目がわかればいいわけだ。

Point 34

感嘆文のしくみは、こんなにカンタン！

Ⅰ　**What a beautiful girl she is!**
　彼女は何て美しい少女なのだ。

Ⅱ　**How beautiful she is!**
　彼女は何て美しいのだ。

Ⅲ　**How beautiful the girl is!**
　彼女は何て美しい少女なのだ。

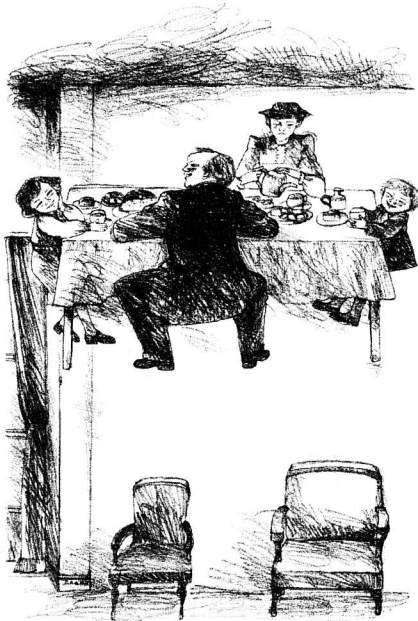
上の三つの文をよく見比べて下さい。what と how で作る感嘆文と言われているものの，それぞれの特徴がわかるでしょうか。Whatで始まる方は，冠詞 **a** がついて，その次に形容詞beautiful＋名詞girlが来ていますね。それに対して，Howの方は，すぐそのあとに形容詞のbeautifulが来ていますね。そして，名詞はその次につづいているのではありません。ここが，二種類の感嘆文を区別するミソなのです。感嘆文というのは，疑問文と似ていますから，同じような，コトバのひっくりかえり（語順の倒置）になっているのですね。元の形にもどしてみましょう。

1. She is | **what** a | beautiful girl.
　　　　| **very** |

2. She is | **how** | beautiful.
　　　　| **very** |

2'. The girl is | **how** | beautiful.
　　　　　　| **very** |

これだけのことさえ，わかっていれば，どんな感嘆文も全然怖くないのです。そして，二つの種類を混同することもないのです。what と how が，それぞれどの語にかかって，それを強めているのかさえわかればよいのです。what は girl（名詞）にかかっています。そして how は beautiful（形容詞）にかかっているのです。

2-11-A

❶Then Mr. Wigg turned to Jane.

❷'You must think I'm not very polite. You're standing, and you ought to be sitting — a nice young lady like you.

You're standing,
「あなたは立ったままでいる」と状態を描写している。立ったままといっても空中でのことだ。

❸I'm sorry I haven't got a chair for you here, but you'll find the air is quite comfortable to sit on.'

◆point index◆
to sit on(不定詞)……ポイント18(p.100)

❹Jane tried it, and found she could sit quite comfortably on the air.

2-11-B「ガチガチ訳」

❶それからウィッグ氏はジェインのほうを向いた。

❷「あなたは，私が非常に上品でないと考えるに違いない。あなたは立っている。そして，あなたは座っているべきだ。あなたのようなステキで若い淑女は。

❸私は，ここにあなたのための椅子を持っていなかったことをすまない。しかし，あなたは，空気は座るためにまったく気持ち良いと見つけるでしょう。」

❹ジェインはそれを試して，そして彼女はまったく気持ちよく空気の上に座ることができるのを発見した。

2-11-C「なめらか訳」

❶それからウィッグさんはジェインの方を向きました。

❷「あなたは，私があまり礼儀正しくないとお思いだな。あなたは立ったままだ，当然座ってなければいけないのに――あなたのような立派な若いレディはね。

❸あいにくなことに，私には，あなたのような立派な女性にすすめる椅子がない。でもあなたは，この空気の上がとっても座りごこちがいいことがわかりますよ。」

❹ジェインがためしてみると，本当に具合よく空気に座れるのがわかりました。

❺ She took off her hat and put it down beside her.

❻ It hung there without anything at all under it.

It hung there without anything at all under it.
「帽子はその下に何も(支えとなるものが)ないのにそこにかかっていた」だが, hang there は hold there, keep itself「自らをその状態にとどめておく」の意味ととっていい。「そこに浮かんでいた」という意味。ふつう帽子は, Hat was hung on the wall.「帽子は壁にかかっていた」このようなhang のもっと基本的な動詞は place と put 「置く」「置いてある」だ。

❼ 'That's right,' said Mr. Wigg.

◆point index◆

That's right.(that について)……ポイント㉟(p.318)

❽ Then he turned and looked down at Mary Poppins.

2-11-B「ガチガチ訳」

❺彼女は彼女の帽子をとって，そしてそれを彼女の横に投げおとした。

❻それはその下にまったく何かが無しに，あそこにひっかかった。

❼「あれはよろしい」とウィッグ氏は言った。

❽それから彼は振り返ってメアリー・ポピンズを見おろした。

2-11-C「なめらか訳」

❺ジェインは帽子をぬいで，そばに置きました。

❻帽子は下に何もないのにそこに浮かんでいました。

❼「それでよろしい」とウィッグさんが言いました。

❽それから首をかしげて，メアリー・ポピンズを見おろしました。

2-12-A

❶‘Mary, you don’t look pleased. You don’t really like all this ...’ and he waved his hand at Jane and Michael.

◆**point index**◆

look(be動詞に近づきつつある動詞)……ポイント⑭(p.81)

❷He said hurriedly, ‘I *am* sorry, Mary, my dear. But you know how it is with me.

❸I never thought that my two young friends here would get Laughing Gas, really I didn’t, Mary! Now I must think of something sad....’

2-12-B「ガチガチ訳」

❶「メアリー，あなたはよろこんで見えない。あなたは本当にすべてこのようではない……」そして彼はジェインとマイケルに彼の手を振った。

❷彼は大急ぎで言った。「私はごめんなさい。メアリー。私の親しい人。しかしあなたは私にとってそれがどうであるかを知っている。

❸私はここの私の二人の若い友人が笑いガスを取るだろうとは考えなかった。本当に私は考えなかった。メアリー！ 今や私は何か悲しいことを考えなければならない」

2-12-C「なめらか訳」

❶「メアリー，君は嬉しそうじゃないね。君にはこうしたことがみんなまるで気に入らないようだね……」そう言いながらウィッグさんはジェインとマイケルに手を振りました。

❷彼は急いで言いました。「すまないね，メアリー，ねぇ。でもわかるだろう，私がどんな風かってこと。

❸私はね，この二人の若いお友だちがここで笑いガスを吸い込むなんて思ってもみなかったんだよ，ほんとなんだ，メアリー。今から，何か悲しいことを思いつくことにするからね……」

2-12-A

❹'Never in my life,' said Mary Poppins sternly, 'have I seen such a thing. And at your age, Uncle ....'

And at your age, Uncle....
「いい年をして」という日本語の表現がこれにあたる。

❺'Mary Poppins, do come up! called Michael down to her.

❻'Think of something funny, and you'll find it's quite easy.'

❼'Oh, yes, please do that, Mary,' said Mr. Wigg.

2-12-B「ガチガチ訳」

❹「私の人生には決してない」とメアリー・ポピンズは厳しく言った。「私はこんなことを今まで一度も見たことはない。そしてあなたの年齢で，おじさん」

❺「メアリー・ポピンズ，上がって来い」とマイケルが彼女に呼びおろした。

❻「何かおもしろいことを考えろ。そして，あなたはそれがまったくかんたんだと見つけるだろう」

❼「おお，はい，どうぞあれをやって下さい。メアリー」ウィッグ氏が言った。

2-12-C「なめらか訳」

❹「こんなことってあるんですか」とメアリー・ポピンズは冷たく言いました。「こんなことこれまでにはなかったわ。それにその年で，叔父さんたら……」

❺「メアリー・ポピンズ，上がっておいでよ！」とマイケルが彼女に呼びかけました。

❻「何かおもしろいこと考えるんだよ，**そうすれば**，［浮き上がるのが］かんたんだってわかるよ」

❼「そうとも，**そう**おしよ，メアリー」とウィッグさんが言いました。

不定詞の副詞的用法に気をつける

but you'll find the air is quite comfortable to sit on.
(2-11-A ❸)

you'll find that「あなたは気づく」, the air is quite comfortable to sit on.「空気が座るのにちょうどいい具合だということに」。この不定詞sitは副詞用法で形容詞comfortableにかかっている。そこで，ここは「でも，あなたは気づくでしょう。空気が座るのにちょうどいい具合であることに」となる。

That's right は「それでよろしい」「結構だ」

'That's right,' said Mr. Wigg. (2-11-A ❼)

ジェインが，ウィッグさんの言うとおり，空気にすわって落ち着いたことに対し，「それでよろしい」「結構だ」と言っているところ。承認を与えるというより，行為や動作に対して肯定の意を表する，といった表現。That's right. はまた，質問に対する答えとして言われる時には，「そのとおり」「あなたのおっしゃるとおり」という意味になって，質問がYes を求めている場合にはYes, No の場合にはNoととれる受け答えを可能にする。相手の意向にさからわずその場をやりすごす受け答えの典型で，Yes, Noがはっきりしていると言われる英語世界にも，こうしたあいまいさを含んだ言い方はやはりあるのだ。これがThat's

OK. となると，承諾，受け入れの意志，選択の意味が働くので，That's right. とは形は似ても意味は少し違うので注意。

2-12-D

be動詞に近づきつつある 不完全動詞の用法を確認する

Mary, you don't look pleased. (2-12-A ❶)

このlookは不完全自動詞「見える」。このlookはbe動詞に非常に接近していて，ここはYou are not pleased. とほとんど同じ。lookは「見える」わけだから当然「見る」を前提とし，「見る－見える」の関係の一方向を「見える」という自動詞の方で示しているわけだ。これが buy「買う」なら sell「売る」と対応することで，二つの向きが区別されるが，look の場合「見る－見られる」のどちらの方向も look に含まれているため，look がこの関係の存在そのものを表わす形になり，「存在のbe」に接近することが生じる。つまり look も be も，その中では主体と客体の関係の向きが，未分化なままになっているという点で類似していて，そこから用法における接近が導かれている，ということ。ちょっと難しいかもしれないが，こういう最も深いところにある関係のあり方が，そのうちにいろいろな種類の文を派生させて行ったのだ，ということを覚えておいて欲しい。だからここではyou don't look pleased. you are not pleased.「君はうれしそうに見えない」「君は

うれしそうじゃない」。

Point 35
thatをどう訳すかでキミの読解力が試される

“That’s right,” said he.

「それでいいんだよ」と彼は言った。

“That’s right,” said he.

(「それでいいんだよ」と彼は言った)

That’s all right. を直訳すると「あれは，すべて正しい」であるのに，実際には「そのとおりだ」「それでよろしい」「だいじょうぶだ」になるのは何故なのでしょう。

私たちが，Thatを「あれは」Thisを「これは」とだけ覚えているから，たいへんな間違いを起こすのです。「これは」という意味のThatもあるのです。この「これ」「それ」「あれ」のような指示代名詞と言われるものは，どこの国の言葉でも，たいへん微妙な使い方をするに決まっているのですから，それを，しゃくし定規にThatは「あれ」とだけやっていると，いつまでたっても，肌で英語を感じることはできません。例えば，

That’s entertainment.

(これがショウの世界だ)

を「あれが娯楽だ」とやってもピンとこなくなりますね。

その場の情景に合わせて，訳語をあてはめる努力をする，ということは大切なことですね。

しかし，だからといって，反対に，自分勝手な思い込みで，いい加減な訳をすると，これまたたいへんな間違いを引き起こすことになります。言葉の勉強は，キチンとした基礎からの積み上げが必要なのであって，それは，この本のテキストの訳を，原文忠実訳となめらかな訳に分けたことの理由でもあります。原文忠実訳がしっかりとできることがまず大切なことなのです。その訓練の上に立って，なめらかな訳にする能力が養われるのです。

試験の長文英文解釈問題の，「下線部を訳せ」の答案で，いつもどうやっても全然点数がとれないという人の欠陥は，実は，忠実訳となめらか訳をいいかげんにゴチャマゼにしたような答案を書くからです。学校の先生たちですら「逐語訳をやるべきか意訳にすべきか悩むね」などと，愚かなことを言っていますが，そうではないのです。二つの訳（あるいはそれ以外にもある）をはっきりと区別できるようになることが，実はほんとうに，英文と日本文を平等に考えるということなのです。原文忠実訳が亡びないで，いまだに強い説得力を持っている背景には，原文忠実訳からは，もう一度，ほとんどそのまま英文への反訳ができるからです。この点は忠実訳が，今後も絶対にすたれることのない最大の理由だと思います。そして，意訳（なめらか訳）の方は，訳す人のあまりに個人的な癖と日本語の文章を書く能力の問題が露出してしまうのです。ほんとうに美しい日本文を書く能力がある人だけがなめらか訳の最高の仕上

がりに向かって努力すればいいのです。

日本には翻訳家という職業がありますが，その中で名訳家と呼ばれる人びとは，必ず，原文忠実訳を文法知識に基づいて，しっかりできる人たちです。辞書だけをたよりに適当に訳している人たちを翻訳家にしてはいけないのです。

このことは，学校で英語を教えている先生たちが，英文を訳すときに，いつもは忠実訳をやっているのに，ちょっと苦しくなるとすぐになめらか訳の方に逃げてしまうことが，私たちの英語力をなかなか進歩させない大きな原因になっているのだ，とここではっきり申しておきましょう。原文忠実訳を，くれぐれもおろそかにしてはいけません。

Point 36

Thank you. よりも You are kind. の方が好感がもてる

This is really friendly of you.

君はほんとうに友達甲斐のある人だ。

このような言い回しが，英文にはときどき，見られます。このThis is... という表現形は，かんたんなようでいて実はなかなかむずかしい内容を持っています。このThis is... と，It's...... とThere are... が，元来，同じしくみ，すなわち，「存在の文」（あるということ，それだけを示している文）だということになります。

さて，私たちは，「ありがとう」という大切なコトバを，いつもThank you.だと思っていますが，それだけではないのです。（I）thank you.は「私はあなたに感謝する」という，第三文型（S＋V＋O）の型をしているのですが，この文には，「私はお前に感謝しているんだゾ」という感じも入っているように思えます。これを，

You are kind.（あなたは親切ですね）

という言い方にかえても内容の点からは「ありがとう」だと思います。こっちの言い方の方が，Thank you. より暖か味があるでしょう。こっちは第二文型（S＋V＋C）ですね。主語はYou「あなたは」となっていますから，自分が「感謝する」よりも相手の「親切」のことを言っているので好感が持てるのです。さて，ところがこのYou are kind.を，ふつうの英米人は，すぐに変形して，

This is very kind of you.

あるいは，

It's very kind of you.

という言い方にしてしまいます。これは初めの例文とまったく同じ形ですね。このようなThis is の言い方は，たいへん，気取った言い方なのです。This is のthisに「これは」というような意味は，もうありえません。このthisが何かを指しているとは考えられないのです。だから，このThis is やIt'sなどのような言い方は，表面的にはすごくかんたんなように見えて，実は，たいへんひっくりかえった（転倒した）言い方なのです。This is が来たら注意して下さい。

❶'We want you up here with us,' said Jane, and she held out her arms to Mary Poppins.

We want you up here with us,

up は単なる副詞を越えて動詞化しつつあるコトバなので，ここは主語＋動詞＋目的語＋補語の第五文型と考えていい。We want you come up here with us. と come をおぎなえば，まったく第五文型になる。

❷'Please try to think of something funny!'

❸'Ah, *she* doesn't need to,' said Mr. Wigg.

❹'She can come up if she wants to. She doesn't need to laugh, and she knows it.'

2-13-B「ガチガチ訳」

❶「私たちは，あなたが私たちといっしょにここに上がってくることを欲する」とジェインが言った。そして彼女は彼女の腕をメアリー・ポピンズにさし出した。

❷「どうぞ，何かおかしいことを考えようと試みてください」

❸「ああ，彼女は必要ないのだ」とウィッグ氏が言った。

❹「彼女はもし彼女がしたいと思えば，上がってくることができる。彼女は笑うための必要がない。そしてそれを彼女は知っている」

2-13-C「なめらか訳」

❶「あなたもここに来ていっしょになって」と言って，ジェインはメアリー・ポピンズの方に手を差しのべました。

❷「お願い，何かおもしろいこと考えてみて！」

❸「いや，メアリーにはそんな必要ないのさ」とウィッグさんは言いました。

❹「その気になれば上がってこれるんだ。笑わなくてもいいんだよ。それにそのことを自分でも知ってるのさ」

❺ He gave Mary Poppins a look.

❻ He knew something about her that the children did not know.

❼ 'Well,' said Mary Poppins, 'I don't really like it. But you're up there, and if you can't come down, I'll come up too.'

Well,

近い将来には，このWell「ウェル」とAh「アー」はきっと日本語としてみんなが使うようになるだろう。それくらい英語感覚は日本語の中に浸透してしまっている。

❽ She put her hands down by her sides, and, without a laugh, without the smallest smile, she shot up through the air and sat down beside Jane.

◆point index◆

without（付帯状況のwith）……ポイント37（p.338）

2-13-B「ガチガチ訳」

❺彼はメアリー・ポピンズにひとつの凝視をあたえた。

❻彼はその子供たちが知らない，彼女についての何かを知った。

❼「そう」とメアリー・ポピンズが言った。「私はそれを本当に好きでない。しかし，あなたたちはそこに上がった。そしてもしあなたたちが降りることができないのなら，私も上がるだろう」

❽彼女は彼女の手を彼女の両側におろして，そして，笑わずに，最も小さな微笑なしに，彼女は空気中を通って飛び上がり，そしてジェインの横に座った。

2-13-C「なめらか訳」

❺ウィッグさんはメアリー・ポピンズに目をやりました。

❻彼は，メアリーについて子供たちの知らないことを知っていました。

❼「そうね」とメアリー・ポピンズは言いました。「私は本当はこんなことをするのはいやなのよ。でも，あなたたちは上の方にいるし，それにあなたたちが降りてこれないん**だったら**，私もそちらへ行くしかないわね」

❽彼女は両手をわきに**ピタッとつけて**，笑いもせず，ほんのわずかなほほえみさえせずに，空中に浮き上がり，ジェインの横に座りました。

2-14-A

❶'How many times,' she said angrily to Jane, 'how many times have I told you to take off your coat when you come into a hot room?'

How many times,

コートを脱ぎなさい，と言うかわりに「何度言ったらわかるの」という言い方を日本人のお母さんも言うのと同じことだ。疑問文の問いかけの型でジェインに教えさとしている。

❷And she unbuttoned Jane's coat, and put it down on the air just beside her hat.

❸'That's right, Mary, that's right,' said Mr. Wigg.

2-14-B「ガチガチ訳」

❶「何回」と彼女はジェインに怒ったように言い「何回，私はあなたが暖かい部屋に入るときには，あなたのコートを脱ぎなさい，とあなたに言ったか」

❷そして彼女はジェインのコートのボタンをはずして，そしてそれを空気の中の彼女の帽子のちょうど横に置いた。

❸「あれは正しい。メアリー，あれは正しい」とウィッグ氏が言った。

2-14-C「なめらか訳」

❶「何度」メアリーはジェインに怒ったように言いました。「何度，あなたに言ったでしょう，暖かい部屋に入ったらコートを脱ぐんですよって」

❷そして彼女はジェインのコートの**ボタンをはずし**，[先ほど空中に置いた] 帽子のすぐ横に置きました。

❸「それでよろしい，メアリー，それでよろしい」とウィッグさんが言いました。

❹'Now that we're all comfortable we can have tea.' And then he hit his head with his hand.

❺'How terrible! I've just remembered — the table's down there, and we're up here.

How terrible!
「なんておそろしい」とは訳さないこと。terribleは口語では「ひどい」とか「大変だ」とかいう意味で，日本人もこの「大変」というコトバを「大変」よく使うように，実は，それほど「大変」ではない。ここでは「なんてことでしょう」という中年ご婦人方がよく使うコトバだ。

❻What *are* we going to do? We're here, and it's there!

2-14-B「ガチガチ訳」

❹「今や私たちはまったく気持ちよい。そして私たちはお茶を飲むことができる」そして，それから彼は彼の手で彼の頭をたたいた。

❺「なんて恐ろしい！ 私はちょうど思い出した——テーブルは下のあそこにある。そして私たちはここに上にいる。

❻何を私たちはするのか。私たちはここにいる。そしてそれはあそこにある。

2-14-C「なめらか訳」

❹「さて，これでみんな気持ちよくお茶にすることができるな」その時，ウィッグさんは手で頭を［ポン］と打ちました。

❺「**なんてこった！**すっかり忘れてた——テーブルが下にあるのに，みんなは上だ。

❻どうしたもんかな？みんなはここ，あれはあっち！

2-14-A

❼ It's very sad, isn't it—but it's very funny too.'

❽ And he hid his face in his handkerchief and laughed loudly into it.

❾ Jane and Michael did not want to miss the cakes, but they laughed too.

2-14-B「ガチガチ訳」

❼それはたいへん悲しいことですね。しかし，それはとてもおかしいことでもある」

❽そして彼は彼の顔を彼のハンカチに隠した。そしてその中に大声で笑った。

❾ジェインとマイケルはケーキを見失うのは欲さなかった。しかし，彼らもまた笑った。

2-14-C「なめらか訳」

❼これは悲しいことじゃないかい――でもやっぱりおかしいな」

❽彼はハンカチーフに顔をうずめて，大笑いしました。

❾ジェインとマイケルは，ケーキを**のがしたくはなかったものの，**やはり笑ってしまいました。

2-15-A

❶ Mr. Wigg said, 'There's only one thing to do. We must think of something sad.

There's only

thing とか something の後には, something good to drink（なにかおいしい飲み物）のように形容詞がきて to do という不定詞形がくることになっている。

❷ Something very, very sad. And then we shall be able to get down. Now —one, two, three! Something very sad, remember!'

❸ They thought and thought, with their heads in their hands.

❹ Michael thought, 'Some time soon I'll have to go to school.'

2-15-B「ガチガチ訳」

❶ウィッグ氏は言った。「ただ一つだけすることがある。私たちは何か悲しいことを考えなければならない。

❷なにか，非常に，非常に悲しいこと。そして，それから私たちは，降りることができる。今，いち，に，さん！ 何か非常に悲しいことを思い出せ！

❸彼らは彼らの両手の中に彼らの頭を入れて考えに考えた。

❹マイケルは考えた。「時々，すぐに私は学校に行かなければならない」

2-15-C「なめらか訳」

❶ウィッグさんが言いました。「残るはただ一つだ。何か悲しいことを考えなくちゃならないな。

❷何かとても悲しいことをね。そうすれば，みんな下に降りられるよ。さあ――いち，に，さん！ 何かとても悲しいことを，思い出せ！」

❸三人は両手に頭をかかえ込みながら考えに考えました。

❹マイケルは考えました。「もうしばらくすると学校に行かなくちゃならなくなるな」

2-15-A

❺ But today that thought was funny, and he began to laugh.

❻ Jane thought, 'I shall be grown up in another fourteen years!'

❼ But that was not really sad, but rather nice.

But that was not really sad,

ここは内心の独白が地の文となって流れ出ている。本来ならジェインのセリフとなるところだが，情景描写の一部としてあつかわれている。そこでここでは会話体のままで訳しました。

❽ She smiled when she said to herself, 'And I'll be wearing long skirts and carrying a handbag.'

2-15-B「ガチガチ訳」

❺しかし，今日あの考えは変で，そして彼は笑い始めた。

❻ジェインは考えた。「私は，もうひとつ違った14年間で成長するでしょう」

❼しかしあれは本当に悲しいことではなかった。しかしむしろ素敵だった。

❽彼女は彼女自身に言ったときにほほえんだ。「そして私は長いスカートをはき，そしてハンドバッグを持ち運ぶでしょう」

2-15-C「なめらか訳」

❺でも今日はそんなこともおかしくて，笑い出してしまいました。

❻ジェインは考えました。「あと14年たつと大人になってしまうんだわ」

❼でも，それは本当は悲しくなくて，むしろ素敵なことよ。

❽ジェインはほほ笑みながら，自分自身に言いました。「だって，長いスカートがはけるようになるし，ハンドバッグだって持てるんだわ」

2-13-D

She doesn't need to laugh, and she knows it. (2-13-A ❹)

ここまで，She can, She wants, She doesn't, She knows, と並べてリズムをつくっているのに気づいた？正確には韻をふんでいるのではないが，それに近い感じが出ている。韻をふむrhyming（ライミング）といってもさまざまな形があって，ここで近いと言ったのは頭韻。つまり語の頭で韻をふむ，というもの。

関係代名詞のwhich は「もの」「こと」を代名する

He knew something about her that the children did not know. (2-13-A ❻)

ここのthatは関係代名詞which のかわり。which というのは「もの，こと」を代名するので，ここは当然 something 。前に説明したようにthe thing which は what で表わせるので，ここは She knew what the children didn't know about her. としてもいいわけだ。「彼は子供たちが彼女について知らない何かを知っていた」

2-14-D

英語は動詞の前後に補助語をつけ一つのコトバに広がりをもたせる

she unbuttoned Jane's coat, (2-14-A ❷)

undress と同様の動詞 unbutton「(ボタンを) はずす」

あるいは「〜のボタンをはずす」。つまり「ジェインのコートのボタンをはずす」。前に述べたように英語の場合，日本語の助詞に当たるものがないので，動詞の前後に補助語をつけて意味を広げたり折り曲げたりする方法を発達させたが，同時に，こうした名詞から動詞を作ってしまうことでも，動詞の領域の拡大をはかってきた，と言えよう。いわば，折りたたみ式の動詞とでもいうか。「〜のボタンをはずす」と目的語の一部を内側に折り込んでいる動詞だ。

thatは判断の根拠や理由を示す接続詞。「〜だから」「〜なので」を示す

'Now that we're all comfortable we can have tea.'
(2-14-A❹)

これは通常，we can have tea that we're all comfortable. とする文の倒置形。このthatは判断の根拠や理由を示す接続詞として働いているので，前に出して「〜だから」「〜なので」と先に理由を述べ，急いで判断を表わすという形にすることができる。「われわれはみんな気持よくなったので，お茶をいただいてもいいな」あるいは「お茶にすることができるな」という意味。ここのcanは許可による可能。状態がよくなったので「〜していい，できる」のcan。

Point 37

withというコトバは「して」「で」という言い方を表わす

(You go) straight into bed with you. (1-18-D参照)
さあ，さっさとベットに入りなさい。

この文末のwith youの言い方は，ちょっと変ですね。「あなたがベッドといっしょで」という意味には，とても取れません。このような一風変わったwithの使い方が，英語の中にあります。

She went out **with** her eyes shining.
(彼女は，目を輝かせて飛び出して行った)
He listens to the music **with** his eyes closed.
(彼は，目をとじて，音楽に聞き入っている)

これらのwithは，もともとは，with以下は別の文章だったのだと思います。それを，withという前置詞を使って，分詞構文（ポイント㉖参照p.172）にしてしまったのでしょう。

こんなことより皆さんは，この種のwithがきたときは，とにかく，日本語の「で」というコトバを大切にして下さい。この「で」という助詞をうまく使うコツがわかると，長ったらしい英文のおわりの方の付録の部分を，なんとか自動的に読み取っていけるようになります。

2-16-A

❶'There was my poor old Aunt Emily,' said Mr. Wigg out loud.

❷'A bus knocked her down. Sad. Very sad. Terribly sad. Poor Aunt Emily!

❸ But they saved her umbrella. That was funny, wasn't it?'

But they saved her umbrella.

このtheyは「人々」「そこに居合わせた人々」のことを指す。日本語では「世の中は」と言ったりするところを英語ではTheyとかYouとかいう漠然とした主語を使うことが多い。これらを非人称主語という。

❹ Before he could stop, he was shaking with laughter at the thought of Aunt Emily's umbrella.

2-16-B「ガチガチ訳」

❶「私の気の毒で年老いたエミリー叔母さんがいた」ウィッグ氏が大声で言った。

❷「一台のバスが彼女を打ち倒した。悲しい。たいへん悲しい。恐ろしく悲しい。気の毒なエミリー叔母さん！

❸しかし彼らは彼女の傘を救った。あれは変だったですね」

❹彼はやめることができた前に，彼はエミリーおばさんの傘の考えについて大笑いといっしょに揺れた。

2-16-C「なめらか訳」

❶「私には，エミリー叔母さんというかわいそうな年寄りがいたんだ」とウィッグさんは声に出して言いました。

❷「バスがね，彼女をひいちゃった。悲しい。とても悲しい。ひどく悲しい。あわれなエミリー叔母さん！

❸ところがだ，叔母さんの傘の方は助かっちゃった。どうもこれよくないな」

❹**話し終わる**前に，［早くも］ウィッグさんはエミリー叔母さんの傘のことを思って笑いで体をふるわせてしまうのでした。

❺'It's no good,' he said, and blew his nose.

❻'We can't do it. Mary, can't *you* do something? We want our tea.'

❼ The children never knew how she did it.

The children never knew how she did it.
「あなたはちょっと変わってますね」という言い方と「ちょっと変わった方ね」という言い方が日本語にもあるように，形容詞のunusualだけで，その人物を表わせる。

❽ But the big table began to shake on its legs.

2-16-B「ガチガチ訳」

❺「それはよくない」彼は言い，そして自分の鼻を吹いた。

❻「私たちはそれをすることができない。メアリー，あなたは何かできないか？ 私たちは，私たちのお茶がほしい」

❼その子供たちは，彼女がそれをいかにやったか決して知らなかった。

❽しかし，その大きなテーブルは，その足たちの上で揺らし始めた。

2-16-C「なめらか訳」

❺「いかんな」と言って，ウィッグさんは鼻を鳴らしました。

❻「うまくできんよ。メアリー，どうにかできないかい？　お茶にしたいんだよ」

❼子供たちには，彼女がどういうふうにやったのか，まるでわかりませんでした。

❽けれど，大きなテーブルの脚が揺れ始めたのです。

2-16-A

❾ Then the cups began to shake on their saucers, the cakes began to fall off the plates, and the table rose up through the air.

❿ It turned round beside them and stopped when Mr. Wigg was at the head of it.

2-16-B「ガチガチ訳」

❾それからコップたちがそれらの受け皿たちの上で揺らし始め，ケーキたちがお盆からずれ落ち出し始め，そしてそのテーブルが空気中を通って上に上がった。

❿ウィッグ氏がそれの頭にあった時，それは彼らのまわりをまわって，そして止まった。

2-16-C「なめらか訳」

❾それから，カップが受皿の上で揺れはじめ，ケーキがお皿からずれ落ち始めると，テーブルが空中にのぼって来たのでした。

❿テーブルはみんなのそばで回転して，**ウィッグさんが上座になった時に**，止まりました。

2-17-A

❶'Good girl!' said Mr. Wigg and smiled at Mary Poppins.

'Good girl!'
「いい子だね」「よくやった」という表現。相手が男なら good man,good boy となる。当然 good には有能さや器用さを示す意味もあるので，何事かをじょうずに，あるいは見事にやりとげた場合などに用いる。

❷'I knew you could do it. Now, will you pour out the tea, Mary? And the children must sit on either side of me.'

will you pour out the tea, Mary?
　メアリー・ポピンズの薬ビンの話しの時にも出たが，pour out でこの場合ポットからカップへ注ぐという動作全部が表わされている。

◆point index◆
must（助動詞）……ポイント[9]（p.49）

❸There they were, all together, up in the air round the table.

2-17-B「ガチガチ訳」

❶「良い少女だ！」ウィッグ氏は言い，そしてメアリー・ポピンズにほほえみました。

❷「私は，あなたがそれをすることができると知った。今や，あなたはそのお茶を注ぐでしょうか？　メアリー？　そしてその子供たちは，私のそばのどちらかに座らなければならない」

❸あそこで，彼らは，みんないっしょに，テーブルのまわりで空気中にいた。

2-17-C「なめらか訳」

❶「いい娘だ！」と言って，ウィッグさんはメアリー・ポピンズにほほえみかけました。

❷「君にはできると思ったよ。さて，お茶をついでくれないか，メアリー？　それから，子供たちは私の両わきにお座りよ」

❸これでみんな，空中のテーブルのまわりに，そろいました。

❹ Not one piece of bread and butter or one cake was missing.

❺ Mr. Wigg smiled happily.

❻ 'It's usual, I think, to begin with bread and butter,' he said to Jane and Michael.

❼ 'But it's my birthday, and so we'll begin the wrong way—and that, for me, is the *right* way—with the cake!'

2-17-B「ガチガチ訳」

❹ひと切れのパンも，バターも，一個のケーキも失われていなかった。

❺ウィッグ氏は幸福そうにほほえんだ。

❻「それはふつうだ。私は考える。バターつきパンで始めることは」彼はジェインとマイケルに言った。

❼「しかし，それは私の誕生日だ。そしてだから私たちは悪いやり方を始めるでしょう――そしてあれは，私にとっての正しいやり方だが――そのケーキといっしょに！」

2-17-C「なめらか訳」

❹パンもバターも，それからケーキも，ひとかけらも落ちていません。

❺ウィッグさんは，うれしそうにほほえみました。

❻「たしか，パンとバターから始めるのがふつう［のやり方］だよね」彼はジェインとマイケルに言いました。

❼「だけど，今日は私の誕生日だから，間違ったやり方で始めよう――それに，私には，それが正しいやり方なんだから――ケーキから始めようね！」

❶And he cut a very large piece of the chocolate cake for everybody.

❷‘More tea?’ he was saying to Jane when there was a quick, sharp knock at the door.

when there was a quick,....

　このwhenは，文の前の方からそのまま訳していけばよい。
when=and then（そして，そのとき）だ。

❸‘Come in,’ called Mr.Wigg.

❹The door opened and there stood Miss. Persimmon, with a jug of hot water.

2-18-B「ガチガチ訳」

❶そして彼はみんなのために，非常に大きなチョコレートケーキを切った。

❷「もっとお茶を？」ドアへの一つの早い鋭いノックがあったときには，彼はジェインに言っていた。

❸「入れ」とウィッグ氏は呼んだ。

❹そのドアは開いた，そして熱いお湯のジャグといっしょに，ミス・パーシモンが立っていた。

2-18-C「なめらか訳」

❶そうしてウィッグさんは，チョコレートケーキをみんなにとても**大きく切り分けました。**

❷「お茶をもっといかがかな？」とジェインに話しかけていると，その時，ドアに素早く鋭いノックがありました。

❸「お入り」とウィッグさんが応えました。

❹ドアが開くと，そこにミス・パーシモンが立っていました。熱いお湯の入った水差しを持って。

2-18-A

❺'I thought, Mr.Wigg...' she began, as she looked round the room.

'I thought, Mr. Wigg...'she began, as

このthoughtは「あの，ちょっと」といった感じで話しの間をもたせるもの。asも前からつなげて訳そう。

❻'I thought you'll want some more hot.... Well, well, I never saw... *never*.....' Her eyes came up to them, in the air, round the table.

❼'I never in my life saw anything like this.

2-18-B「ガチガチ訳」

❺「私は考えた。ウィッグ氏……」と彼女は始め，そして彼女は部屋中を見た。

❻「私はあなたがもっと熱いお湯をほしいだろうと考えた。……ええ，ええ，私は決して見なかった……決して……」彼女の目はテーブルのまわりの彼らに，その空中で，上がって来た。

❼「私の人生で私はこのようなことは何も決して見なかった。

2-18-C「なめらか訳」

❺「私，あの，ウィッグさん……」と彼女はきり出して，部屋の中を見まわしました。

❻「私，お湯をもっと［おいりようになるだろうと思いまして］。……まあ，まあ，私，見たことありません。……こんりんざい……」ミス・パーシモンは，空中でテーブルをかこんでいるここの人たちに，目がいったのでした。

❼「生まれてこのかた，こんなことは見たことありません。

2-18-A

❽ I always knew, Mr.Wigg, that you were a little unusual. But this now—tea in the air, with your friends—Mr.Wigg, I'm surprised at you! A man of your age!'

you were a little unusual.

形容詞に冠詞をつけて名詞化したもの。「ちょっと変わった方」「ちょっとした変人」というところ。例えば，the social で「社会的なもの」「社会的存在」といった使われ方をする。

❾'But perhaps you'll catch the Laughing Gas too,' said Michael.

2-18-B「ガチガチ訳」

❽私はいつでも知った。ウィッグ氏，あなたは少しふつうではなかった。しかし，これは今空気中でお茶，あなたの友人たちといっしょに――ウィッグ氏，私はあなたに驚く！　あなたの年齢の男！」

❾「しかし，たぶんあなたもまた笑いガスをつかむでしょう」とマイケルが言った。

2-18-C「なめらか訳」

❽私わかっておりました，ウィッグさん，あなたがちょっと変わった方だってことは。でもこれはまた――空中でお茶を，お友だちとごいっしょになんて――ウィッグさん，私はあなたにびっくりしておりますわ！　あなたのような年配の方が！」

❾「でも，あなただってきっと笑いガスを吸い込んじゃうよ」とマイケルが言いました。

2-16-D

日本語独特の言いまわしを英文を訳すときに生かそう

But they saved her umbrella.（2-16-A❸）

they は「人々」,「そこにいた者たち」をさす。日本語で「世の中は」なんて言うところを，英語ではTheyと置く。不特定の複数の人間は They で表わせる。「人がなんと言おうと」なんて言う場合だね。逆に英語でTheyと出た時には，日本語では，例えば They said なら It was said に直して訳した方が，シックリする。ここでは「人々は彼女の傘を救った」とするより「彼女の傘は助かった」のだ，彼女自身は助からなかったのに，という意味合いを生かして，「傘の方だけ助かってしまった」とすると，一層おかしみが増す。

2-18-D

I thought は会話の中で話の間をとるフレーズだ

I thought, Mr. Wigg...（2-18-A❺）

I thoughtはこの場合「私は考えた」ではない。「あの，ちょっと」といった感じで話しの間をもたせるもの。as も前からつなげて訳そう。

Well, well, I never saw... ***never....***（2-18-A❻）

まあ，まあ，と驚いて，「私は決して見たことない……決して……」と，何を見たことがないのか，その「何を」の表現にとまどっている様子。

Point 38

五文型って いったい何なんだろう？

英文のしくみは三つの方向から考えられ 文型という考え方はそのうちの一つにしかすぎない。

五文型，五文型と，この本で私はくりかえし言っていますし，皆さんも学校の英文法の教科書で何回か習ったことでしょう。

五文型というのは，では一体，どういう考え方のことなのでしょうか。

この五文型理論というのは，オニオンス（C. T. Onions）というイギリスの学者が1932年に発表した論文によって，この世に誕生したものです。実は，日本の学校英語文法を支えている理論は，1プリスキニヌスの8品詞論という，品詞（word）分類法という古代ラテン文法以来の理論と，この2五文型理論と，3修飾・被修飾（関係詞，修飾語）という三つの教え方だけからできているのです。同じく日本語文法というのも，1品詞分類法と2活用という考え方と3修飾・被修飾という三つの考え方の大きな柱からできているにすぎません。

世の中には，他にもっともっと，いろいろな考え方や理論があるのです。自分が知っているだけの理論とその枠の中だけで，この広大な世の中を勝手にわかったふりをするのは，たいへん，危険なことです。しかし，悲しいことに

人間という生き物は，自分のわかっていること以上のことは，なかなかわからないものです。その人よりも，少しだけ秀れた人が，いくら時間をかけて説明しても，わからない人にはわからないのです。そのとき，「自分にはわからないけど，きっと，他にも考え方というのはあるのだろう」と考えることが，よりよいことなのではないでしょうか。

さて，今日では，「五文型」というのは，ひとつの理論，それもきわめて秀れた理論であることがみんなに認められています。しかしだからといって，それが，大学の文法学者の間でも通用しているというのではありません。ただ，英語というよくわからない，「動きの激しい」コトバを，なんとか「しくみ」にまで解剖してみようとした場合に，このオニオンスという人の五文型論が，ピタッと来たのです。ここが，目のつけどころであったわけです。ですから，私も一応，この五文型という便利な考え方に従って，皆さんに，「英文のしくみ」をあれこれ説明しているのです。

しかし，ここでもう少し，大切なことをお伝えしておきましょう。

「五文型」というのは，ある方向から見た場合の，英文のしくみの解剖ということに過ぎないのです。私の考えでは，英文のしくみは，少なくとも三つの方向から観察しないといけない。それは，

表現形	アスペクト aspect	現在形とか進行形とか	時間の流れ
文型	ケイス case	五文型に分けること	品詞分類学上の 語と詞のちがい
法	ムード mood	仮定法とか命令法とか	文章のつながり方

この三つです。

五文型は，このひとつにすぎないのです。そして，「形」と「法」と「型」がちがうことを，もっとしっかり英語の先生たちが皆さんに教えなければいけないのです。他にも，「人称」「時制」「構造」などを基準にする考え方もある，とだけここでは書いておきましょう（参考になる本として，黒川泰男・早川勇・小山内洸著『英文法の新しい考え方学び方』三友社出版，があります）。

2-19-A

❶ Miss Persimmon shook her head angrily.

❷'I hope, young man,' she said sharply, 'I never do.

I hope, young man,

hope は強い意志の表明。希望や皮肉をこめた否定,などを表す。ここでは,次の 'I never do' に続くので,「とんでもありません,おばあちゃま」という感じ。つまり,「あなたも笑いガスにやられるよ」というマイケルのコトバに対して I hope I never do. と強く否定している形。

❸ I'm not going to bounce about in the air like a rubber ball.

2-19-B「ガチガチ訳」

❶ミス・パーシモンは怒って彼女の頭を振った。

❷「私は希望します，若い人」と彼女は鋭く言った。「私は決してやらない。

❸私はゴムボールみたいに，空気中ではね上がらないでしょう。

2-19-C「なめらか訳」

❶ミス・パーシモンは怒ったように首を振りました。

❷「とんでもないことですわ，ぼっちゃん」彼女はきっぱりと言いました。「私はごめんこうむります。

❸空中でゴム風船みたいにはねまわるなんてまっぴらですよ。

2-19-A

❹ I'll stay on my feet, thank you, or my name's not Amy Persimmon, and ... oh dear, oh dear, oh dear... what is the matter?

thank you, or my name's not Amy Persimmon,
「そうでなければ私の名前はエイミー・パーシモンとはいかなくなるだろう」。足で立っている「私」の名前がエイミー・パーシモンなのであって，空中に浮かんだりしたら，それは違った名前を持った存在になってしまう，と彼女の論理では名前と存在が一致しているわけだ。

❺ I can't walk, I'm going ... I ... oh, help, help!'

❻ Miss Persimmon tried very hard to keep her feet on the floor, but she couldn't.

2-19-B「ガチガチ訳」

❹私は私の足でとどまっているでしょう。ありがとう，または私の名前はエイミー・パーシモンではない，そして……おやまあ，おやまあ，おやまあ……何が問題か？

❺私は歩けない。私は……私は……おお，たすけて，たすけて！」

❻ミス・パーシモンは床の上に両足を保つためにすごく強く試みた。しかし，彼女はできなかった。

2-19-C「なめらか訳」

❹私は自分の足で立っておりますわ，せっかくですけど，そうでないと，私の名前もエイミー・パーシモンとはいかなくなりますでしょうし，それに……あらまあ，まあ，まあ……何ですのこれ？

❺歩けないわ，私，何を……私……あら，たすけて，たすけて！」

❻ミス・パーシモンは，床に足をつけていようとがんばっていましたが，だめでした。

❼ She rose through the air.

❽ She was jumping from side to side, like a very thin doll, with the jug still in her hand.

❾ She was almost crying when she arrived at the table and put the jug down.

❿ 'Thank you,' said Mary Poppins in a cold, polite voice.

2-19-B「ガチガチ訳」

❼彼女は空気を通って上がった。

❽彼女は側から側へ，非常に薄い人形のように，手の中にジャグを持ってジャンプしていた。

❾彼女はそのテーブルに到着して，そのジャグを置いた時には，彼女はほとんど叫んでいた。

❿「ありがとう」とメアリー・ポピンズは冷たく，上品な声で言った。

2-19-C「なめらか訳」

❼彼女は空中に上がってしまいました。

❽彼女は，あっちこっちにはねてしまいました。とてもやせた人形みたいに，あいかわらず水差しを手に持ったまま。

❾彼女は，ほとんど泣き出さんばかりになり**ながら**，テーブルにたどり着き，水差しを置きました。

❿「ありがとう」と，メアリー・ポピンズは冷たくていちょうな口調で言いました。

❶ Miss Persimmon turned in the air and got down again with less difficulty.

with less difficulty

「難なく，あまり困難なしに」空上への「舞い上がり」の方はあっちフラフラこっちフラフラしていたが，「くだり」の方はスッとおりてきた，という描写。

❷ She was saying over and over again to herself, 'Oh dear, how did that happen to me? At my age.... I've always been so careful.... I must see a doctor....'

I must see a doctor....

see a doctor は「医者を見る」のではない。医者に会って「私」の方を「見せる」んだ。look もそうだが，see も「見る—見せる」の関係を分けないまま，一語の中に潜ませている。文脈に応じて，それが一定の方向を与えられて現われてくる。

2-20-B「ガチガチ訳」

❶ミス・パーシモンは空気中で向きを変えて，そしてより少しの困難と共にふたたび降り立った。

❷彼女は何度も何度もふたたび自分自身に言っていた。「おおまあ，あれがいかにして私に起きたのか？　私の年で。……私はいつでもたいそう用心深い……私は医者にかからなければならない……」

2-20-C「なめらか訳」

❶ミス・パーシモンは空中で向きを変えて，今度は難なく下に降りました。

❷彼女は何度も繰りかえしひとりごとを言いつづけていました。「あらまあ，私いったいどうなっちゃったのかしら？　この年で……ずっとあんなに慎重にしてきたというのに……お医者さんに行かなくてはいけないわ……」

❸ When she touched the floor she ran out of the room.

❹ 'Her name can't be Amy Persimmon, because she didn't stay on her feet,' said Jane to Michael.

❺ But Mr. Wigg' s eyes were on Mary Poppins, and he did not look very happy.

❻ 'Mary, Mary, really you ought not..... That poor old woman will never get over it.

2-20-B「ガチガチ訳」

❸彼女は床についたとき，部屋から走り出た。

❹「彼女の名前はエイミー・パーシモンであることはできない。なぜならば彼女の足の上にとどまらなかった」とジェインはマイケルに言った。

❺しかしウィッグ氏の眼はメアリー・ポピンズの上にあった，そして彼は非常に，幸福そうには見えなかった。

❻「メアリー，メアリーあなたはほんとうにすべきではなかった。……あの気の毒な年老いた女性は，これを決して回復しない。

2-20-C「なめらか訳」

❸床に足がつくなり，ミス・パーシモンは部屋から飛び出して行きました。

❹「あの人の名前，エイミー・パーシモンじゃないかもしれないわね。だってさ，[あんなに言ったのに] 自分の足で立ってられなかったもん」とジェインがマイケルに言いました。

❺でも，ウィッグさんはメアリー・ポピンズをじっとにらんで，あまり嬉しそうではありません。

❻「メアリー，メアリー，実際，あんなことして……。かわいそうにあのご婦人はショックから立ち直れないかもしれないよ。

❼ But oh, didn't she look funny when she rose up through the air like that? Oh dear, she was very funny!'

❽ And he laughed and laughed.

2-20-B「ガチガチ訳」

❼しかしおお，彼女はあのように空気中を通って上がった時に，変に見えなかったか？　おやまあ，彼女はすごく変だった！」

❽そして彼は笑いに笑った。

2-20-C「なめらか訳」

❼でもねえ，おかしかったね，あの人があんな風に空中に上がった時ねぇ？　いや，まあ，ほんとにおかしかったね！」

❽そしてウィッグさんは［また］笑いに笑ったのでした。

2-21-A

❶'IT IS TIME TO GO HOME!'

❷ Mary Poppins' voice cut into the laughter like a knife.

❸ And suddenly Jane, and Michael, and Mr. Wigg came down.

Jane,and Michael and Mr.Wigg came down.

前に出てきた go home と，この come down はちょっとむずかしい。基本として，go は現在いる場所から離れて行くという動き，come はどこかへ近づいて行く動きを示す。
go home は今いるここから離れて家へ行く→「帰る」。
come down は下の床に近づいて行く→「落ちる」だ。

❹ They landed on the floor with a bang, all together.

2-21-B「ガチガチ訳」

❶「それは帰るための時間です！」

❷メアリー・ポピンズの声は，ナイフのようにその笑いを，切った。

❸そして突然，ジェイン，マイケルそしてウィッグ氏は落ちてきた。

❹彼らはみんないっしょに，バンと音をたてて床に着陸した。

2-21-C「なめらか訳」

❶「もうお家に帰る時間ですよ！」

❷［と，その時］メアリー・ポピンズの声が笑い声をナイフのように切ってしまいました。

❸すると突然，ジェインとマイケル，そしてウィッグさんは落っこち始めました。

❹三人は，いっしょに，ドスンと床につきました。

❺ Mary Poppins' words gave them the first sad thought of the afternoon, and the Laughing Gas went out of them at once.

❻ But Mary Poppins came down through the air slowly.

❼ She was carrying Jane's coat and hat in her hands.

❽ Mr. Wigg said, 'I never enjoyed an afternoon so much — did you?'

❾ 'Never,' said Michael.

2-21-B「ガチガチ訳」

❺メアリー・ポピンズの言葉は，その午後で初めての悲しさを彼らに与え，そして笑いガスはすぐに彼らから抜けて行った。

❻しかし，メアリー・ポピンズは空気中をゆっくりと降りてきた。

❼彼女は彼女の手の中にジェインのコートと帽子を運んでいた。

❽ウィッグ氏は言った。「私は一つの午後をそんなにたくさん楽しんだことは決してなかった——あなたたちは？」

❾「決して」とマイケルは言った。

2-21-C「なめらか訳」

❺メアリー・ポピンズの言葉で，三人は，その午後初めて悲しい気持ちになって，笑いガスがいっぺんに抜けてしまったのでした。

❻けれど，メアリー・ポピンズはゆっくりと空中を降りてきました，

❼ジェインのコートと帽子を手に持って。

❽ウィッグさんが言いました。「私はこんなに楽しい午後をすごしたことはないよ——君たちは？」

❾「本当ですね」とマイケルは言いました。

2-21-A

⑩ It was very unexciting to be on the floor again, with no Laughing Gas inside him.

It was very unexciting to be on the floor....

It～to～の構文。否定の意味を含んだ形容詞 unexciting を very で強めるという形。「まるで興ざめ」,「床の上にいること」なんて。ここの un や in ，その他の接頭辞は，動詞の意味を広げる働きをしている。つまり，前置詞や副詞と同じような働きを持っていると言えるわけだ。

⑪'Never, never,' said Jane.

⑫ She kissed Mr.Wigg's apple-red face. 'Never, never, never....'

2-21-B「ガチガチ訳」

❿それは，彼の中の笑いガスがないのといっしょにふたたび床の上にいることは，非常に興奮的でなかった。

⓫「決して，決して」とジェインが言った。

⓬彼女はウィッグ氏のリンゴの赤の頬にキスした。「決して，決して，決して……」

2-21-C「なめらか訳」

❿また床についているなんてまるで興ざめでした。もう笑いガスは抜けてしまったし。

⓫「本当だわ」とジェインは言いました。

⓬彼女はウィッグさんの真っ赤なほっぺにキスをしました。「本当，本当，本当よ……」

2-19-D

be on one's feet で「立っている」という表現

I'll stay on my feet, (2-19-A❹)

「私は立ったままでいます」「足で立っているだけで結構です」空中に浮きたくはない，という意思表示。be on one's feetで「立っている」。存在が足に「ついて」いる，といった語感かな。日本語だと「地についている」というところか。

2-20-D

againは「ふたたび」と訳すより「今度は」と訳した方が感じがでる

Miss Persimmon turned in the air and got down again with less difficulty. (2-20-A❶)

ミス・パーシモンは，空中で向きを変えて，「今度は難なく下へ降りました」。again は前の rise up に対応して言われているので日本語の語感としては，「再び」というと同一の動作の反復が想像されてちょっとズレる。英語の方では，「のぼる」も「降りる」も動作にはちがいなく，副詞の up, down でしか違いが表わされないような同一の動作として示されるので，again でいいのだが，日本語では「今度は」と，「降りる」方は別の動作としてあつかう必要がある。

can'tにはmustの否定，may notの意味がただよう

Her name can't be Amy Persimmon, because...
(2-20-A ❹)

この can't は，「～に違いない」の must の否定「～であるはずがない」。あるいは may not の「～ないかもしれない」を含む。because「だって，彼女は足で立ってられなかったから」，そうでなければパーシモンの名がすたると見栄を張っていたんだから。

2-21-D

第四文型を使ってちょっと気分を出した言い方をする

Mary Poppins' words gave them the first sad thought of the afternoon, ... at once. (2-21-A ❺)

「メアリー・ポピンズの言葉が，その午後初めての悲しい思いを彼らに与えた」これは第四文型（S＋V＋O＋O)。ちょっと気分を出した言い方だ。普通にやると，She made them sad by her words first in the afternoon.「彼女は，その言葉で，その午後初めて，彼らを悲しませた」。at onceは「いっぺんに」。

英語ではyes（肯定），no（否定）の表現がはっきりとしている

'I never enjoyed an afternoon so much—did you?'
(2-21-A ❽)

「こんなにもおおいに午後を楽しんだことはない」。この

enjoyは「楽しむ」という便利な動詞。I enjoy myself in the afternoon. が，裏に見える。

neverは何度も出てきてわかったと思うが，こうした用法では，「～しない」ではなくて，「～したことはない」というふうに，個々の動詞の部分だけを否定するのではなく，動詞以下の構文全体をいったん呈示して，それをまとめて否定するような働きをする。

an afternoon が an となっているのは，「完全な午後」の意味。それ自体で欠けるところのない，という意味のa, anの用法だ。ここは「私はこんなに楽しい午後をすごしたことはない」としていい。——did you ?「君たちはどうだった？」「ふーんそうだったの」というあいづちの意味も入っている。

Never, (2-21-A❾)

「ないよ」。質問者と同様，「こんな楽しい午後をすごしたことはない」という答え。ここでYesと言うと「もっと楽しい経験があった」という答えになる。日本語だと「うん，なかった」となって，英語と逆になるというふうに一応言われているやつだ。だが，日本語の「はい」「いいえ」はYes, Noの肯定，否定とはそもそも違った働きをする言葉で，極端に言えば，日本語では「はい」「いいえ」なしで受け答えをすませることができる。ここの例で言えば，「うん（はい）ないよ（ないです）」でも「いいえ（いや）ないです（ないよ）」でもどちらでも同じ。「ない」という動詞の方さえはっきりしていれば，「はい」「いいえ」は，とにかく答えるという意志を表すだけで，英語のように論

理上の決定力を持たない。現在，日本語でも英語のYes, Noに対応した「はい」「いいえ」を使う人がでてきているのも，そもそも日本語の「はい」「いいえ」は，文の構造を決するような位置を持っていなかったからだ。日本語もしだいに，英語流の「はい」「いいえ」に統一されつつある。ここは「ないよ」と動詞を出しておけば間違いない。

Point 39
動詞の後についた upやonやoffは前置詞じゃない！

テキストのページにいくども出てくる up や on や out というような，何だか動詞のあとにくるふろくのようなコトバたちは「副詞」です。これを前置詞だと思っていた人はすぐに考えをかえて下さい。

これらの shake **off**, fall **off**, rose **up**, turned **round** のように使われるコトバたちは，外国人である私たち日本人には，よくわかりません。なぜ up なのか，なぜ off なのか，ということは，「その場の情景からそうなっている」という言い方と，「おしゃべり英語そのものの使い方」としか言いようがありません。こんなものまで「熟語として覚えよう」と言いだす先生たちもいますから気をつけて下さい。ほら，あるでしょう「7up（セブンアップ）」という名のドリンクが。その他にも show **up** nighter（ショウ・アップ・ナイター）という変な日本語英語などが，あの up なのですよ。

2-22-A

❶ In the bus on the way home they sat on either side of Mary Poppins.

In the bus on the way home,....

いかにも英語らしい表現。前置詞二つと名詞二つ，それに副詞一つで「家に帰る途中のバスの中で」を表わしてしまう。日本語では，どうやっても「帰る」という動詞を入れないと，文章にならないところだが。

❷ They were both very quiet.

❸ Then Michael said sleeply to Mary Poppins, 'How often does your Uncle get like that?'

How often does your Uncle get like that?

get は do，あるいは be。be like that だと，be full of Laughing Gas の代用とも考えられる。do like that「あんなことをする」なら，この午後のウィッグ叔父さんの振るまいの全体を指す。How often は「どんなにしばしば」ではないよ。「しょっちゅう，あんなふうなの？」

2-22-B「ガチガチ訳」

❶家に帰る途中のバスの中で，彼らはメアリー・ポピンズのどちらかの側に座りました。

❷彼らは両者とも非常に静かだった。

❸それからマイケルは眠そうにメアリー・ポピンズに言いました。「いかにしばしばあなたの叔父さんは，あのようになるのか？」

2-22-C「なめらか訳」

❶帰りのバスの中で二人はメアリー・ポピンズの両側に座っていました。

❷二人ともとても静かでした。

❸それからマイケルは眠そうにメアリー・ポピンズに言いました。「叔父さんはしょっちゅうあんな風にしてるの？」

2-22-A

❹'Like what?' said Mary Poppins sharply.

Like what?

質問の中の like that を受けて,「あんなことって,どんなこと?」あるいは「あんなふうって,どんなふうのこと?」と聞き返している。

❺ She was very angry at Michael's question.

❻'Well, all laughing and bouncy and going up in the air.'

❼'Up in the air!' Mary Poppins' voice was high and angry 'What do you mean—up in the air?'

2-22-B「ガチガチ訳」

❹「何のように？」メアリー・ポピンズは鋭く言った。

❺彼女はマイケルの質問に非常に腹を立てた。

❻「そう空気中でのすべての笑いと，飛びはねと上がりと」

❼「空気中に上がって」メアリー・ポピンズの声は高くそして怒っていた。「空気中に上がった——あなたは何を意味するか？」

2-22-C「なめらか訳」

❹「どんなふうに？」とメアリー・ポピンズはピシャッと言いました。

❺彼女はマイケルの質問にとても腹を立てたのです。

❻「だから，笑いっぱなしで，はねまわって，空中に浮かんで」

❼「空中に浮かぶですって！」メアリー・ポピンズの声は**怒っているようで**した。「何を言ってるの——空中に浮くなんて？」

2-23-A

❶ Jane tried to make her understand.

❷‘Michael means—is your Uncle often full of Laughing Gas? Does he often bounce about the ceiling?’

❸‘Bounce about the ceiling! Bounce about the ceiling! You’ll tell me next that he’s a balloon.’

❹ Mary Poppins sniffed loudly.

❺‘But he did!’ said Michael.

‘But he did!’said Michael.

こういう場合，日本語としては「彼はやった」では通らない。「でも，そうだったんだ」というふうに，主語を落として，状況の方を漠然とさした方がわかりやすいのだ。日本語っておもしろい言葉だよね。

2-23-B「ガチガチ訳」

❶ジェインは彼女に理解させようと試みた。

❷「マイケルは意味する――あなたの叔父さんはしばしば笑いガスでいっぱいになるのか？　彼はしばしば天井のあたりを飛びはねるのか？」

❸「天井を飛びはねる！天井を飛びはねる！あなたは私に次には彼は風船であることを聞くでしょう？」

❹メアリー・ポピンズは大きな音で鼻をすすった。

❺「しかし彼はした」とマイケルが言った。

2-23-C「なめらか訳」

❶ジェインはなんとかわかってもらおうとしました。

❷「マイケルは聞いたのよ――あなたの叔父さんはよく笑いガスでいっぱいになるの？　叔父さんはよく天井ではねまわるのかしら？」

❸「天井ではねまわるですって！天井ではねまわるですって！こんどはあなたたち，私の叔父さんは風船だって言い出すんでしょ」

❹メアリー・ポピンズは音をたてて鼻をすすりました。

❺「でもそうだもん」とマイケルは言いました。

2-23-A

❻'We saw him.'

❼'What? Bounce like a rubber ball? What do you mean?

❽ My Uncle is a good, hard-working man, and you must speak politely about him.

you must speak politely,
　この must は義務というより，話者の相手に対する強い意志，ほとんど命令として働いている。

❾ And don't bite your bus—ticket! My Uncle—bouncing like a balloon!'

2-23-B「ガチガチ訳」

❻「私たちは彼を見た」

❼「何を？　ゴム・ボールみたいに飛びはねること？　何をあなたは意味するか？

❽私の叔父さんは良くて，よく働く人で，そしてあなたは彼については上品に話さなければいけない。

❾そして，バスの切符をかむな！　私の叔父さん――風船のように飛びはねていた！」

2-23-C「なめらか訳」

❻「ぼくら見たもん」

❼「何を？　ゴム風船みたいにはねかえるのを？　何を言っているんです？

❽私の叔父さんは立派な，働き者ですよ，叔父さんのことは礼儀正しくお話しなさい。

❾それから，バスの切符をかんではいけません！　私の叔父をはねまわる風船だなんて！」

2-24-A

❶ Michael and Jane looked across Mary Poppins at each other, and said nothing.

Michael and Jane looked across Mary Popins at each other,

　メアリー・ポピンズがまん中にいて，両側にマイケルとジェイン。「二人はメアリー・ポピンズ越しに，互いに顔を見合わせ」たわけだ。間に何かがあって，それを「越して」あるいはその「向こうへ」を示すのがacross.

❷ They knew now to leave Mary Poppins alone when she spoke like that.

They knew now to leave Mary Poppins alone.

　このto不定詞はknowの目的語の位置にあるので，want to～の形と基本は同じ。つまりto以下のことを知っていた，となる。ただし，意味としてはbe＋to不定詞「すべき」「することになっている」，あるいはhave to～「しなければならない」の特殊用法に準ずる使い方をしているので，ちょっとわかりにくい。ここは，They knew that they were to (had to) leave～を，縮めてしまった形と考えればいいだろう。

2-24-B「ガチガチ訳」

❶マイケルとジェインはお互いにメアリー・ポピンズを横切って見て，そして何も言わなかった。

❷彼らは今，彼女があのように話した時は，メアリー・ポピンズを一人でそのままにしておくことを知った。

2-24-C「なめらか訳」

❶マイケルとジェインは，メアリー・ポピンズ越しに，たがいに顔を見合わせましたが，何も言いませんでした。

❷二人にはもうわかっていたのです，メアリー・ポピンズがこんなふうに話す時にはほうっておくしかないと。

2-24-A

❸ But their eyes said to one another, 'Is it true or isn't it? About Mr. Wigg. Is Mary Poppins right, or are we?'

❹ But there was no one to give them an answer to *that* question.

❺ And soon, because they were very tired, they crept closer to Mary Poppins and fell asleep, still wondering....

They crept closer to......

creep は「はう」。ここでは「からみつく」意味の方だ。closer to 「より密着して」つまり「よりかかって」。

2-24-B「ガチガチ訳」

❸しかし，彼らの眼は一人からもう一人に言った。「それは本当か，あるいは本当でないか？　ウィッグ氏について。メアリー・ポピンズは正しいのか，それとも私たちが正しいか？」

❹しかし，あの質問に対する解答を彼らに与える人はいなかった。

❺そしてすぐに，なぜなら彼らは疲れていたので彼らはメアリー・ポピンズにより近づきすり寄ってそして，眠りにおちた，いぜんとして不思議に思いながら……。

2-24-C「なめらか訳」

❸でも，二人は目で話し合いました。「ほんとかな，それともそうじゃないのかな？　ウィッグさんのこと。メアリー・ポピンズが正しいのかな，それともぼくたちの方？」

❹でも，この質問に答えてくれる人が一人もいないのです。

❺そしてしばらくすると，とても疲れていた二人は，メアリー・ポピンズによりかかって，眠り込んでしまいました。あいかわらずいぶかしく思いながら……。

2-22-D

名詞化された表現は「〜したこと」という形で訳す

'Well, all laughing and bouncy and going up in the air.' (2-22-A❻)

Well,は「つまり，だから，ええと」といった感じ。all laughing以下，すべて名詞化した表現。日本語だと「〜したこと」という形。「笑いどおしだったこと，はねまわっていたこと，空中に上がったこと」。ただ，ここはもう眠くなったマイケルが思いつくまま言っているセリフというところなので，「〜して，〜て，〜で」とやった方が感じがつかめる。

'What do you mean—up in the air ?' (2-22-A❼)

「どういう意味—空中でとは？」よりここは「何を言ってるんですか」という叱責の感じにした方がいいところ。

2-23-D

第五文型と複文に書き換えてみるとわかりやすい

Jane tried to make her understand. (2-23-A❶)

try toの方はいいとして，make her understandはいわゆる第五文型というやつで，make＋人間目的語＋動詞の原形からなる。これはJane make that Mary Poppins (should) understand itの複文の形に変えて考えることもできる。「ジェインは，メアリー・ポピンズがそのことを理解するように，する」。あるいは，Jane make that it

was understood by Mary Poppins「ジェインは，それがメアリー・ポピンズによって理解されるようにする」。この二つの形をあいまいに両方含むのが第五文型なわけだ。ふつう，make her understand は make her to understand,「考えることを，彼女にさせる」の to が脱落して原形の動詞がくるようになった，と説明されるが，複文の二つの形が両方とも含まれるので，原形の動詞がくる，と考えた方が自然だろう。

mean以下の文は肯定文が導かれる ダッシュをおくことで疑問文も引かれる

Michael means—is your Uncle often full of Laughing Gas? (2-23-A ❷)

「マイケルが言いたかったのは」として，ダッシュで疑問文をつないでいる形。ふつう mean と置くと，以下の文は肯定文になるので，ダッシュをおくことで疑問文を次にもってこられるようにしている。だから Michael means は「マイケルがたずねたかったのはね」つまり，ダッシュ以下の質問だった，ととらえる方がいい。ようするに，ここでは，Michael wants to ask you if your uncle is often full of Laughing Gas, and often bounces about the ceiling. という内容を，ふつうの疑問形にしないで言うときに Is he right？に I wonder をつけると I wonder if he is right となって，ふつうの文の形のままで疑問文となる。

文庫版のためのあとがき

日本の英語教科書は高校一年生にあがるところで急に難しくなります。中学生の教科書はうしろの方が単語集になっていて，その単語さえ知っていれば簡単な英文は読めるということになっていました。ところが高校に入ると，英語の基礎事項は中学で習得したもの，と見なされて内容がどんどん難しくなってゆくのです。そして，私たちの多くは，じつはその基礎事項が理解できないまま高校生になってしまったのです。だから、「基礎ができていない」と言われても，その基礎とはいったい何なのかがわからないでポカンとしてしまいます。高校生になった私は，中学校の教科書をやり直そうと何度か思ったことがあります。でも，どこをどうやればよいのかついにわかりませんでした。

ふつうの日本人にとって最良の英語勉強法は，今でも，やっぱりNHKラジオの英語講座を毎日聞くことだと思います。日本の英語秀才たちのほとんどは，中学生の時にNHKラジオに毎日かじりついて上達した人たちなのです。しかし，この国で最良の先生たちによるラジオの授業でもまだ欠けているものがあります。英文の読み方と根本的な文法規則についての教え方において伝統的な硬直が見られるからです。そこで，この本では，私は私なりのわかりやすい英文の読み方のくふうをしてみました。

私の尊敬する哲学者のヴィトゲンシュタインという人は若い頃オーストリアの田舎の小学校の先生をしながら『国民学校のためのコトバ集』という本を書いています。その本には，オーストリアの子供たちにとって必要な日常単語が丁寧な解説付きで集めてあります。基本的なコトバをやさしく説明することを私はこの本でうまくできることを目指しました。

1999年11月　　　　副島隆彦

本書は、一九八五年十月に小社より刊行された
別冊宝島49号『道具としての英語　基礎の基礎』を改訂したものです。

道具としての英語　基礎の基礎（どうぐとしてのえいご　きそのきそ）

1999年12月9日　第1刷発行

編著者　副島隆彦
発行人　蓮見清一
発行所　株式会社 宝島社
〒102-8388 東京都千代田区一番町25
電話：営業部 03(3234)4621　編集部 03(3234)3692
振替：00170-1-170829 (株)宝島社
印刷・製本　図書印刷株式会社

乱丁・落丁本はお取替いたします

First published 1985 by Takarajimasha, Inc.

Printed and bound in Japan
ISBN4-7966-1650-0

宝島社文庫

Cの福音
楡 周平

クーデター
楡 周平

猛禽の宴
楡 周平

精神病を知る本
別冊宝島編集部 編

本物の心理テスト 12
津田秀樹 編・著

「陰謀」大全
別冊宝島編集部 編

口説きの理論
麻生カイコ+NAMPAの鉄人

目からウロコの漢字問題
津田秀樹 編・著

発明成金
別冊宝島編集部 編

伝染る（うつる）「怖い話」
別冊宝島編集部 編

音楽誌が書かない「Jポップ」批評
別冊宝島編集部 編

ザ・風俗嬢
別冊宝島編集部 編

この本のテキストは『メアリー・ポピンズ』の楽しい物語。たったの900語で書かれています。辞書を必要とするような単語は使われていません。それなのに、中学、高校の英語教育では、この物語をきちんと読めるようにはならないのです。それは、どうしてなのでしょうか？　この本は、本当に役に立つ英語の勉強がしたい人のために作られ、多くの読者を得たロングセラーの待望の文庫版です。

9784796616508

1920182005626

定価：本体562円＋税

ISBN4-7966-1650-0

C0182 ¥562E